

志木市「地区まちづくり会議」 活動実践報告書

地区まちづくり会議【第一期】

任期 平成26年7月1日～平成28年6月30日

「活動実践報告」に寄せて

私は、市長就任以来、『「市民力」再発見！夢と未来を語る、ふれあいあふれるまち志木』をまちづくりのスローガンに掲げ、「まちづくり35の実行計画」を定めました。その実行計画では、地域の皆さまと市職員とが市政の課題を共に共有できる仕組みとして「地域担当制」を導入し、平成26年7月より市内7地区にそれぞれの地区に住む26歳から86歳までの102人の皆さまと市担当職員35人の合計137人のメンバーによる、第一期「地区まちづくり会議」を2年の任期でスタートさせていただきました。



第一期の皆さまには、「地区まちづくり会議」の運用等に何も前例がないところから取り組んでいただき、相当なご苦勞であったと思われます。そうした中、1年目は、新たな仲間との出会い、議論を交わし、ともに汗をかくことで、徐々に信頼関係の絆が深まり、新たに生まれたコミュニティの輪の中で、「地域のことは地域で解決する」という意識がさらに醸成されました。仕上げの年となる2年目は、各地区において、良い点はさらに伸ばし、課題を解決に結びつけるための事業を積極的に展開していただきました。

上宗岡地区は、子どもたちとのコミュニケーションを図るために子どもを対象とした「かみむね★こどもまつり」を、中宗岡地区は、にぎわいを創出するためにダンスを中心とした「宗岡真ん中せせらぎ祭り」を、下宗岡地区は、住民相互の多世代交流を目的に「日本一？だるまさんがころんだ」を、本町地区は、「魅力」と「優しさ」をテーマに「本町どおりにベンチの設置」を、幸町地区は、住んでいる地域に目を向けてもらうことを目的に「幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～」を、館地区は、住民一人ひとりの将来の「まちづくり」を住民同士が考え合うことを目的に「街の未来を考えるシンポジウム」を、そして、柏町地区は、わかりやすい地域情報の共有と情報提供を目的に「かしわなほっとふれす」の発行をしていただきました。どの事業も地区の特性を十分考慮し、工夫が凝らされた大変素晴らしいものでありました。

いよいよここに活動実践報告が纏められました。皆さまのこれまでの成果とご提言は、お一人おひとりの汗の結晶であり、しっかりと今後の市政運営に活用してまいりたいと存じます。また、皆さまの「市民力」は、本市ならではの「市民協働によるまちづくり」を確立し、今後は第二期の皆さまに引き継がれていきます。

市民の皆さまと共に築くまちづくりが、一步一步確実に前進しており、私も本市の未来のために、一層邁進することを改めまして決意するとともに、皆さまのご苦勞に感謝申し上げます、実践報告に寄せる御礼のあいさつといたします。

ありがとうございました。

平成28年10月

志木市長

香川 武文

目 次

I	地区まちづくり会議とは	1
1	目的	1
2	設置理由と役割	1
3	内容	1
II	各地区まちづくり会議からの実践報告	3
1	上宗岡地区まちづくり会議	
(1)	上宗岡地区まちづくり会議委員名簿	3
(2)	上宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	4
(3)	上宗岡地区の課題について	6
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	8
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	15
(6)	まとめ	19
2	中宗岡地区まちづくり会議	
(1)	中宗岡地区まちづくり会議委員名簿	21
(2)	中宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	22
(3)	中宗岡地区の課題について	23
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	25
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	32
(6)	まとめ	38
3	下宗岡地区まちづくり会議	
(1)	下宗岡地区まちづくり会議委員名簿	39
(2)	下宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	40
(3)	下宗岡地区の課題について	42
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	43
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	49
(6)	まとめ	50
4	本町地区まちづくり会議	
(1)	本町地区まちづくり会議委員名簿	56
(2)	本町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	57
(3)	本町地区の課題について	57
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	59
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	62
(6)	まとめ	63
5	幸町地区まちづくり会議	
(1)	幸町地区まちづくり会議委員名簿	65
(2)	幸町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	66
(3)	幸町地区の課題について	66
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	66
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	81
(6)	まとめ	82

6	館地区まちづくり会議	
(1)	館地区まちづくり会議委員名簿	85
(2)	館地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	86
(3)	館地区の課題について	87
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	91
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	97
(6)	まとめ	100
7	柏町地区まちづくり会議	
(1)	柏町地区まちづくり会議委員名簿	102
(2)	柏町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色	103
(3)	柏町地区の課題について	104
(4)	課題を解決に結びつけるための事業について	107
(5)	夢のある地区のまちづくりに向けた提言	112
(6)	まとめ	116
Ⅲ	資料編	121
1	各地区まちづくり会議開催状況	
(1)	上宗岡地区まちづくり会議開催状況	121
(2)	中宗岡地区まちづくり会議開催状況	123
(3)	下宗岡地区まちづくり会議開催状況	125
(4)	本町地区まちづくり会議開催状況	127
(5)	幸町地区まちづくり会議開催状況	130
(6)	館地区まちづくり会議開催状況	133
(7)	柏町地区まちづくり会議開催状況	135
2	地区まちづくり推進本部会議開催状況	137
3	地区まちづくり会議リーダー会議開催状況	137
4	地区担当長連絡会議開催状況	138
5	研修会等の開催状況	140
6	各種要綱・規程	
(1)	志木市地区まちづくり会議設置要綱	142
(2)	志木市地区担当職員設置規程	145
(3)	志木市地区まちづくり推進本部設置規程	148

I 地区まちづくり会議とは

1 目的

志木市では、『市民の声がしっかりと市役所に届く仕組み』を実現するため、市内を7地区【上宗岡・中宗岡・下宗岡・本町・幸町・館・柏町】に分け、市民の皆さんと市職員がいっしょにまちづくりを考え、推進するため、それぞれの地区に「地区まちづくり会議」を設置しました。

2 設置理由と役割

① 設置理由

- ・市民の声が市にしっかり届く仕組みの実現
- ・市政の課題を共有できる仕組みの構築
- ・新たな市民力の発掘
- ・市民と市職員がともに汗をかく

② 主な役割

定期的に会議を開催し、地区のまちづくりについて話し合い、また、まちづくり活動を実践します。

- ・地区の特性による良い点及び課題の発見、また、地区住民自らによる課題の解決
- ・市民協働による地区の夢のあるまちづくりの推進
- ・まちづくり施策の提言

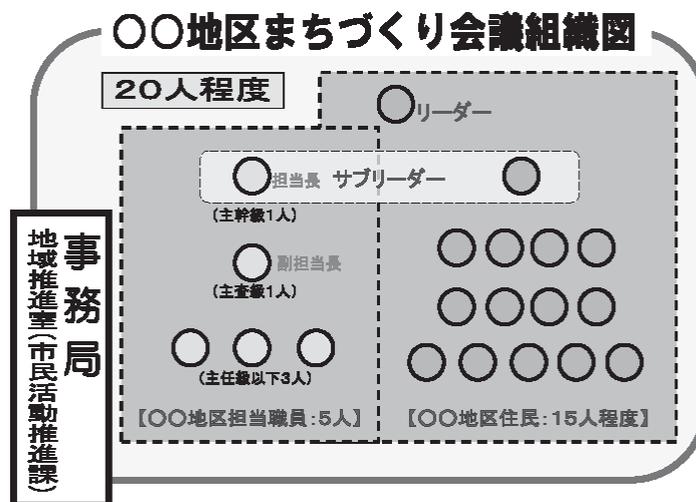
3 内容

① 組織

各地区20人程度で構成されています。また、本事業を円滑に推進するため、市民生活部市民活動推進課内に地域推進室が設置され、事務局となります。

住民委員…1地区 15人程度

職員委員…1地区 5人



② 任期

任期は、平成26年7月1日から平成28年6月30日までの2年間で、次による活動を実施しました。

1年目：地区の成り立ちなどの特性による、課題の抽出及び解決方法の検討

2年目：（1）地区の課題を解決に結びつけるための事業の実施

（2）活動実践報告書（課題解決の提言含む）の提出

③ 会議

活動日については、各地区において、より参加しやすい日時を協議し、月に1、2回の頻度で打ち合わせを実施しました。

II 各地区まちづくり会議からの実践報告

1 上宗岡地区まちづくり会議

(1) 上宗岡地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分		氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	高橋 剛	リーダー
2			八木 由子	サブリーダー
3			新井 和正	
4			石田 竜一	
5			賀佐 義勝	
6			鴨下 秀幸	
7			齋藤 千賀子	
8			篠田 浩子	
9			志村 佑也	
10			高橋 達彦	
11			抜井 晶子	
12			増永 輝久	
13			三上 彰一	
14			渡辺 雅樹	
15	第2号委員	職員委員	石川 敦久	サブリーダー
16			松田 淳	
17			関口 智美	
18			神田 浩	
19			坂本 幸大	

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	14人	10人	4人
第2号委員	5人	4人	1人

(2) 上宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 活動拠点 総合福祉センター

◆ 上宗岡地区のプロフィール及び特色

上宗岡地区は、志木駅やふじみ野駅、南与野駅からのバスが走り、バスの運行本数が多いこともあり、バス通りを中心に栄えている地区です。スーパーやコンビニエンスストア、商店街など多数の商店や、信用金庫や病院など金融・医療の面で市民を支える機関のほか、秋ヶ瀬スポーツセンターやスーパー銭湯、ゴルフ練習場などのレジャーを楽しめる施設も多数存在しています。

また、浅間神社、宿氷川神社、大仙寺などの社寺や、田畑、園芸、酪農、そして市民農園など農地もあり、賑々しい部分だけではなく、閑静な面も多数うかがえ、バランスのとれた地区という見方もできます。ただし、最近では、農地から戸建てへの宅地化が進み、新住民が多くなっていることも特徴の1つです。

加えて、羽根倉橋や高層マンション等から見える富士山、せせらぎの小径や新河岸川沿いの土手から見える桜などの美しい景観を目の当たりにできることや、サッカーのプロスポーツ施設も存在しています。

このほか、小学校2校、中学校1校、県立高校1校、総合福祉センター、秋ヶ瀬スポーツセンターなど公共施設兼避難所が6ヶ所も存在するため、災害等に強い地区であるともいえます。



荒川土手から見える富士山

◆ 上宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

上宗岡地区まちづくり会議は、20代から70代までの幅広い年齢構成で、市民14名、職員5名の19名で構成された、熱く賑やかで、女性が元気な地区まちづくり会議となっています。

若い人も年配者も活発に意見を言い、ときには議論が白熱することもあります。みんなで協力して事業や提言書について話し合ってきました。

活動拠点は、主に上宗岡にある総合福祉センターを利用し、議論を重ねてきました。また、平成27年度の総合福祉センターが工事中の際には、志木市役所の会議室を代用しました。

当地区では、この2年間、毎月2回（一部の月は、1回）ほど、市民と職員が集まり、調査や活発な意見交換等をしてきました。ときには、みんなで外に出て、上宗岡地区を歩くことで生の情報や問題点を発見したり、あるいは商店や町内会等にご助言をいただき、まちづくりを進めてきました。



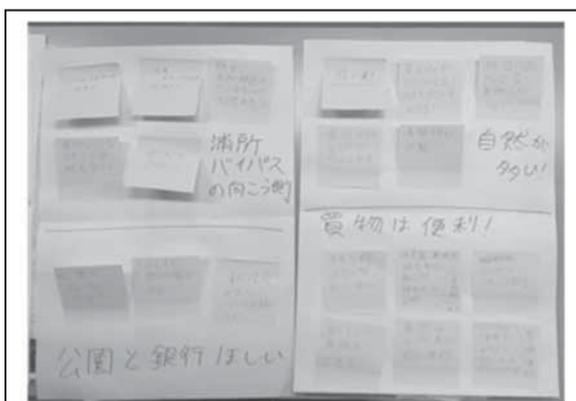
会議の様子

(3) 上宗岡地区の課題について

上宗岡地区まちづくり会議では、ブレインストーミングやフィールドワーク等を通して、上宗岡地区の“特徴”と“課題”を抽出しました。

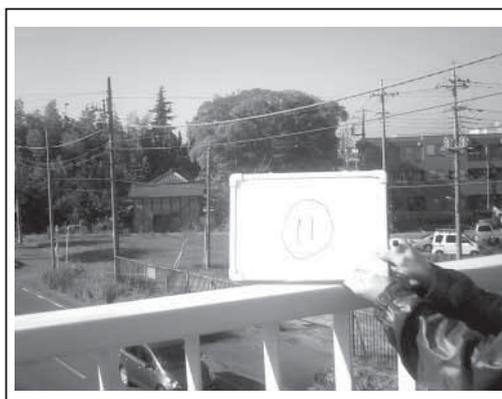
ブレインストーミングでは、思いつく限りの特徴（良いところも悪いところも）を各自が付箋に書き出し、その付箋をグループ化して整理し、この情報をさらに地図に落とし込み分析を行いました。なお、テーマが同じでもメンバーによって方向性が変わる可能性もあるため、班替えをしながらこの作業を何回か繰り返しました。

フィールドワークでは、実際に自分たちの目で現状を確かめるため、3グループ（①秋ヶ瀬スポーツセンターコース、②羽根倉歩道橋コース、③宗岡銀座コース）に分かれ、デジカメで写真を撮るとともに、会議で出た意見を意識しながら上宗岡を歩きました。その後、デジカメの写真を見ながら、各グループが実際に歩いてみて気づいた点などを発表しました。



<ブレインストーミング>

委員それぞれの視点から、多様な意見が出てきました。



<フィールドワーク>

地点ごとに番号を振り、写真とメモで、その様子を記録していきました。

これらの結果、上宗岡地区の“特徴”と“課題”について、多くの意見が出てきました。

“特徴（良い点）”としては、自然が豊か、お店が多く買い物に便利、地区の中に学校・幼稚園・保育園・公共施設が揃っている、災害が起きたときの避難場所が多いなどの意見がありました。

また、“課題”については、道路が狭く危険な場所がある、地元の商店に元気がない、街灯が少なく夜間に暗い場所がある、などさまざまな意見がありましたが、特に意見が多かったものや関連性の高いものをまとめてみると、次のものが主な課題としてみえてきました。

<主な課題>

- ① 交通の便などが悪い場所がある（バス路線がない）
上宗岡3丁目にバスが通っていない。また、ポストが1つもない。
- ② レストラン・喫茶店など、しゃべれる店がない
ファミリーレストランや喫茶店等、人が集まって飲食できるコミュニケーションの場が少ない。喫茶店やファミリーレストランは、食事やコーヒーなどを飲むことだけが目的ではなく、人と話すことができる場所である。
- ③ お祭り、大きなイベントがない
上宗岡には、大きなお祭りを行う神社がない。昔ながらのお祭りが少ない。
- ④ 子どもが遊べる場所がない（公園が少ない）
上宗岡には公園が少なく、子どもたちが志木ハイデンス近くの公園や志木ハイデンスの中にある公園で遊ぶことがある。その際、住民から苦情が出ることもあり、子どもが遊びづらい環境にある。

これらの課題を、解決に結びつけるためにはどのようにしていったら良いのか、上宗岡地区まちづくり会議では、話し合いを進めていきました。

上宗岡の特徴まとめ

- ・コンビニ、お店が多い
- ・公共的施設が多い(保育園、幼稚園、学校、公共施設、病院、老健、お寺、神社)
- ・景色が良い(富士山、スカイツリー、田園風景、土手)
- ・球団がある(アルディージャ)
- ・街灯が少ない場所がある
- ・公園が少ない、子どもが遊べる場所がない
- ・交通の便が悪い場所がある(3丁目、循環バス路線の中央)
- ・コミュニティが薄い(アパート、小規模マンションの増加、町内会加入率の低下)
- ・外食できる場所、コミュニティスペースが少ない
- ・郵便局がない、ポストが少ない(宗岡郵便局は駐車場がない)
- ・祭り、大きなイベントがない
- ・団体同士の連携が取れていない(町内会、学校)
- ・小学生の通学路に歩道の整備が不十分などところがある

要望事項

- ・新たな交通手段検討プロジェクトチームに、3丁目の交通手段の確保を要望
- ・駐車場のある郵便局の誘致、ポストの設置
- ・254バイパス開通に合わせて、道の駅設置や飲食店(コミュニティカフェ等)の誘致

事業案

- ・上宗岡MAPの作成、上宗岡地区全戸配布
- ・(仮称)せせらぎ祭り、ビアガーデン、ウォークラリーの実施

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

上宗岡地区では、前述した課題を解決するためにどのような事業を行うかを話し合い、次の2つの事業を行いました。

事業 ①

住んでいる方にもっと地元を知っていただくためのマップ作り
かみむね★のんびり♪まちあるき～上宗岡再発見マップ～事業

事業 ②

地域コミュニティの活性化を図るためのイベント
かみむね★こどもまつり事業

○ 事業 ① かみむね★のんびり♪まちあるき ～上宗岡再発見マップ～事業の概要

このマップは、地域住民の皆さんに上宗岡のことをもっとよく知っていただきたい、地域のお店を活用して地域の活性化につながってほしい、という思いで作られています。

マップを作り上げたプロセスとして、まず、グループに分かれ自分たちの足で実際に地区を歩いて回ることから始まり、上宗岡の中のどの場所になにがあるかを再認識しました。

歩いて集めた情報を基に、どういうマップを作り上げたいのか会議を行ったところ、委員の中には、初めてこんな場所があったと驚いた人もいたこともあり、地域住民でも知らない上宗岡のことをもっと知っていただきたい、という方向で作ることが決まりました。

本来であれば、マップのデザインなどは、業者に頼んで校正を繰り返していくところですが、委員の中に自分で作れる人がいたため、業者に頼まずに作り上げることが出来ました。

地図に載せる内容としては、目印となる大きな建物や地元の商店のほか、花見ができる場所、バス停、公衆トイレ、避難所など、上宗岡に住んでいる方に役に立つものを中心としました。

次に、上宗岡地区にあるお店（コンビニや大型店舗は除く）にうかがい、出来上がったマップの原稿を基にマップ作りの趣旨を説明し、マップに情報を載せても良いか、確認を行いました。理解が得られたお店については、お店の外観や従業員の方の写真を撮らせていただき、自分のお店の紹介文を書いていただきました。

最後に、会議の中で配置や配色などの細かい調整を行い、名前を「かみむね★のんびり♪まちあるき～上宗岡再発見マップ～」と名付け完成させました。

完成したマップは、上宗岡地区の住民に全戸配布しました。

かみむね★のんびり♪ま ～上宗岡再発見マツ



荒川土手から見える富士山

- ① 岩井接骨院 TEL:048-487-0367
時間外も
- ② 居酒屋 あやの TEL:048-473-8483
昼の部 12:00～18:00 夜の部 18:00～22:00 (休日火曜日)
- ③ 生そば たけのや上宗岡店 TEL:048-473-4268
自慢のそば、うどん、御飯井のお店、出前迅速
- ④ とんかつ鶴巻 TEL:048-473-3965
営業時間11時～14時、17時～20時 水曜定休
- ⑤ 大畑書店 TEL:048-471-1488
見積、相談、無料です。
- ⑥ 宗岡鍼灸接骨院 TEL:048-476-8910
平日夜8時、土曜午後2時まで受付、急患随時ご相談ください。
- ⑦ 小料理 桂 TEL:048-487-5434
手打ちうどん、まぐろ料理と生もの。おいしいラーメンもあります。
- ⑧ 門井整骨院 TEL:048-485-4100
ほねつぎ、はり、灸 健康保険、自賠責保険 取扱い
- ⑨ 細田ツーリング TEL:048-473-0388
ホンダ二輪車、自転車、販売、修理、点検、車検、保険、月曜定休
- ⑩ 尾石サイクル TEL:048-471-5338
自転車・バイク 販売修理 毎週月曜定休
- ⑪ ノエビア化粧品 TEL・FAX:048-473-7481 (090-4416-9911)
敏感肌の方一度お試しください。植物成分配合 自然派基礎化粧品。
- ⑫ 居酒屋 笑楽 TEL:090-4825-6858
生ビール、年を通しておいてます。コーヒーもあり。
- ⑬ ハマウラクリーニングフランセ店 TEL:048-473-1800
急ぎ仕上げもできます。お申し出ください。
- ⑭ 中国料理 五番 TEL:048-473-1285
当店の自慢は手作り餃子



- 凡例
- ① 個人商店等
 - ② 飲食店
 - ∴ 史跡等
 - ♻️ トイレのある場所
 - 🌸 桜の咲く場所
 - 🌸 コスモスの咲く場所
 - 🐷 豚のいる場所
 - 🐮 牛のいる場所

発行:平成27年10月1日
制作:第1期上宗岡地区まちづくり会議

上宗岡地区まちづくり会議では、地域住民の方に、自然豊かな上宗岡をもっと知っていただき、地域のお店を利用してもらいたいそしてそれが地域の活性化につながる、と考えてこのマップを作成しました。このマップを片手に、散歩にでも出かけてみませんか？

ちあるき プ〜



荒川土手から見えるスカイツリー

- 15 川魚料理 鯉清 TEL:048-471-1188
明治11年創業のこだわりの味をご堪能ください。
- 16 細田鍼灸院 TEL:048-472-3333
当院のはりきゅう・マッサージは治る力を引き出します。
- 17 宗岡ユニホームセンター TEL:048-474-0780
あなたの街の作業服の専門店・ネームシシユウは一枚からOK!
- 18 Bistroしもとり TEL:048-474-2099
イタリアン・フレンチのお店
- 19 ワカバ薬局 TEL:048-470-1690
どちらの処方せんでもお受けいたします。お気軽にお立ち寄り下さい。
- 20 カフェ ド マロン TEL:048-485-9109
営業時間 10:00~19:00 季節によって変更あり。
- 21 ペットショップタローズ TEL:048-487-5527
(営業時間) AM9:00~PM7:00 火曜定休
- 22 宮下金物 TEL:048-472-3829
建築・土木の道具専門店。夜明けより営業中!
- 23 山一フラワー TEL:048-472-6223
花 予約承ります
- 24 やきとり料理 和 TEL:048-476-2652
炭火焼やきとり&料理、お刺身等
- 25 美津木屋 TEL:048-474-7400
純手打うどん、そば
- 26 風月堂 TEL:048-471-0205
和菓子製造販売
- 27 居酒屋みどり TEL:080-6663-9015
午後5時~11時まで営業
- 28 魚よし TEL:048-473-3765
旬の魚でお寿司、お刺身造ります。美味しい鮎もあります!
- 29 魚菊 TEL:048-474-5063 FAX:048-473-0464
鮮魚 各種御料理 仕出し折詰
- 30 (有)マルシンミート TEL:048-474-1298
精肉、総菜、弁当、やきとり
- 31 (有)ホームインテリア本間 TEL:048-471-4560
リフォーム、オーダーカーテン、見積無料。
- 32 高山商店 TEL:048-471-5202
各種タバコ取り扱いしています
- 33 第一歯科医院 TEL:048-474-3108
AM9時30分~12時 PM14時~19時 予約制
- 34 すこやか治療院 TEL:048-424-2027
平日9時から17時まで 予約制

志木ハイデンス脇にある『日行星山碑』について

この碑には、『大教正日行星山彦命』とあり、上宗國に任んでいた日行星山(本名:星野助蔵)を祭った碑です。

星野助蔵は、明治5年に始まった浅間神社の羽根倉富士嶽の築造に参加するとともに、明治25年6月に吉田胎内樹型(後に天然記念物に指定)を発見しました。

明治13年に富士北口教会長から日行星山の行名を受け、昭和8年に没後、神道修成派管長より一等大教正を授けられています。

吉田胎内樹型は、富士山が世界遺産登録された時にも、その一部として認定されています。

○ 事業 ② かみむね★こどもまつり事業の概要



スタッフ用Tシャツ



マスコットキャラクター
このはなさくやちゃん

会議の中で出ていた意見で、公園が少なく子どもの遊ぶ場所がない、住民同士のコミュニティが希薄化している、というものが多く出ていたことから上宗岡地区の子どもを対象としたお祭りを開催しました。

来場者にスタッフがわかりやすいように、スタッフ用Tシャツを作成したり、志木高校イラストコミック部に依頼し、マスコットキャラクター「このはなさくやちゃん」をデザインしていただきました。

日程は、平成27年11月8日（日）、総合福祉センターを会場とし、次のようなさまざまな催し物を行いました。

かみむね★のんびり♪まちあるき～上宗岡再発見マップ～を使って、10ヶ所の宝箱が描かれたチェックポイントを見つけ、上宗岡に関する数字を探し歩く「上宗岡まるごとウォークラリー」。

駄菓子販売、わなげ、お菓子釣り、ぶんぶんゴマづくり、スーパーボールすくいを行った「ミニ縁日」では、子ども会や委員と知り合いの子どもたちが、お店番をしてくれました。

J Aあさか野女性部宗岡支部の方に講師として来ていただき、地元でとれた農産物を使って、おにぎらずや豚汁等の料理を作った「親子料理教室」。

飛んだり跳ねたり、滑り台で降りたりできる、遊園地などにもあるエア遊具の「ふあふあ」。上宗岡地区で活動しているオール志木ウインド、志木レクリエーションクラブ(SRC)、宗岡中学校吹奏楽部、ミサキッズ、志木高校吹奏楽部による「ステージ発表」。当日は、あいにくの雨でしたが、たくさんのお客様に来ていただきました。



まつり前日の意気込み



上宗岡まるごとウォークラリーのチェックポイント



ミニ縁日（スーパーボールすくい）



親子料理教室



ふあふあ



ステージ発表（オール志木ウインド）



ステージ発表（SRC（ヨガ））



ステージ発表（宗岡中学校吹奏楽部）



ステージ発表(ミサキッズ)



ステージ発表(志木高校吹奏楽部)

○ 事業収支

支 出：550,463円

収 入：23,250円

実 費 用：527,213円

支出内容：料理教室講師謝礼、食糧費、イベント保険料、エア遊具賃借料、会場使用料、その他消耗品費

収入内容：ウォークラリー・料理教室参加費、縁日売上

○ 全体を通しての結果

事業の1つ目となる「マップ作り」については、上宗岡地区の全戸に配布したことから、住民の皆さんにも上宗岡を再認識していただく良い機会になったことと思います。

事業の2つ目「イベント」については、雨にも関わらず大勢の方に参加していただくことができたので、一定の成果は上げられたと考えています。

しかし、両事業に言えることですが反省点も多くあり、周知方法としては、クラス単位に分け小中学校にチラシの配布や、広報しきに掲載しましたが住民の皆さんの認知度が低く、PRについては、ほかの方法も考える必要があったかもしれません。

また、課題としては、今回のイベントは初めての試みであったことから、認知度を上げるためには、今後についても、なんらかのかたちでイベントを継続して行っていく必要があると考えます。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

ア 課題を解決に結びつける方法や手段

上宗岡地区まちづくり会議で提案する課題解決の手段は、「地区のコミュニケーション手段を作る」ことです。

まちづくり会議での活動を行う過程では、「地域のコミュニケーションが活発に行われていない」、「地域の情報を発信／受信できる手段が少ない」という意見がありました。「かみむね★こどもまつり」を実施した際、「イベントがあったことを知らなかった、知っていれば行ったのに」という委員の知り合いもいたそうです。

このようにコミュニケーション手段を作るためには、次の3つの方法を提案します。

① 地域掲示板の設置

地区内の公共施設に、地区の学校やサークル、活動団体のイベントや会員募集など、知らせができる「地域掲示板」の設置を提案します。

- 市役所掲示板とは異なり、学校事業や秋ヶ瀬スポーツセンター、総合福祉センターで活動している各種団体やサークルなどの情報（イベントや内容、会員募集など）を積極的に掲示します。
- 人が多く集まる公共施設の入口（総合福祉センターのロータリーや福祉センターの入口付近など）等に設置することで、より多くの人に地域活動を知っていただく手段となります。

② 地域コンシェルジュの設置

小学校や地区の団体などの情報を発信できる「地域コンシェルジュ」の創設を提案します。

- 現状では、さまざまな団体が活発に活動を行っています。しかし、イベント時期が重複したり、情報不足で集客できないことも多く見受けられます。
- 「地域コンシェルジュ」は、官民の垣根なく、既存の施設・団体をもっと有効に活用して情報収集・発信をするための仕組みです。
- 地区の公共施設などに窓口を開設することも手段の1つですが、専任の人がいなくてもいいと思います。地域の情報を集約し、「ここに聞けば、地域のことがわかる」という、窓口を作ることです。
- 人でなくとも、「地域情報サイト」といった手法も考えられます。
- 特に近年、上宗岡地区は宅地化が進み、これからも現役世代の転入が増えてくるものと思われます。これまで、ずっと住み続けてきた方だけではなく、新たに上宗岡地区に加わる仲間たちも情報を受け取り、地域の輪に入っていただくための情報発信／受信の仕組みが必要です。

③ 広報しき等の配布の拡大

広報しきを、現在の町内会や公共施設での配布に加え、幼稚園、保育園、小中学校での配布を提案します。

- 子育て世代の方に、地域と市の情報が両方掲載されている広報しきを確実に手に取っていただくため、幼稚園、保育園、学校でも配布します。
- また、公共施設で活動している団体の案内を集めたチラシなどを作成・配布してはいかがでしょうか。
- 配布の重複や費用面など、難しい面は多々あるとは思いますが、これからを担う世代は、地域に関心を持つことが大切だと思います。

イ 期待できる効果

地域のコミュニケーション手段が強化されることによって、地域活動への参加者増加を見込むことができます。

地域活動に参加する方が増加することにより、地域力が強化されることとなります。地域力の強化には、次のような効果があります。

- 災害時での住民同士の助け合いが強化される。
- 子どもが参加する地域活動が活発化することで、子どもを地域で育てるという意識が醸成される。
- 活気のあるまちになることで、商店会等の活性化にもつながる。

ウ 将来の地域のあるべき姿のイメージと今後の課題

上宗岡地区まちづくり会議の活動は、活動の初期に課題の抽出を行い、その抽出された課題をどのようにして解決すれば良いのかを検討し、それを解決するための事業を実施してきました。その活動の過程では、さまざまな意見が交わされ、その中で意見が出たもののうち、地区の課題としては大きく分けて次の2種類がありました。

1つは、「まちづくり会議では解決できない課題」です。これは、道路の危険個所の改修など、ハード面の課題が多く含まれます。

もう1つは、「まちづくり会議や上宗岡地区の住民の協力により解決できる課題」で、主なものは、地域コミュニティの活性化といった、ソフト面での課題が多く含まれます。

上宗岡地区まちづくり会議では、活動の初期からこの2つの課題について、さまざまな議論が交わされてきました。その結果、「自分たちの地区の課題解決のうち、自分たちができることをしよう」という考えから、上宗岡再発見マップを作成し、「かみむね★こどもまつり」を実施しました。

しかし、まちづくり会議では解決できないハード面等の課題についても、地区の課題として、依然、残ることにはなります。上宗岡地区まちづくり会議では、このハード面の課題についての解決策の検討は行っていないため、まちづくり会議としての解決策を示すことはできませんので、上宗岡地区に存在する課題として提示するにとどめます。

① 地域コミュニティが活性化した上宗岡

将来的な姿の1つ目としては、「地域コミュニティが活性化した上宗岡」です。

これまでも述べてきたように、上宗岡地区では、一定の地域活動が行われているにも関わらず、地域住民がその存在をまだまだ知らない状況があると考えられます。また、これは上宗岡地区固有の問題ではないと思いますが、新しい住民の中には町内会への入会を拒否する方も少なからずいます。こういった状況への対策を行っていかねば、地域コミュニティはますます衰退していくばかりです。

情報発信／受信の仕組みを強化することで地域活動を強化し、活性化した上宗岡となることが、地域づくりの第1歩であり、地域に存在するさまざまな課題の解決の礎にもなると考えています。

とにかく、地域コミュニティの重要性を繰り返し伝えていくことが大切であり、そのための環境作りも必要だと思います。例えば、上宗岡で最も大きい施設である総合福祉センターのお祭りを、町内会、子ども会、PTAなどを巻き込んだ地域の大きなお祭りに発展させていく、といった事も考えていくべきではないでしょうか。

② 住んでいる人に愛される上宗岡

将来的な姿の2つ目は、「住んでいる人に愛される上宗岡」です。

上宗岡地区は、荒川の堤防から、富士山や東京スカイツリーなどがよくみえます。初日の出のときなどは、毎年、多くの人が堤防に集まります。

「富士講」が行われている浅間神社や、富士山の吉田胎内樹型を発見した日行星山にちぎょうせいざんの石碑もあるなど、富士山と縁のある土地でもあります。もちろん、富士山だけではありません。上宗岡には、ほかにも自慢できる場所があります。住んでいる人々に、こうしたことを知っていただき、まずは住んでいる皆さんに愛着をもっていただき、「上宗岡に住んでいてよかった」と思えるようになれば、地区の外からも、自然と上宗岡に人が訪れるようになると思います。

外からも人が訪れるようになれば、上宗岡を観光地化することも夢ではないと思います。国道254バイパスの開通に向けて、道の駅の設置の検討や、季節の花の植樹、富士山が見える場所に双眼鏡の設置なども、良いのではないのでしょうか。

③ もっと安心して住める上宗岡

将来的な姿の3つめは、「もっと安心して住める上宗岡」です。

交通、防災といったことについて、こうなれば地区の子どもたちや高齢者がもっと安心して住めるのではないか、という意見が出ました。

デマンド交通の実施によって改善された部分がありますが、例えばポストがない地域があるなど、依然として問題も多くあります。

上宗岡のマップを作るために地区内を歩いたときに気付いた「ハード的な課題」が主なものとなり、上宗岡地区まちづくり会議では、解決策の検討には至りませんでした。このため、次に挙げた課題は、あくまでも地区まちづくり会議から出た意見ということで、要望や提言といったものではありません。課題の提示にとどめさせていただきます。

【浦和所沢バイパスの下を通る道路について】

歩道が狭いと感じる。子どもの通学路にもなっているため、なにか対策ができると、より安全になると思う。

【災害発生時の避難所について】

宗岡第二小学校が避難所になっているが、浦和所沢バイパスの下を通る道路から移動しなければならない地域がある。大地震の際など、もっと安全に避難できると、より安心できると思う。

エ 今後のまちづくりにどのように生かせるか

「将来の地区のあるべき姿と今後の課題」は、上宗岡地区まちづくり会議の2年間の活動を通して感じたことをまとめたものです。

この活動実践報告書を読んでもらった住民の皆さんや、次の地区まちづくり会議の皆さんが、「こんなことを感じながら活動していたのだな」と共感していただけたら、または違う視線、違う意見だとしても、なにかを感じていただけたなら、その感じたことを基に、自分でできることを発見し、実践に移していただけたのであれば、それが今後のまちづくりに生きていくことになると思います。

上宗岡地区の課題と考える「地域のコミュニケーションが活発になること」のために必要なことは、地域での活動を、できる範囲で少しでも実践することだと考えます。それができれば、自然と課題も解決していくものと考えています。

(6) まとめ

◆ 2年間の任期を振り返っての感想

* P T Aの立場から地域に貢献したいということで応募し、活動を始めました。問題点の抽出やマップ作成は協力できたのですが、昨年4月から仕事はかなり忙しくなり、なかなか会議に出席できず、ご迷惑をお掛けしました。まつりが成功したのが一番の思い出です。

忙しい中でも何とか2年間活動できたのは、皆様のお陰だと思っています。貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

* まちづくり会議に参加したきっかけは、友人からの声かけでした。

さまざまな立場の方と同じ方向に目を向け考え行動することで、上宗岡を知る良い機会となりました。

今回のまちづくりを通して地域をさらに活性化させるには、人とのコミュニケーションが大切だと改めて感じました。

* 私は上宗岡地区が、少しでも活気ある住みやすい所になればと思い、この会議に参加しました。

事業成果も初めてにしては成功に終わったと思う。これからも会議中に討論した事柄が一つでも良いから実現できれば最高であり、第二期の委員に託したい。各委員には大変お世話になり感謝します。

* 皆さんの熱い思いの意見に緊張し、充実した生活を送らせていただき感謝します、有難うございました。上宗岡地区での会議で最初に地区のマップを制作したこと、イベントの子ども祭りをしたことは少し地域を理解でき問題点も浮き彫りになり、更なる地域の発展・活性化はこれからだとも思います。協力は惜しみません。

* 第一期の間、まちづくり会議の委員内で年齢性別を越えて、意見交換・事業実施などで、いままで経験する事の無かった貴重な体験が出来ました。

この経験を活かして、これからも色々と活動したいと考えています。

*安全・安心、住みよい、まちづくりを基本の考えとしてスタートし、委員全員で多くの会議を重ね、地区の良い点、悪い点を見出すべく（マップ作り、イベント）を行いました。

結果、問題点が多く浮かび上がり、課題が非常に多いと気付かされました。

（以下、課題として）

- ① 上宗岡3丁目のバス停、商店、ポスト、歩行者用道路等の不備
- ② 災害時（地震、水害）の避難路、避難所の見直し
- ③ コミュニティ不足（町内会、他団体との交流）
- ④ 羽根倉橋付近の観光地化の推進

以上のような課題や問題解決を早急に推進させることが必要と考えられます。

*なかなか会議に参加できませんでしたが、少ない参加回数の中なかでも、多世代の近所の方々と『地域をよりよくするために考える』ことは、色々な気づきがあり、とても楽しい経験でした。また、この会議のおかげで、町中で「こんにちは」と声をかけあう知り合いも増えました。みなさん、どうもありがとうございました。

*なんのお役にも立てませんでした。

障がい者である身、少しでも障がい者の立場、目線からの提案を出来たら良かったのですが、体調不良により出来ず残念でした。

これからのまちづくり会議が有効になりますように。

*今回の上宗岡地区まちづくり会議は、私の仕事上、曜日と時間が合わず出席が余りできませんでしたので、自分の意見を出すことが出来ず、ただ、決まったものを見るだけでしたのでとても残念でした。

これからも志木市がもっと良くなるように出来るだけ協力をしていきたいです。

*いろいろな年代の方との交流・意見交換をして良い時間が過ごせたかと思えます。しかし、もう少し年代が近い方がまとまっていた方が良かったかとも思います。

年齢が下の立場からするとそう感じました。

2 中宗岡地区まちづくり会議

(1) 中宗岡地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分		氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	関根 正男	リーダー
2			新沼 健	サブリーダー
3			池田 怜生	
4			小日向 ゆかり	
5			近藤 訓	
6			高田 裕道	
7			田辺 達次	
8			中村 啓之	
9			濱岡 健夫	
10			細田 和子	
11			堀 武史	
12			米山 益美	
13	第2号委員	職員委員	佐々木 大司	サブリーダー
14			浅香 瑛	
15			小堀 健	
16			鈴木 康修	
17			二瓶 聡	

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	12人	10人	2人
第2号委員	5人	4人	1人

(2) 中宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 活動拠点 宗岡公民館

◆ 中宗岡地区のプロフィール及び特色

中宗岡地区の土地柄は、東は荒川、西は新河岸川が流れており、この水に恵まれた状況によって水田農業が盛んになっていたが、近年の都市近郊に伴う宅地開発が進み、農地のほとんどが荒川堤外に残る状況である。地区内には歴史のある天神社や氷川神社があり、神社の祭礼は活発に行われており、地区の盛り上げに寄与しているほか、新河岸川河川敷のいろは親水公園や、地区の中央を南北に縦断する「せせらぎの小径」が設置され、住民の憩いの場所となっている。

また本地区は、宗岡地区を東西に縦断する広範な地域であり、県道「浦和・東村山線」を中心として両脇に点在する商業店舗や飲食店舗、更には店舗に連なる住宅地からなる地域性は、かつて水田が広がっていた古き時代の景観から、残された農地が国道254バイパス計画の予定地として買収された木杭フェンスに囲われる時代の変遷を経て、近い将来に再び大きな景観の変更が予想される特殊な地域でもある。

さらに、中宗岡地区は宗岡三区、宗岡四区、ニューハイツの各町内会区域の全部と上木、宗岡五区及び六区町内会の一部を含む6つの町内会にまたがり、小学校区にいたっては、宗岡小学校をほぼ中心に、宗岡第二小、宗岡第三小、宗岡第四小の4つの学校区にまたがっている状況である。

◆ その他特記事項

地区住民委員のメンバーには、これまで町内会や子供会、福祉のボランティアなどの地域活動を行ってきた人もいれば、道路や公園などの公共施設、行政運営への関心や興味のある人、あるいは全く初めてこうした活動に参加する人など、様々な考えを持って集まっていることから、共通課題の選択や方向性を定めることに時間がかかることが当初から予想された。

(3) 中宗岡地区の課題について

中宗岡地区の課題については、平成26年8月から11月にかけての会議で意見の抽出に努めた。その結果、次のような意見が上がった。

- 子どもを含む住民同士の挨拶は、住民の親近感、連帯感、高齢者の生甲斐感の醸成、犯罪防止等に効果があり、地域の安全安心と活性化に資するはずである。
- せせらぎの小径は、老朽化が進み様々な不都合、不具合が生じているが、市民憩いの場として復活、活用すべきである。
- 親水公園を地域活性化の起爆剤として利用すべきである。
- 国道254バイパス用地の市民利用を進めるべきである。このバイパスが完成した時、宗岡地区はどう変わるか、どう変えたいかを考え、まちづくりに織り込むことが必要である。
- 地域内の生活道路を安全安心なものにするべきである。
- 民間保育園を公立保育園と同様に、あるいは組み合わせて地域活性化に活用したい。
- 中宗岡にも空き家が増えており、その活用には問題も多いが、何とか地域の活性化に活用したい。
- 地域には様々な活動をしているグループが沢山あり、そのグループの持つ地域の生の情報や希望、意見等、更には人脈の活用がまちづくりにには不可欠である。
- 2代目、3代目の若者がUターンして来ている例も少なくない。若者が住みたいと思えるまちづくりをしたい。その為には、未来に対するビジョンづくりが必要である。

これらの様々な意見を集約すると、以下の4つが今後の議論のキーワードになることを確認。

- ① いろは親水公園の活用
- ② せせらぎの小径の改善
- ③ 国道254バイパスの影響
- ④ 公園、広場の整備と活用

その後の会議においては、以下の地区内の課題を挙げて議論。

- ① 住民交流の場 案：サロン（高齢者・育児・総合的）
- ② 国道254バイパス買収済用地の有効活用 案：児童公園・ゲートボール場
- ③ あいさつ運動 案：登下校時の地域住民への協力
- ④ 児童の放課後対策 案：校庭解放、NPOとの連携、下校放送の継続
- ⑤ 親水公園 案：ウォークラリー、祭り、手作り団子・うどん、露店、新河岸川の清流化と船着き場の運用（川越とコラボ）

⑥ せせらぎの小径 案：音楽祭、文化祭（吹奏楽・お囃子・弧童・バンド演奏・ダンス）

これら各委員からの思いや考えを出し合うことで現状を認識し、それらをまとめていく方法で課題や問題点の抽出が行われた。

また、地区内のまち歩きを行い、現地を知ることで現状と課題等の抽出の補強を行った結果、課題や問題点の主なものは次のとおりとなった。

- ① 歴史がある地域だからこそ、新しい住民が溶け込みにくく、地域のつながりが希薄である。
- ② 宅地化の進展による自然の減少
- ③ 国道254号線の開通により、地域の分断等の問題が発生する。
- ④ 駅も遠く、地元店舗が少ないことは、地区の経済の活性化につながらない。
- ⑤ 地区内の住民が地区内の施設などを知らない。
- ⑥ 公園や広場など子どもが安心して遊べる場所が少ない。

など、これら課題等への解決策について、さらに議論を続け、中宗岡地区まちづくり会議としては、課題を解決に結び付けるための事業として、委員の意見が最も多かった「地区内でみんなが楽しめる新しいイベント」を実施する方向に決定した。

以降の会議においては、イベント実施の具現化に向けた議論が行われた。



会議の様子



(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

会議の結果、課題として挙げられていたもののうち、「せせらぎの小径」、「国道254バイパス計画と予定地」、「地域のつながりの解決に結びつけるための事業」として、イベントの実施を検討した結果、この課題を充足するものとして「宗岡真ん中せせらぎ祭り」としての開催を決定。

○ 事業のコンセプト

「地域の魅力発見・再発見」

「地域のつながり確認・再確認」

「地域の伝統をつないで・新たな文化を創出」

会場については「せせらぎの小径」や「国道254バイパス」そして「バイパス買収済用地」を地域の皆さんに知っていただくことができると考え、交差点である中宗岡4丁目付近の「せせらぎの小径」を中心に、買収済用地を合わせた場所を選定した。

地域の魅力や伝統については、宿組のお囃子（平成28年2月に志木市で初めて無形民俗文化財として指定された）や「狐童」、地元ボランティアによる出店など、地区内で活動している方にも参加いただくことで、それを伝えられると考えた。

そして地域のつながりを考えて、「誰でも」「初めてでも」「親子で」参加できる催し物を含めたイベントを行うこととした。

○ 開催日時・主な内容

平成27年11月22日（日）午前10時～午後2時30分

◇ メインステージ（せせらぎの小径車道に設営）

「ダンス（ヒップホップ等）」…応募チーム

「伝統芸能」…宿組による狐童、中組によるお囃子

「バンド」…高校など 「全員参加によるダンス」

◇ 飲食楽器コーナー（「せせらぎの小径」歩道部分）

「飲食」…ボランティア等による「綿菓子」「ポップコーン」

「焼きそば」などの調理・販売

「楽器展示」…協力企業による出展依頼。

※ 楽器を直接触れられる機会を作ることができた。

◇ チャレンジコーナー

（国道254バイパス予定地「自転車保管場所」を利用）

「フリースロー」…地元スポーツ少年団体が進行

「キックターゲット」…ボランティアが進行

「竹とんぼづくり体験」…ボランティアが講師

※ チャレンジコーナーでは、協賛企業により参加者全員にお菓子のプレゼントが行われた。

【参加者募集ポスター】

宗岡さん中
地域の魅力発見・再発見
地域のつながり確認・再確認
地域の伝統つないで・新たな文化を創出

せせらぎまつり
平成27年
11月22日(日)
と 時:10:00~14:00
と 名 所:中宗岡4丁目せせらぎの小径

自分の姿を好きに飾ろう！今日の日を楽しんじゃおう！新しい装束を作っちゃおう！
地域の神社や中宗岡神社の伝統的なお祭りも参加。
せせらぎの小径で思いっきり踊っちゃおうぜ！

地元のお店さんへ、農家さんへ、
そろって今日1日だけのお祭を出しちゃおうぜ！

主催：志木市「中宗岡地区まちづくり会議」委員会
問い合わせ：志木市 市民生活部地域振興課
☎ 048-473-1111(2144)

宗岡真ん中せせらぎ祭り
ダンスステージ
参加者募集

中宗岡地区まちづくり会議では、
イベント参加者を募集しています。

開催予定日:平成27年11月22日(日)
10:00~14:30
場 所:せせらぎの小径(レンガ広場)

- 募集 ダンスチーム(ジャンル問わず)
※短大・高校生までのダンスチーム
- 募集条件 ① ダンスのジャンル問わず(市内在住・通学)
② 1チーム10分以内(入・退場含む)
チーム名
- 応募方法 ① 代表者(保護者)氏名・学校/学年・住所・電話
② チームメンバー氏名(人数)
③ 演技内容(ジャンル・所要時間)を下記メールアドレス宛てに
お送りください。
※ステージ(3.6×1.2~10.0m)路上パフォーマンス可
- 1次募集 平成27年8月31日(月) 必着 ※応募多数の場合選考
- 問 合 せ seseragi.dance@gmail.com

主催：中宗岡地区まちづくり会議 共催：志木市

当初、見込んでいたほど参加の意向が見えてこなかったことから、簡易ポスターでダンス教室やサークル等に積極的に呼びかけた。

【イベントのチラシ】

志木市中宗岡4丁目付近「せせらぎの小径」にて
宗岡真ん中
せせらぎ祭り
2015年
11/22(日)
10:00~14:30

ダンス
イベントの盛りだくさん「ようかい体操」を会場の中宗岡4丁目で行います！

伝統芸能
舞臺・土間子を真逆に見て、宗岡に伝わる古きよき舞臺を堪能しよう！

バンド
大人も子どもも音楽を通じて一緒に盛り上がりましょう！

スペシャルゲスト登場！
ゆるキャラの超人気アイドル「ハイポッちゃん」がメインステージに登場します！元芸者・チアリーダー・ZOOの「TAKOさん」が盛りだくさん！ハイポッちゃんとのチームアップ「舞の集合」で盛り上がりましょう！Facebookで「ハイポッちゃん」を検索！

露店・飲食・楽器コーナー
バンドをやるなら楽器も大切！当日の準備に慣れてみよう。世界に誇る日本のギターメーカー「ジゲン」を筆頭に本物を体験しよう！

チャレンジコーナー
サッカーのキックターゲットやバスケのフリースローなど、からだを動かす体験型のコーナーです。普段では指すことのないエスキギターなどの楽器にも触れて新しいことにチャレンジしてみよう！

ようかい体操を踊ろう
イベントの最後に、「ようかい体操第一」を踊りましょう！メインステージイベントに参加された方も見に来た方も是非一緒に踊りましょう！振り付けがわからなくても安心ください。みなで楽しみながら踊ります。ステージのお手本の先生を見ながら踊りましょう！

参加ご希望の方は、14:10にメインステージ前にお集まりください。

雨天の場合は 宗岡小学校
雨天の場合でも、宗岡小学校の体育館で開催いたします。イベントに向け準備していただいた皆さんの努力がムダになることはありませんのでご安心ください。飲食などの露店や一部の開催内容が変更になる可能性がおりますのでご了承ください。

駐車場はありません
会場周辺は、徒歩・自転車・公共交通機関をご利用ください。空地や近隣商業施設に駐車されないようお願いいたします。会場までは、東武東上線志木駅東口より国際興業バス「朝霞駅西行き」「西浦和線南行き」「朝霞線(朝霞駅西)」のいずれかで約10分「宗岡小学校」バス停下車徒歩2分です。

…通行止め 11月22日7:00~16:00

【お問い合わせ】中宗岡まちづくり会議 seseragi.dance@gmail.com

(表)

平成27年11月22日(日)10:00~14:30

メインステージ
メインステージでは、志木市の伝統芸能である「舞臺・お祭り」、幼児から高校生による「ダンス」、大人から子どもまで一緒に楽しめる「バンド演奏」を行います。このイベントを通じて中宗岡の文化や芸術を感じたり、新しい発見や感動が生まれたりしたいですね！

露店・飲食
お祭りにかかせないのは、やっぱり
☆わがし
☆やきそば
☆ポップコーン
ですね！
この他にもおいしいものを
ご用意していますので、お
腹をすかせて遊びにきて
ください！

チャレンジコーナー
サッカーのキックターゲットやバスケのフリースローなど、からだを動かす体験型のコーナーです。普段では指すことのないエスキギターなどの楽器にも触れて新しいことにチャレンジしてみよう！

ようかい体操を踊ろう
イベントの最後に、「ようかい体操第一」を踊りましょう！メインステージイベントに参加された方も見に来た方も是非一緒に踊りましょう！振り付けがわからなくても安心ください。みなで楽しみながら踊ります。ステージのお手本の先生を見ながら踊りましょう！

参加ご希望の方は、14:10にメインステージ前にお集まりください。

雨天の場合は 宗岡小学校
雨天の場合でも、宗岡小学校の体育館で開催いたします。イベントに向け準備していただいた皆さんの努力がムダになることはありませんのでご安心ください。飲食などの露店や一部の開催内容が変更になる可能性がおりますのでご了承ください。

駐車場はありません
会場周辺は、徒歩・自転車・公共交通機関をご利用ください。空地や近隣商業施設に駐車されないようお願いいたします。会場までは、東武東上線志木駅東口より国際興業バス「朝霞駅西行き」「西浦和線南行き」「朝霞線(朝霞駅西)」のいずれかで約10分「宗岡小学校」バス停下車徒歩2分です。

…通行止め 11月22日7:00~16:00

【お問い合わせ】中宗岡まちづくり会議 seseragi.dance@gmail.com

(裏)

【イベント風景写真】



フリースローやキックターゲット



(上) ステージへの
出番を待つダン
スチーム

(右) 安全なペー
パー「竹とんぼ」作
りは大人気



消防団の協力で子ども消防団員の出動





長野県佐久市の「ハイぶりっ子ちゃん」が特別参加



地元細田学園高校の皆さん



中組囃子連による獅子舞



宿組囃子連と「狐童」の演舞



料理サークルによる焼きそば・フランクフルトの販売は、500食以上が完売



(上) 協賛企業「岩塚製菓株式会社」から1,000個提供されたおせんべい

(右) ギターメーカー「FUJIGEN」さんのブースでは、本物を実感





(左) イベント最後の仕上げは、会場のみんなで「妖怪体操」のステージで締めくくり。

(下) MC をお願いしたヤセ騎士さんとメンバー全員で記念撮影。イベントの成功は、全員の力とボランティアさん達多くの協力者のおかげです。



【事業費】

事業予算は、「志木市夢のあるまちづくり事業補助金」を活用し、会場設営費等100万円を計上。

収入の部

科目	予算額	説明
補助金	1,000,000	志木市夢のあるまちづくり事業補助金
合計	1,000,000	

支出の部

科目	予算額	説明
委託料	700,000	会場・舞台・電気配線等設営 470,000
		仮設トイレ等設置・ゴミ収集等 100,000
		警備員(8人) 130,000
印刷費	60,000	ポスター・チラシ等
使用料	55,000	住民臨時駐車場等
保険料	15,000	イベント参加者傷害保険
食糧費	50,000	飲食出展団体食糧費(昼食代込)
報償費	0	司会者・協力団体謝礼
消耗品	60,000	イベント用消耗品
予備費	60,000	
合計	1,000,000	

【事業決算】

事業を実施した結果の決算は以下のとおりで、会場設営に関する費用を支出していることがわかる。

宗岡真ん中せせらぎ祭り 決算書

収入の部

科目	決算額	説明
補助金	1,000,000	志木市夢のあるまちづくり事業補助金
利息	68	埼玉りそな銀行
合計	1,000,068	

支出の部

科目	決算額	説明
委託料	712,368	会場設営（テント10、テーブル50、イス 226,800
		仮設トイレ一式・廃棄物収集運搬費 65,664
		警備員（13,500×8人×税） 117,504
		ステージ舞台設営・看板作成 216,000
		電気工事一式 86,400
印刷費	66,326	A 3 ポスター100部 5,958
		A 4 チラシ1万部 28,400
		看板プリント代 31,968
使用料	33,022	住民臨時駐車場（15台×2日） 15,108
		コミ協登録及び物品借用 1,000
		ホームページ 11,340
		宗岡公民館調理室（11/20～11/22） 5,574
通信運搬費	164	切手
手数料	7,500	朝霞警察署申請
保険料	10,400	イベント参加者傷害保険
報償費	56,760	司会者謝礼（ヤセナイト） 10,000
		参加団体等謝礼 26,760
		音響一式貸出謝礼 20,000
消耗品	77,369	イベントスタッフTシャツ 33,156
		イベント用消耗品 44,213
合計	963,909	

収支差額	36,159	
------	--------	--

【全体を通して】

事業の結果として開催当日は、終始曇っていて気温も10℃を超える程度と低かったが、延べ2,000人の来場者があり盛況であった。

なお、来場者数の根拠としては、イベントのチラシを2千枚用意し来場者到手渡した結果、残数が261枚であったがチラシを受け取っていない来場者も少なからずいたため、2,000人として算出した。

来場者の評価としては、直接口頭で「イベント自体が良かった」、「来年も開催してほしい」など好意的なご意見を地区内の住民からいただいた。

また、「良くできました」、「もう少しがんばりましょう」の2種類の回収ボックスを作製し、来場者に配布したイベントのチラシを帰る際に入れる方式でアンケートを実施した。その結果433枚のチラシが回収され、うち365枚、84%が「良くできました」に入れていただいた。

このように、中宗岡地区まちづくり会議が主催したイベントに対して、良い評価を得られたのに合わせて、コンセプトである「地域の魅力発見・再発見」、「地域のつながり確認・再確認」、「地域の伝統をつないで・新たな文化を創出」について、具体的に知っていただいたものと手応えを感じた。

加えて、イベント開催の方針は速やかに決まったが、具体的な内容や場所を決定するために会議を重ねる必要があったこと、さらに事業の詳細を決定していくための会議を行っていくことで、各委員間の連帯が強まっていった。

そして、イベントの準備の役割を決めて進めていく中で、委員の持つ技術や能力、人脈などを相互に知ることができたことが、もう一つの大きな収穫でもあり良かった点でもある。

しかしながら、今回のイベントの反省点や問題点もいくつかあった。

一点目は、イベントのメイン会場が公道上であり、当然ながら住居が隣接していたため開催することに反対する意見があったことである。来場者のアンケート結果にもあるように、全ての方の理解・満足をいただけることはないと再認識した。

二点目は、結果として延べ2,000人の来場者があったものの地区内のチラシ配布やポスターによるイベント告知としたが、一部地域内の人からの声では、開催情報がうまく行き届いていなかった点を指摘された。

三点目は、初めての開催と路上会場のキャパシティーの問題から飲食提供の数が想定以上だったため、食材が不足し現場がかなり混乱したこと。さらに、ダンス等の団体に対する参加依頼や当日の来場手段、時間、必要物品等の調整など当日ぎりぎりまで続いたことが挙げられる。

また、ゼロから今回のイベントを作り上げたので、近隣住民や参加団体、メイン会場の設営など、あらゆることを最初から考えて実行しなければならないことが最大の苦労した点であった。

今後については、隣接住民からもイベント開催の継続を望む声があるが、開催反対の意見があるのも現実であり、その点をどう解消するのか、今回のイベントは「志木市夢のあるまちづくり事業補助金」があったことで実施ができたものであることなどの問題もある。また、平成28年6月末をもって地区まちづくり会議の第一期が終了する事情もあることから、イベントの継続性もしくは「せせらぎの小径」を利用しての事業実施について、考えていく必要がある。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

① 地区まちづくりビジョンに基づく活動方針

【せせらぎ祭り継続開催プラン】

地区内の課題は、1.「国道254バイパスによる地区の分断後の発展」 2.「新旧住民の交流・コミュニティ形成」 3.「高齢者支援」 4.「交通渋滞・歩行者保護」 5.「防災」となっており、課題1・2への取り組みとなる『せせらぎ祭り』を平成27年11月22日に開催し、子どもから高齢者まで2,000人が来場・参加し地域交流の場を提供することができた。

バイパス用地内の公園がなくなり、子どもの安全な遊び場が減る中で、バイパス予定地である放置自転車保管所内に「フリースロー（バスケット）」「キックターゲット（サッカー）」「竹とんぼ（づくり）」などで安全に家族と一緒に楽しむことができた。この事例は、休閑地・デッドスペースの有効活用という見本を示すことができた。アイデアや自治体の支援、地域住民の協力があれば理想は実現するという事実を、他地区のみならず他市他県にも情報発信することで志木市の市民力をアピールすることができる。今後は、バイパス完成後の開催場所や予算、規模、地域住民の理解などの課題も予想されるが、中宗岡地区まちづくり会議としては、今後も「せせらぎ祭り」を継続的に開催していきたい方向で委員の意見は一致している。

また、「地区まちづくりビジョン」の資料「地域活動への参加」における統計では、「まったく参加していない」が、本町50.0%、柏町48.8%、幸町50.0%、館33.7%、上宗岡47.0%、中宗岡34.4%、下宗岡42.2%と、当地区は7地区中2番目に参加意識の高い住民で構成されていることがわかる。

今後、せせらぎ祭りをはじめ各イベント・企画を進めていく際には積極的な地域住民参加型の運営をめざし、出会いの創出や協力・信頼関係の構築を通じて地域交流がさらに促進されるよう、当地区のまちづくり会議は、せせらぎ祭りの主催者としてまた住民の「つなぎ役」として、貢献できるよう努力していきたい。

② 各委員の思いを集約した活動方針

【少子高齢化対策としての人材（人財）育成プラン】

各委員の課題意識や価値観などを話し合った結果を集約すると 11 項目に分類できる。

1. 少子高齢化
2. 人口減少
3. 保育・教育
4. いじめ・不登校・非行
5. 空き家問題
6. 防犯・防災
7. 共助
8. コミュニケーション・コミュニティ
9. 官民協働
10. インフラ（道路・歩道・バリアフリー・自転車通行帯）
11. 認知症・徘徊

また、「志木市国民健康保険保健事業実施計画」によると、「志木市の人口は平成 28 年をピークに減少に向かう」「15 歳以下の年少人口はすでに減少傾向にあり 10 年後の平成 38 年度には現在より 2,000 人減少する」とある。さらに「平成 38 年度の高齢化率は 26.2%、年少人口割合は 11.0%」とやはり少子高齢化は回避し難い事実であることを再認識した。

そこで、「安心して徘徊できる中宗岡」「地域活性を担う次世代の育成」という 2 つのテーマが浮上した。そして、5 年後の平成 32 年度には前期高齢者数と後期高齢者数が逆転し、さらに高齢化が進むことが予想されるため、あえて未来に希望を託す方向にウェイトを置き「次世代の人材（人財）育成」にテーマを集約し、主体性や共同体意識を持った人材（人財）の育成をめざし、自立・リーダーシップ教育の導入を提起しておきたい。15 歳以下の年少者、小中学生を対象に、すでに国内・国外で成果をあげているプログラムを受けられる環境を整備したいと考えており、当地区住民の主な通学校である宗岡小学校、宗岡第二小学校、宗岡第四小学校、宗岡中学校、宗岡第二中学校での導入を今後研究してほしい。

ア) 期待できる効果

【せせらぎ祭り継続開催プラン】

今回は、初の開催ということで試行錯誤で企画したものの、認知度の低い新規企画のイベントとしては成功といえる 2,000 人の集客があり、来場者アンケートでは 84% の人から高い評価を得た。また、独自の調査では次回以降の開催を希望する人が 7 割を占め、今回のように 11 月秋の開催のみならず春や夏の開催を望む声も多い。さらに、せせらぎの小径全体での開催を望む声も 20% と、他地区との連携も視野に入れた志木市全体にインパクトを与えるイベントを創出することができる可能性もある。

回数を重ね、認知度・知名度・集客などを向上させ、企業協賛・ジョイントベンチャーなど戦略的かつ段階を追って収益化を試みて、最終的にはイベントの収益でせせらぎの小径の補修・整備などができるように「自立・自治」ができる中宗岡を目指せたらと考える。市民で立ち上げたイベントの収益で「自立・

自治」を成功させた事例としてメディアに拡散されることで志木市の認知度が上がり、将来的な流入人口増加の可能性も広がるだろう。

【少子高齢化対策としての人材（人財）育成プラン】

自立教育・リーダーシップ開発とは、自尊心を育む教育とも言える。自分を愛し、他者を思いやる心を持った住民が増えるということは、地域全体で子どもを育て、高齢者を見守りお互いが支えあう住みよい町となる。つまり共助の意識が根付くことで「安心して徘徊できるまち」を実現することが可能になる。

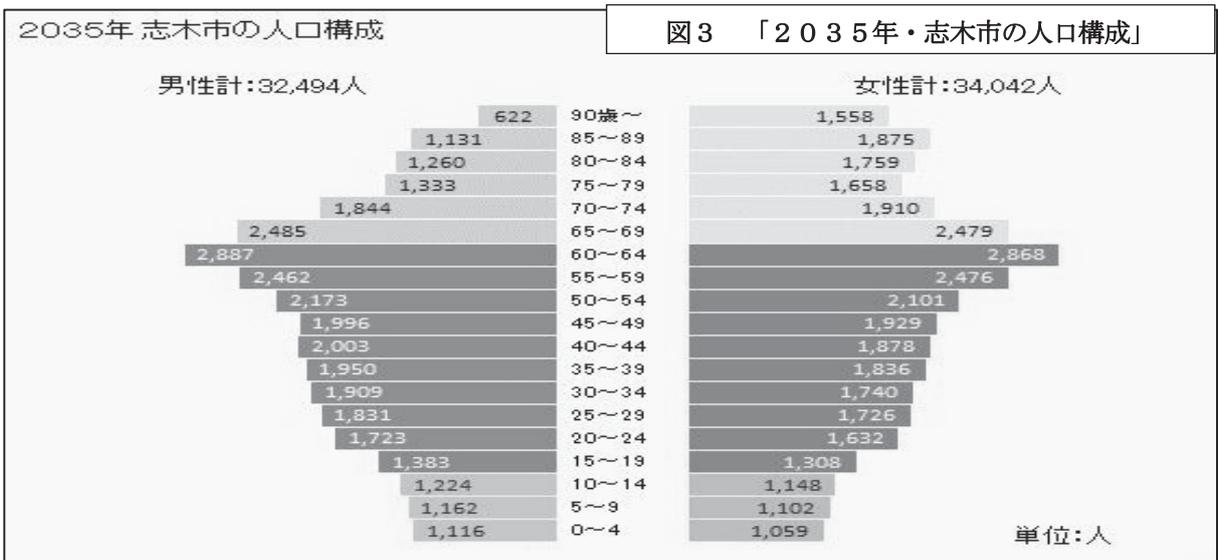
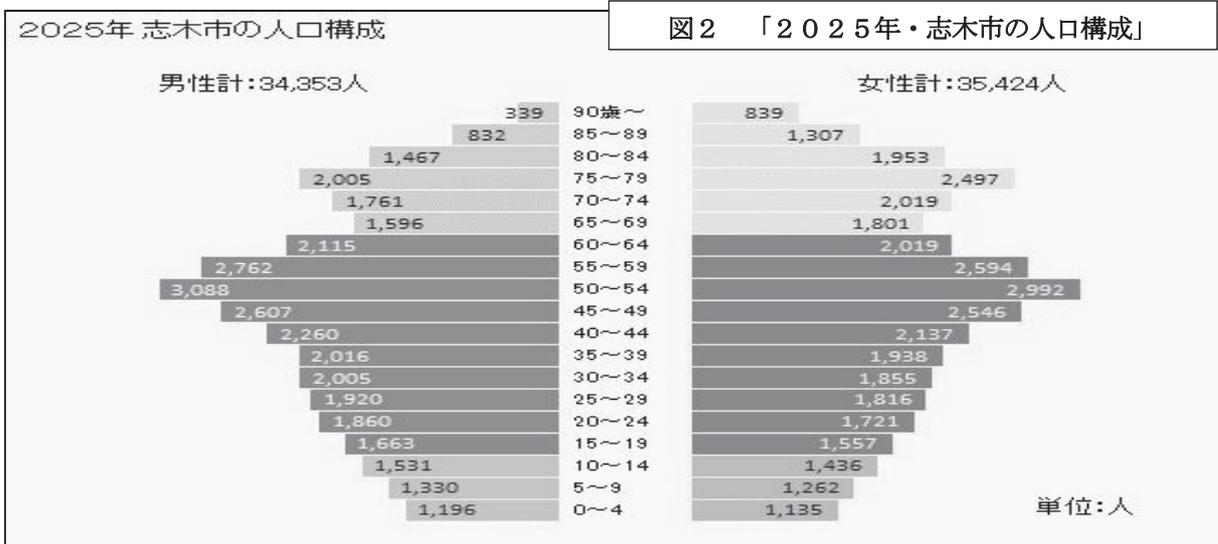
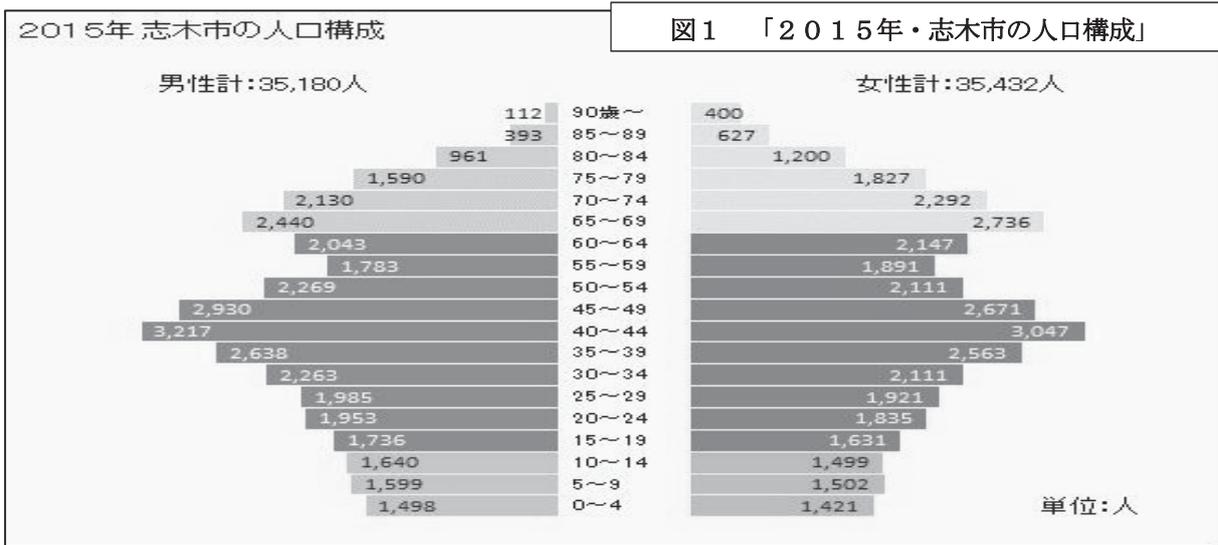
また、主体性を育むことで、地域の環境や課題も「自分ごと」として認識することができるようになり、地域活動への参加が促され、結果として地域に愛着を持つ次世代が形成される。自分が協力してまちを作り上げたという愛着心は、
他市への流出を防ぐ効果もある。

具体的なプログラムの選定や導入は慎重に行うべきという前提を強調した上で、参考例を挙げるとすると、原田隆史氏の「自立型人間育成教育」やフランクリンコビー社の「リーダーシップ教育（7つの習慣／リーダーインミー）」などがある。

原田氏は、中学教員時代に陸上部顧問として生徒たちを7年間で13回もの日本一に導き、その体系化されたメソッドを広め企業研修280社55,000人、教員教育2,300人が受講した実績があり、埼玉・高知・三重県の教育アドバイザーも務めている。また、フランクリンコビー社の発行するリーダーシップ教育「7つの習慣」は、世界44カ国で翻訳され3,000万部発行、日本国内企業では3,500社20万人が受講している。その小学校版プログラム「リーダーインミー」は、海外では35ヶ国2,000校に導入されていて、自尊心や主体性を育むことで問題行動が減り学力が向上する効果も定量的に測定されている。

日本ではまだ2校しか導入事例がなく、中宗岡地区の小学校に導入することでの話題性は十分あり、なにより人格教育を重視する家族層の流入を期待することができる。思いやりや誠実さなどの人格形成は、将来の中宗岡の防犯や共助の精神も育まれることとなるであろう。

イ) 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後の課題

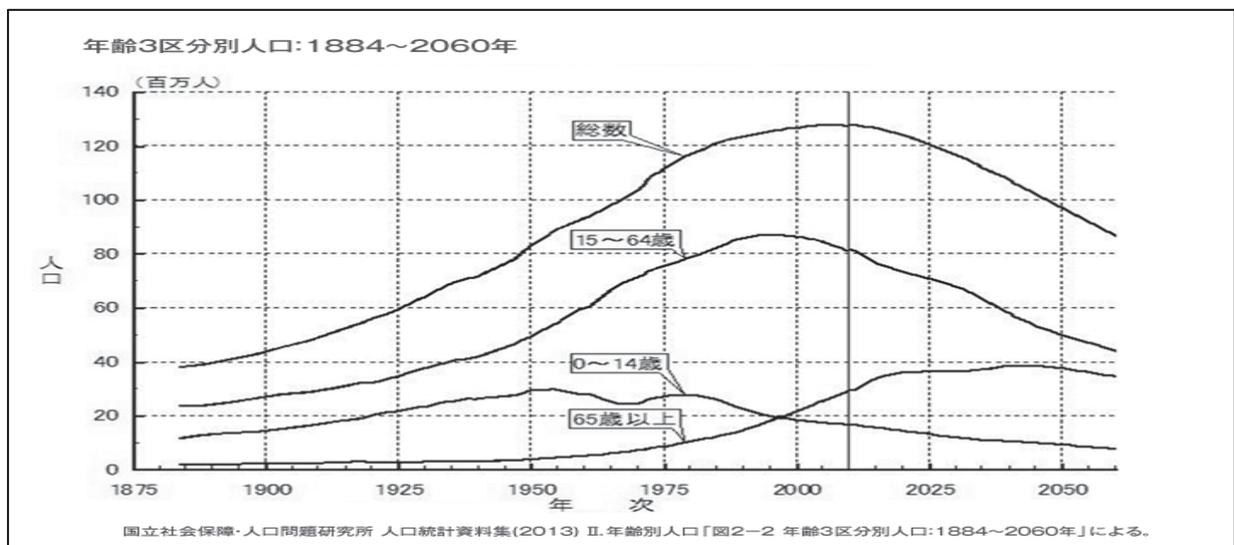


上の3つの図は、10年後20年後の志木市の人口ピラミッドである。図2の2025年までは、第一次ベビーブーマーと第二次ベビーブーマーの比率が高いことがわかるが、図3の2035年になると第一次ベビーブーマーの人口が減り第二

次ベビーブーマーが突出していることがわかる。

この第二次ベビーブーマーは、人口の比率から地域における影響力など社会的責任において非常に重要な世代である。つまり、現在 40～45 歳である第二次ベビーブーマーが今後の 20 年でどれだけ地域に貢献し日本に貢献できるかで未来が変わるともいえる。社会の中核となるこの世代は、現状では仕事や子育てに追われ地域活動や共助に対する優先度を下げざるをえない状況にある場合が多く、経済的・時間的余裕のある高齢者層と第二次ベビーブーマーの相互協力関係を構築することが望ましい。

2030 年には、日本の人口の 1/3 が 65 歳以上の高齢者が占めるようになり、さらに 2040 年には、総人口が 1 億人を割ることが予想されており、日本創成会議によると全国 1800 の自治体のうち約半数が消滅可能性都市と見込まれている。いわゆる、2040 年問題である。



埼玉県でも 21 の自治体はそのリストに入っている。志木市は、その候補に入っていないものの三郷市や東京都豊島区が消滅可能性都市に名を連ねているという事実が 2040 年には、かつて私たちが経験したことのない状況が予想される。志木市の既存住民の流出防止と併せて、他の自治体との違いや魅力をわかりやすく打ち出しファミリー層の流入をめざしたい。

今回、第一期の委員からは、まちづくり会議を通じて「日ごろ交流のない人たちと世代を超えてつながることができたのが収穫だった」との声が多数あった。これらの点から、世代を超えて交流し同じ課題に向けて協力し合うという仕組みや場所が必要であると感じている。

また、その課題に対し前述のような 20 年後 30 年後の状況を踏まえ、年少者を中心とした人材（人財）育成の重要性を改めて強調したい。

そして、この「まちづくり会議」という仕組みは非常に重要であり、より多くの住民に参加してもらえるように活動内容や貢献度のアピールを強化していきたい。独自の調査によると、まちづくり会議の存在や活動を知らないという人が 60% という状況であり、非常にもったいない。広報などの公共媒体だけに頼らず、中宗岡の地域独自のコミュニティの創出やコミュニケーションツール

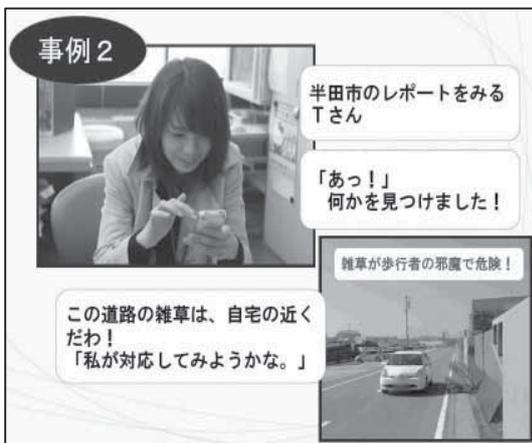
を開発し、共助の理想形としての「安心して徘徊できる中宗岡」をめざし、デジタルとアナログを駆使した地域の一体感を築く仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

ウ) 今後のまちづくりにどのように生かせるか

まちづくり会議発足当初、住民委員からの意見は道路整備や公共設備などのインフラ関連のトピックが大きな割合を占めていた。まちづくり会議の本質を「住民同士の出会いの場・つなぎ役・リーダーシップ」と仮定するならば、道路整備などの物理的環境の改善（※）などは後述する仕組みや市に任せることにして、人と人とのつながりや「絆」を第一義として「人財」をテーマにしぼって活動してもよいと思われる。

今回の提言では「せせらぎ祭り」や「教育改革」などを強調する形をとってはいるが、まずはこの「まちづくり会議」という仕組みを志木市に定着することが、今後の住民の豊かな生活にとって最も大切な取り組みであると考えている。

志木市に埋もれている人財やリソースの発掘と最大限の有効活用をめざし、まちづくり会議の更なる発展に貢献していきたい。



※物理的環境の改善策として、半田市・別府市・郡山市で導入されている「Fix My Street Japan」というサービスがあるのでそれを活用してみたいか。道路の不具合や危険箇所などを見つけた市民がスマートフォンで画像とコメントを投稿し、その報告を見た行政が対応するという仕組みである。志木市全体での導入が望ましいが、除草・清掃・お年寄りや子どもの見守り・不審者情報など住民同士で解決するのも活用できるので、まずは中宗岡地区だけで導入してみて、その成果や課題などを見極めてからの本格導入でもいいだろう。

(6) まとめ

平成26年7月1日から2年間の「地区まちづくり会議」委員の任期を振り返り、各委員からは以下の感想等が述べられた。

- この会議を通じて、各委員と知り合いになれたことが一番の財産。
- 各委員のつながりを委員任期終了によって無くすのは惜しい。このまま育て、実がなるようにしたい。
- 様々な意見を持つ委員が集まったことで、それをまとめていく難しさはあったが、イベントという事業を実施できたことは楽しかった。
- イベントは継続してこそ意義が増すと思う。
- 行政に対してアプローチできる側になれたのが良かった。
- 中宗岡地区では女性の参加が少なかったのが残念。
- 事業としてイベントを開催することが決まり、近隣住民一軒ごとに訪問して説明したことも、イベント成功の一助になったと自負している。
- 市の職員と一緒に活動し、若い委員のエネルギーと高齢の委員の知恵をうまく取り入れることができた。
- 良いメンバーと巡り合えることができ、イベントをみんなで成し遂げた充実感が、最大の収穫であった。

地域の問題や将来の課題は、個々の市民にはわからない。財力や情報などを最も多く持っている市役所がコーディネーターとして課題を提起し、市民が積極的に自分のこととして受け止め、協働するモデルの一つとして、この「地区まちづくり会議」が発展していったほしいと願う。

また、地区に対する課題は、ひとそれぞれの思いなどがあり、各委員からの意見も様々であった。課題の解決に向けての方法論のひとつとして、市民と職員が一つのチームとして活動できる機会と場所として、志木市の「地区まちづくり会議」を第二期、第三期と継続させていくか、今後も多くの職員の積極的な地域参加を進めていくことが、まちづくりとしての大きな課題になると思われるのでぜひ継続願いたい。

3 下宗岡地区まちづくり会議

(1) 下宗岡地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分		氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	濱平 政志	リーダー
2			清水 一敏	サブリーダー
3			荒川 正吉	
4			小野寺 志朗	
5			川島 正幸	
6			木下 武久	
7			佐藤 美雪	
8			鈴木 和雄	
9			為井 俊充	
10			照屋 則子	
11			前野 勇治	
12			村田 成巳	
13			茂木 千佳子	
14	第2号委員	職員委員	吉成 和重	サブリーダー
15			新宅 修	
16			森山 夏子	
17			小山 貴行	
18			野口 太基	

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	13人	10人	3人
第2号委員	5人	4人	1人

(2) 下宗岡地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 活動拠点 六区区民会館

◆ 下宗岡地区のプロフィール及び特色

下宗岡地区は、志木市の南東部にあり朝霞市に隣接しています。荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の南部に位置し、緑と水に囲まれた自然豊かな地域です。将来的には地区の南北方向に、一般国道254バイパスの整備が予定されています。

近年では農地の宅地化が進んでいますが、荒川河川敷には広々とした農地とスポーツ施設があり、水路にはザリガニ・コイ・野鳥の姿が見られる等、自然と調和した生活環境が魅力です。また、荒川河川敷周辺には田園風景が広がり、美味しいお米（コシヒカリ）がつくられています。



↑ 宗岡からの景色



↑ コシヒカリ

下宗岡地区では、町内会や子ども会、PTA活動が行われている他、宗岡第三小学校おやじの会（FFC）の活動も活発に行われており、開催されるイベントでは200人程度の参加者があります。

志木市市民意識調査（2014）によると、地域活動への参加に関する項目で下宗岡地区では「毎回必ず参加している」・「都合がつけば参加している」を併せると3割を超えており、地域活動への参加意欲が比較的高い地区であるという結果が出ています（市民力を活かしたい活動の内容は、「地域の災害対策・防犯活動」「自然環境（河川や緑地など）の保全や美しい景観づくりの活動」が多い）。

毎年7月に開催される「下ノ宮氷川神社夏祭り」は、御輿渡御と民踊流しで大いに盛り上がり、下宗岡の夏の風物詩になっています。



↑宗岡第三小学校 FFC イベントの様子
←下ノ宮氷川神社夏祭り

◆ その他特記事項

下宗岡地区は、市内7地区の中で、最も人口が少ない地域です。

(平成28年1月1日現在5,586人)

過去5年間の人口は、表1のとおり増加傾向にあり、年齢別人口構成で見ると30歳代から40歳代が特に多くなっています。

一方で高齢化も進行しており、平成28年では高齢化率が23.5%となっています。

表1 ■過去5年間の下宗岡地区年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成24年	25年	26年	27年	28年
総数(人)	5,251	5,326	5,312	5,454	5,586
0～14歳(人)	861	875	849	873	892
15歳～64歳(人)	3,284	3,264	3,239	3,302	3,383
65歳以上(人)	1,106	1,187	1,224	1,279	1,311
高齢化率	21.1%	22.3%	23.0%	23.5%	23.5%

参考：埼玉県町(丁)字別人口調査各年1月1日

(3) 下宗岡地区の課題について

平成26年7月から10月までの間に会議を4回実施し、下宗岡の特色、課題等の気になる点について、意見交換やグループワークを行いました。

その結果、主な課題として次のような内容にまとめました。

コミュニティの活性化

- 宅地が増えており、新たに住民となった人や、外国人と交流を持てる場が地域にない。
- 下宗岡地区は、地域活動が活発に行われているほうだが、地域・まち・人に対して受け身な姿勢である人や無関心の人も多い。
- 地域に住む単身高齢者が多くなっており、孤独感を和らげることができないか。

防災対策

- 下宗岡地区は、荒川低地に広がる低層市街地であるため、過去にも水害被害が多くみられている。荒川の堤防が決壊することも想定した対策が必要。
- 集中豪雨や台風等で、道路冠水しやすい場所がいくつかある。

環境保全・住環境の整備等

- 自然豊かな地域がある一方で、不法投棄やごみのポイ捨ても多い。
- 昔は蛍が自生していたが、今は見ることができない。
- 大型スーパーができ、車の交通量が増えて事故の危険度が高まっている道路がある。

下宗岡地区まちづくり会議の様子



(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

近年、下宗岡地区では、新たな住宅が建てられ新規住民が増えています。

そのことから新旧住民とのコミュニケーションがなかなか図られず、町内会への加入や地域のイベントに参加されていない状況です。そこで、新旧住民及び老若男女を問わず世代間交流を図る必要があります。

また、花と緑にあふれる自然豊かな下宗岡地区の魅力をさらに高めるとともに、安心・安全に暮らせる住みよいまちにしていきます。

◆ 各事業を終えての報告

○ 健康が一番!ラジオ体操の事業報告

志木市が健康長寿日本一を目指していることもあり、健康意識向上とコミュニケーションの場を目的として、毎週土曜日午前6時30分から六区区民会館前でラジオ体操を行いました。

平成27年9月12日に第1回目を実施し、参加者が少ないのではと心配される中、45名の参加がありました。平成28年5月28日(土)に第36回目を実施し、子どもからご年配の方々まで多くの方に参加いただき、世代間交流の場として大変盛り上がり、総勢延べ904名の方に参加をいただきました。



(ラジオ体操の様子)

○ 美しい下宗岡(環境美化活動)の事業報告

花と緑にあふれる自然豊かなこの地区の魅力をさらに高めることと継続的な地域活動を行うことで、まちづくり会議に対する住民の関心を高め、協力者を得た活動が可能となるよう、コミュニティの形成を図ることを目的とし花植えを行いました。

花を植えた場所は、雑草などが生えている空き地等で、「下宗岡2丁目」交差点付近に平成27年11月と平成28年5月の2回行いました。1回目の参加者は、17名で2回目は11名、合計28名の方に参加をいただきました。



(1回目の花植えの様子)



(2回目の花植えの様子)

○ 日本一？「だるまさんがころんだ」の事業報告

平成 27 年 12 月 13 日(日)午前 10 時から宗岡第三小学校の校庭を会場に、この地域の新旧住民及び老若男女のコミュニケーションを図ることを目的として、日本一の登録を目指し「だるまさんがころんだ」に挑戦しました。

当日は、今にも雨が降り出しそうなあいにくの天気で、目標人数(1,000人)にはおよびませんでした。子どもから大人まで約 350 人の参加者があり、大変盛り上がりました。

また、「だるまさんがころんだ」が終わったあとは、地元野菜を使用した豚汁とおむすびを参加者全員一緒にいただき、世代間交流を図るまたとない機会になりました。

(だるまさんがころんだの様子)



(千人鍋で作った豚汁)

○ しもむねおか安心・安全まっぷの作成

防災・減災意識の向上と地域のコミュニケーションの活性化を目的として、避難場所や備品の所在、危険な場所、自動販売機、AED、公衆トイレ等をはじめ、観光名所、富士山絶景スポット、お祭り情報等も盛り込んだ安心・安全まっぷを作成しました。



(↑秋ヶ瀬橋付近から撮影→)





2015年 **12月13日(日)**

集合時間 AM 9:30 AM10:00からスタート

志木市立宗岡第三小学校(校庭)にて

※ **小雨決行** 中止の場合はだるまさんがころんだ
下宗岡facebook  にて公表します。



- ★『日本一ネット』の認定記録に挑戦!
- ★「だるまさんがころんだ」参加人数日本一を目指します!!
- ★美味しいとん汁をご用意します。

主催: 下宗岡地区まちづくり会議 共催: 志木市

◆ 全体を通して

当たり前のように生活をし、当たり前のように過ごしている下宗岡地区を、「地区まちづくり会議」というフィルターを通じて改めて「地域の観照」を行わせていただきました。この地域は、老若男女・新旧住民が歴史と文化を調和し自分たちの地域に誇りを持った住民が多い地域であると、改めて感じることができました。

特に、若い世代が多く、様々な可能性に満ちた地域であると感じることもできました。しかし、「まちづくり」ということに全体的に当事者意識がなく、だからこそ、地域の可能性や熱い情熱を活かす機会やチャンス、また、様々なきっかけを増やすことや背中を押す（スイッチを入れてあげる）機会を増やすことで、容易に下宗岡の底力を上げることが可能であると、感じることができました。

そのために、まずはこの会議に属した私たちから積極的に活動をし、あえて背中を見せる行動を起こしました。長期的に行ったラジオ体操には、結果的に多くの地域住民の方々にご参加をいただきました。また環境美化活動として行った花壇の整理及び花植えにも、地域住民を巻き込むことができた実感しております。そして、秋に行ったイベントでは、「だるまさんがころんだ」という手法を通じて下宗岡を日本一にするという目標を立て、つまり直接的に下宗岡という地域に誇りを持っていただけるような事業を行いました。最終的には、日本一にはなれませんが、昔ながらの楽しいイベントを通じて、下宗岡の住民としての自信と誇りを持つことのできる一助となったと確信しております。さらには、イベントを興す・企画する楽しさを、参加者及び開催地である学校の職員にも実感していただいた事業であったとも思っております。また、安心・安全マップ作り作業においては、今後起こりうる大規模災害を視野に入れながら、実際に地域を見回りながら下宗岡の設備の現状等を把握しました。それを大型の掲示板として地域に発信することができ、安心して生活することのできる地域を作ることができました。

（ラジオ体操）



（花植え）



下宗岡地区まちづくり会議では、全体の共通認識としてボトムアップ・トップアップで、下宗岡地区全体の情熱・誇り・市民意識・市民力を上げていきたいと思い活動を行って参りました。全体を通じて、わずかかもしれませんが、ステージを上げるという成果は出ているのではないかと会議全体としても自負しております。多くの予算と行政の方の多大なるご協力で成し遂げた事業・イベントではありましたが、このような機会を通じて、今後も下宗岡、さらには志木市の発展のために尽力をしていければと考えております。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

我々の住む下宗岡地区は、歴史と文化が調和し、若い世代の多い可能性に満ちた地域であります。その一方で、ベッドタウンの特徴でもあるまちに無関心な住民も少なくなく、コミュニティの希薄な地域であるとも言えます。だからこそ、この地域に根を張る我々が、下宗岡の子や孫へ「明るく活力のある未来」というバトンを繋いでいく為には、住民一人ひとりが、自分たちのまちに誇りと地域を想うところを持って頂くことが、必要であると考えます。そのところを持つ事が、人と地域をつなげます。そして、それが明るい豊かなまちを創り、さらには未来へ継承していくという事に、自覚と責任を生み、地域、市民、行政により良い我が地域に向けた協働への大きな活力となり、その明るく希望に満ちた可能性を更に広げていきます。

私たち下宗岡地区まちづくり会議のメンバーは、我々の子や孫へ誇りに溢れ、活力のある下宗岡地区、やさしき溢れる未来を継承して行く為に地域のありのままをしっかりと見つめ、感じ、そして愛し、住民のところに響く説得力のある事業を、実践していかなければなりません。そして、まちを創っていく市民の参画意識を醸成していかなければなりません。下宗岡の魅力を再認識して頂きながら、受身ではなく志高き能動的に考え活動できる市民力を育てなければなりません。地域に誇りを地域に愛を、そのためにしっかりと地域を観照し、私たち自身が現状とその本質を捉え、見識を高める必要があります。そして、今取組むべき課題を抽出し、説得力のある運動を実践し、住民一人ひとりが地域に誇りと愛を感じ「自分たちのまち」を創るという、参画意識を持って頂く事が活力ある未来を創造していくのだと確信しています。

私たち第一期下宗岡地区まちづくり会議は、様々な手法を通じて活動を行って参りましたが、その手法一つ一つに正解不正解はありません。だからこそ、全力を持って住民の意識を変革するべく活動を行いました。人の価値観を変えるなど、非常におこがましい活動であるかもしれませんが、誰かがやらなければならないなら、使命感と覚悟を持って行動を起こさなければならないと思っております。このまちづくり会議は、そのためのきっかけとして最善の動機になる事業であると確信しております。また、このまちづくり会議の最大の利点は、行政の方々も会議に入っただき、一緒に議論でき事業を作り上げることができる事であると感じております。手続きや様々な調整ごとも、行政の方が入ることでスムーズに事を運ぶことができました。また、行政の方々の見識等に触れることにより、各事業が順調に進めることができたと思っております。裏を返せば、様々なまちづくり団体が志木市にはありますが、行政の方々の存在が、今まで見えてきてはいなかったのではないかと感じる事ができました（隣の朝霞市では様々な場面及び団体に行政の方々が所属し地域住民と一丸となってまちづくりに取り組んでおります）。是非、志木市内のまちづくり団体に所属いただき、一緒になって活動して行くことを望んでおります。多くの情報を交換し、共有し、官民が足並みを揃えてまちづくりを行うことが、市民力を上げていく、地域住民にまちづくりに対して当事者意識をもっといただく最善の方法であると確信しております。そして、この度のまちづくり会議がそれを証明したと感じております。

まちづくり＝ひとづくり 夢のある地区のまちづくりに向けて、多くの問題点及び課題も多いと思いますが、行政と市民お互いが手を取り人のために尽くせる社会を目指していきたいと思います。人の喜びが家族の幸せにつながり、家族の幸せがまちの発展につながり、まちの発展が国の繁栄につながっていきます。志を大きくもって、いや、大きく持てる地域を目指す、その様なまちづくり会議であることを、心より祈っております。

以上、下宗岡地区まちづくり会議の提言とさせていただきます。



(会議の様子)



(だるまさんがころんだ)

(6) まとめ

◆ まちづくり会議の2年間を振り返って

① 一番楽しかったこと

- だるまさんがころんだイベント。老若男女楽しんで、ゲームに熱中している姿が微笑ましく、平和を感じる一時だった。
- だるまさんがころんだイベントは天気に恵まれませんでした。参加者の楽しそうな顔が見れ、1000人豚汁も好評で達成感のある楽しいイベントでした。
- 花壇づくり。
- 参加者48名で会場がいっぱいになり、盛会の中でラジオ体操第1回目を実施したこと。
- 委員の皆さんと会議や行事等の活動を一緒にして色々な方々と知り合えたこと、地域に有力な経験豊かな方々が住んでいらっしゃる事が嬉しかったです。だるまさんがころんだを通じて実施するまでの苦労がわかりました。
- 地域の委員との懇親、志木市のために企画した「まちづくり案件」が実現できたこと、市政の一端が垣間見れたことなど充実した活動でした。
- 毎回の会議(引っ越ししてきて地域のことなど色々知ることができた)。だるまさんがころんだ(子供から老人までたくさんの人が楽しめた)。

- メンバーに恵まれて、会議やイベントが楽しくできたこと。
- この会議を通じて、住民委員の方々と知り合うことができたこと、色々な事業に参加し協力して実施することができたこと。
- 普段接点のない方とお話する機会が得られたこと。
- 「だるまさんころんだ」のイベントに、雨にも関わらずたくさんの参加者があり、皆さんが豚汁を美味しそうに食べている笑顔が、すごく嬉しかったです。
- 「だるまさんがころんだ」のイベントで、準備やビラ配りなどして当日まで不安であったが、当日は人がたくさん集まり、何より参加して下さった方々の笑顔が見られてうれしかった。
- まちづくり委員と一緒に共通の目標に向かって活動できたこと、イベントや事業において地域の住民の方々と話したり、共に活動ができたこと。

② 一番苦労したこと、努力したこと

- 当初の会議で、あまり意見が出なくて会議の進め方に苦労した。「次回までに考えてきてください」と事前課題をお出しすることで次第に意見も出だした。
- 一番大変だったのは花壇づくりでした。雑草刈り、耕し、肥料、花植え此方も小雨の中の決行となり、日ごろ畑仕事などしたことのない私には大変でした。綺麗に出来上がったときは苦労した分、喜びも大きかったように思います。
- ラジオ体操の担当になり、毎週土曜日早起きしたこと。
- 苦労したこと、ラジオ体操立上げまでの試行錯誤。努力したこと、会議、催事の全出席。
- 長期の任期の中で、環境や心境の変化がありモチベーションとエネルギーを維持し続けること。
性別や年齢の違いで、どのようにメンバーの皆さんと接するべきか悩んだこと。
- 花づくりチームにいましたが、他の方が花の植えつけ方、耕すことなどして下さったので楽しく働けました。一番心配したのは、だるまさんがころんだの参加者呼びかけでした。当日までハラハラでした。
- アイディアを出すこと（より良いことはないかと情報収集をした）。毎回の会議に出られなかったこと（家庭状況や仕事の都合で思うように出席できなかった）。
- 土曜日、日曜日が勤務のため、大半の実活動に参加できなかったことで、活動参加意欲が薄れてしまったこと、反省しています。また、企画も中途半端になってしまい、皆様にはご迷惑をおかけしました。
- 担当長として若手職員を引っ張っていかなければならないし、公募してくれた住民にも迷惑をかけることができない中で、今まで経験したことのない分野で(未経験)前例もなく、ゼロから学ばなければならなかったもので、最初の4ヶ月は、とても苦労したところです。

- 4つの事業を行ったので、かなり盛りだくさんとなったことです。また、ラジオ体操については後半あまり出席できなかったことが、残念でした。ですが、盛りだくさんだった分、どこよりも充実した「まちづくり会議」になったと思います。
- 花壇作りの作業では、悪天候や土の状況によりデザインした通りに植えられない等の出来事もありましたが、皆さんと協力して、想像以上の花壇「見てくれる人が元気になる花壇」ができました。
- 炎天下の中、花壇作りそして花植えは非常に大変でしたが、とてもきれいに整備ができたので、達成感があつた。
- 各事業が天気に恵まれないことが多かったが、委員の方々の色々な力によって実施できたこと。

③ 今の下宗岡の課題、今後期待すること、引き継ぎたいこと

- 町内会活動、学校、お祭り等、人と出会う機会は相当にある中で、それに参加してない人々（特に最近戸建住宅が増えたこともあり）が下宗岡に周りに関心を持ってもらう事を考えたイベント、事業をやってほしい。
引き継ぎたいこと・美化活動、ラジオ体操
- 下宗岡地区は近年住宅が増え、人口も増えているように感じます。現状は近隣市、市内の他の地域に比べ住民の結束は強いと感じます。子ども会、FFC、町内会等、活発な活動をしています。今後は各団体が新しく下宗岡に来た人達を暖かく迎え積極的に地域活動に参加してもらえよう努力する事だと思います。
引き継いでもらいたい事業は、花壇の維持管理です。せっかく作った花壇ですので、ぜひ引き継いで頂きたいとおもいます。
- 防犯に対する意識の向上、災害に対する意識の向上。
- 課題 下宗岡人としての連帯感をどう強めるか
期待 向上のため各地に小さな集会を開催する企画を立て今までの組織、催事に参加してない人たちの勧誘、参加を図る。
引継 ラジオ体操、美化活動等、もっと会場を増やす。
- 花づくりは継続してやっていただきたい。近くに住んでいるので草取り等やる時は参加します。下宗岡は自然も豊かに残っているので（稲作、畑なども）お年寄りから幼児まで何か取り組めないかと思います。ラジオ体操は地域の方の賛同を得、毎回参加している方も多数いるので継続した方がよい。

- 幅広い世代はもちろん、多種多様な職業の人が集まるとより濃い内容になると思う。
部門に分けて集まるなどの分業制で予定合わせのロスをなくしてはどうか。
地域委員の人数をもう少し増やしてはどうか。
- 特に、新規入居者を中心とした近隣者とのコミュニケーションが少なく、本当の意味での地域振興は道半ばかと思います。
地元の方達の意見を取り入れることも必要ですが、なんとか「一般の住民」の意見を取り入れるような仕組み作りを増々望みます。
- 新しい住宅が増えている地域なので、もっと新旧住民のコミュニケーションがとれたらいいのかなと思います。
夏は、下ノ宮神社のお祭りや町内会の盆踊りがありますので、冬に芋煮会などのイベントを行ってほしいです。
- 住民の方々がとても積極的で、地域の活動がとても充実していることを実感しました。このような環境・雰囲気は今後も継続し、さらに拡がるように、第二期の方々に期待しています。また、花壇については、かなり手が掛かったので、引き継いで維持管理をしていただければと思います。
- 私が下宗岡を好きな理由は、下宗岡に住んでいる人達が好きだからです。下宗岡には、自分の持っている力を、周囲の人や地域社会に役立つ形で使いたいと思っている方が、たくさんいると感じています。一方で、それぞれ個人がもつ能力や時間的な制約等は様々なので、多様な役割を持つ人が地域に関われる場や機会が、たくさん生まれることを期待しています。
- 新しく下宗岡の住民になった方々にも、事業に参加してもらおう事。そして、第二期以降も継続して是非ラジオ体操や美化活動など継続して行ってもらいたい。
- 下宗岡地区は人と人とのつながりがしっかりとしており、地域がまとまっていると思います。
今後は新しく住民となられた方の地域活動の参加、その方々とのつながりを持つことが必要となってくると考えます。

④ 2年間で振り返って思うこと

- 最初は何をどうしたらいいか解らない状況でスタートして2年、自分の当初の考えとして「形として残る事業」をやりたいと思っていたので何とか4つの事業、イベントを終える事ができて、ほっとしている。我々のやっている活動を少しでも解っていただき、自分も活動に参加してみようと思っていただけの方が、たくさん出てこられる事を祈りたい。

- 今回のまちづくり委員会は一定の成果は有ったと思います、しかし私が思うに既成の団体（町内会、子ども会、父親の会等）と地域の考え方（地域貢献）も重なっているように思います。
市役所が全面的に協力頂けるのであれば、各地域の代表が集まり志木市全体でのイベントをしてもらいたい。例えば、志木地区と宗岡地区でいろは橋での綱引き大会（勝った方の地域を広げる）等。
- 市内全域でのオリエンテーリング等、開催する事により市内どこにでも知り合いが居て挨拶の出来る市に成れば素敵だと思います。
- 多くの方と知り合えたことは大変貴重な事でした。会議に参加できないことも多くメンバーにはご迷惑をおかけしたと思います。何か事を起こすというのはとても大変だということを痛感致しましたが、リーダーを中心にいいメンバーだったと思います。
- 当初高齢者がこういう組織に参加しても良いのか戸惑いと高齢者の立場から物を言おうとの気負いがありました。メンバーとの会議や催事の中で、その戸惑いと気負いもなく楽しく集中して参加することができました。その中で地区の中心となっているメンバーとの交流ができてそれぞれ組織の中で活躍している末を知ることができました。有意義な2年間でした。
- 途中、入院・手術で会議も抜けることがありましたが、今まで出会ったことがない方々と知り合え学ぶことが多かったです。またメンバーの仕事の取り組む力に感心してしまいました。そしてポジティブに行事に向かう姿勢にも安心感を持って参加、働くことができました。当初どうなっていくのか不安でしたが、夢や希望など話し合ったことや、それがだんだん形になっていく過程もわかり、いい経験になりました。
- 二年目の途中に家庭状況が変わり、思うように参加できず大変申し訳なく思っています。短い間でしたがメンバーに入って知り合えた方や市役所の方と仲良くなれたことは大きな財産になりました。微力ですが今後もOBとしてお手伝いできたら嬉しいです。二年間お世話になりました。ありがとうございました。
- 会議参加の欠席も多く、参画メンバーとしての役割がはたせませんでした。申し訳ありません。
参画メンバーの人選が難しいかと思いますが、地元の自営業者、首都圏への通勤者、高齢者、女性、教育機関関係者、若者等々職種の表現があいまいですが、地区の主力をなす住民層を中心に課題を上げられるような人選にご留意頂ければと思いました。
- 委員の皆さま方にとっては、不慣れで頼りない担当長だったかもしれませんが、全ての委員の方々に支えられて、無事に終えることができました。私にとって、委員の方やイベントに協力してくれた方々と出会うことができ、大きな財産をいただいたと思っています。ありがとうございました。

- このような事業に携わったこと、関わったことがほぼ無かったので不安であったが、住民委員の方々、職員の委員、事業に参加していただいた下宗岡の住民の皆さんの協力が大きく、とても有意義な経験となりました。この経験を今後の業務に少しでも生かせればと思います。
- 下宗岡地区を良くしたいという熱意をもった住民委員の皆さんと、地域課題を解決するためにどんなことができるか、あれこれ意見を交わして、少しずつ形にしていくことができることに、喜びを感じました。2年間の活動は楽とはいえませんが、会議や活動で笑顔が絶えなかったのは、この活動によって下宗岡に住む人達が楽しむ姿を想像するとワクワクできたから、信頼できるメンバーの皆さんと一緒にだったからです。ありがとうございました。
- 2年間という任期は始まる前はとても長いように感じましたが、実際事業を行ってみるとあっという間の2年間でした。下宗岡地区はほかの地区に比べ事業の数が多く、大変なように思いましたが、メンバーに恵まれ、協力することで非常に大きな達成感がありました。2年間ありがとうございました。
- 二年間、委員の方々と共に行ったまちづくり会議での経験、人との繋がりは、大変貴重なものであり、また得難いものでした。この経験を市役所職員の今後の職務で生かしていきたいと思います。また、まちづくり会議の担当職員としては、六月で任期終了しますが、今後は住民の一人として、地域活動に携わっていきたいと考えます。



「だるまさんがころんだ」と千人鍋



4 本町地区まちづくり会議

(1) 本町地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分	氏名	備考	
1	第1号委員	住民委員	久保木 法男	リーダー
2			奈良 富子	サブリーダー
3			伊藤 省三	
4			稲垣 真記	
5			運天 力也	
6			神山 健吉	
7			神山 富士子	
8			木下 武三	
9			丹野 和夫	
10			中山 洋	
11			新里 正	
12			馬場 正彦	
13			渡邊 恒雄	
14	第2号委員	職員委員	古屋 大輔	サブリーダー
15			浅見 千穂	
16			白子 裕一	
17			吉本 恵理	
18			市原 史也	

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	13人	10人	3人
第2号委員	5人	3人	2人

(2) 本町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 活動拠点 いろは遊学館、本町通り周辺

◆ 本町地区のプロフィール及び特色

本町地区まちづくり会議では、住民委員13人と担当職員5人の18人が集い、本会議(通称「本まち会」)を毎月1回のペースで開催するとともに、フィールドワークや勉強会などを通じて、現状を知るとともに地域の課題や問題点、更には解決策等について話し合った結果、「本町のまちのことを知ろう」をテーマに、次の3つの事業に取り組むこととしました。

- ① 本町通り夢のあるベンチ設置事業及びお楽しみイベント
- ② 本町どおりのクリーン作戦
- ③ 本町通り観光AR(拡張現実)計画

(3) 本町地区の課題について

本まち会では、会議の初期段階で「本町地区の現状・課題・問題点等」を6項目に分類し、毎月の本会議で順次、検討協議を進めていくこととしました。以下は、その「検討協議項目及び細目」です。

【項目1】賑わいのある魅力あふれるまちづくり

- 本町地区を活気あふれる賑わいのまちに
 - ① 本町地区の賑わい回復
 - ② 魅力あふれる店舗づくり
 - ③ 本町発のビジネス
- 自然と文化財を活かした観光名所づくりとPR
 - ① 「観光」を意識した駅前関係施設の充実
 - ② 新河岸川・柳瀬川等を中心とした自然環境の整備による観光客の誘致
 - ③ 志木市(本町地区)の歴史と文化を発信する活動の推進
- 駅前から市役所に至る道路を安全で魅力的な街並みに
 - ① 道路施設の整備(本町通りを中心とした歩道と車道の段差等の解決)
 - ② 清掃活動が徹底したまちづくり

【項目2】子育て支援の行き届いたまちづくり

- 幼児・小学生等に係る各種施策
 - ① 待機児童問題
 - ② 放課後対策
- 子どもが安心して遊び・学べる環境づくり
 - ① 公園設備の整備(ベンチ・遊具・緑)
 - ② 学校施設等の整備(校庭等)
- 教育水準の確保等

- 通学路等の安全確保
- 子育て世代のニーズに応じた取組み
- その他

【項目3】人と人とのつながりがあるまちづくり

- ご近所付き合いが親密なまちづくり
 - ① ご近所との交流の活性化（町内会の活性化）
 - ② 自然に挨拶を交わせるご近所付き合い
- 高齢者・子ども・来訪者が集える場所づくり
 - ① 「子ども会」の活性化
 - ② 仮称「老幼ふれあいセンター」の設置
 - ③ 国際交流の促進と外国人との共生（多文化共生）
- 子どもをしっかりと見守るまちづくり
 - ① 地域で子どもを見守り育てていく環境整備
 - ② 下校時の見守り活動

【項目4】災害に強いまちづくり

- 大震災、風水害等の防止に配慮したまちづくり
- 避難誘導が誰にでも明確なインフラの整備

【項目5】犯罪に強いまちづくり

- 犯罪のないまちづくり
 - ① 街灯の整備
 - ② 狭い道路環境の改善（本町2・3丁目）
 - ③ 子どもたちを犯罪や事故、虐待から守る活動の推進
 - ④ パトロール活動の強化
 - ⑤ 防犯カメラの設置促進
 - ⑥ 防犯意識の高揚
 - ⑦ 交番の新設
- 少年の非行防止のための活動
 - ① 不登校児の現状把握・原因分析と適切な対応
 - ② 「人の命の大切さ」を教える教育の重要性

【項目6】その他

- 医療体制の充実整備等
- 緑が多い街並みづくり



(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

本まち会では、約1年間にわたる検討協議結果を踏まえ、本町地区における「まちづくり」のために、我々メンバーが実践可能な事柄に的を絞り、具体的な実践事項を検討・実施していくこととしました。

その結果、本まち会としては、以下のようなハードとソフトの両面から、より具体的な検討を行うとともに、「賑わいのある魅力あふれるまちづくり」を実現するための第一歩として、本まち会メンバーを3つのグループに分け、志木駅から市場坂上に至る間の本町通りを中心とした以下のような活性化方策を検討・実践することとしました。

- ① 本町通りを地域住民・来訪者にとって「魅力あふれる通り」「優しい通り」とするための具体策の実践
- ② 町内会・商店会・学校（PTA）などの既存団体や外国人居住者等と協力した、本町通りを中心とした道路の一斉清掃活動
- ③ 本町地区内の歴史や文化を訪れる観光客などに伝えるツールとしてのARコード観光案内の開発など

具体的な実践項目の「事業内容及び実践結果」は、以下の通りです。

【実践項目1】 本町通り夢のあるベンチ設置事業及びお楽しみイベント (グループ1)

(ア) 事業内容等

志木市の中心とも言える本町通りを、市民や来訪者の方々にゆっくりと散策していただき、志木というまちをより広く知っていただくため、また高齢者や小さい子供連れの方々にも、一休みしていただける優しい本町通りを目指して、歩道上など8か所にベンチ9基を設置することとした。



ベンチには、地域の園児・児童・生徒・学生が描いた志木に関連する絵画を取り付けるとともに、志木市の人気キャラクター・カパルや新旧の志木市の街並みなどの動画を、スマートフォンソフトで見ることができるAR（拡張現実）機能を付与することにより、市民・来訪者に志木市をより深く知っていただくこととした。また、ベンチを収納型にし、簡易ではあるが防災用品・清掃用品などを収納していることを地域の方々にお知らせすることより、その活用を促すこととした。

さらに、本まち会各グループの活動を連動させるとともに、絵画制作にご協力いただいた方々に対するお礼や地域の方々に対するお礼・報告を兼ねて、『賑わいのある美しいまちづくり～本町を知ろう！～』と銘打ったお披露目イベントを平成28年3月13日（日）に開催することとした。

具体的には、志木駅東口駅前からいろは樋までの間に、設置されたベンチ設置9か所を市民や来訪者の方々と清掃活動をしながら、各所に設置されたARを体験するとともに、収納されている防災用品の確認をしながら歩くこととした。

また、イベントの実施に当たっては、いろは遊学館に参加しているサークルや細田学園高等学校吹奏楽部などにもご協力をいただき、志木市長等から絵画作成者に対し感謝状をお渡しする内容とし、これにより市役所(防災関係・観光関係)と地域住民(商店会・町内会)との一体化を図ることとした。

設置するベンチの数は必ずしも多くはないが、これらベンチを中心に地域住民、来訪者がその有効活用を図ることにより、高齢者・子ども・外国人居住者を含めた地域コミュニティの一体化・活性化、あるいは地域住民や来訪者の本町地区に所在する名所旧跡等への来訪者が増加することを期待するものである。

(イ) 実践結果

本町地区の現状や課題、問題点等を検討した結果、『賑わい』をキーワードに「賑わうまち、観光資源を誇れるまち、本町」を目指して、本町通り歩道上等8か所に絵画付き防災用品収納木製ベンチ9基を設置し、3月13日にお披露目イベント及び本町通り大掃除イベント等を同時実施した。



市内事業所の協力によって制作された木製ベンチは、平素は高齢者や本町地区を観光する人々の休憩場所として、あるいは清掃用具の収納場所として活用を図るとともに、非常時にはベンチ下に収納した携帯トイレやブルーシートなどの防災用品を地域の災害救援に活用できるようにした。

また、ベンチの背もたれには、幼稚園から大学生までの子どもたちが描いた志木市の絵をプリントするとともに、ベンチにスマートフォンをかざせば、AR(拡張現実)技術によって、志木市文化スポーツ振興公社のキャラクター「カバル」と記念撮影等ができるようにした。



【実践項目2】 本町通りクリーン作戦(グループ2)



(ア) 事業内容等

本町通り（丸井前広場からユリノキ通り及び本町1丁目から市場坂上交差点まで）を清潔感あふれる秩序だった街並みとするため、街頭清掃活動「本町通りクリーン作戦」を計画的・継続的に実施することとした。

具体的には、ゴミ拾いを中心に歩道上のガムはがし、吸い殻拾い等の清掃を行うこととした。なお、実施に当たっては、参加者の安全確保のため清掃区間を明確に示すとともに、イベント保険に加入することとした。

また、なるべく多くの方々に参加していただき、清掃活動の体験を通して、人と人とのつながりを大切にさせていただくこととした。

なお、街頭清掃活動の参加者には、将来、この活動から得られたたものを生かしていただきながら、市民自らの手による清掃活動を、計画的・継続的に実施して貰えるような土壌作りに努めていくこととした。

(イ) 実践結果

本町通りクリーン作戦に向けて参考とするため、平成27年5月と6月、久保木リーダーの紹介で、本まち会のメンバー数名が2回にわたって「NPO法人日本を美しくする会」が主催する街頭清掃活動に参加し、その活動内容を実践体験した。体験場所は、新宿歌舞伎町等で午前6:00～7:00までの間、参加者150名位が整然と、かつ手際よく清掃する実践的な活動風景を間近に体験することが出来た。

「本町通りクリーン作戦」の清掃ルートや、どのような清掃道具が必要かを確認するため、清掃練習を実施するとともに、清掃道具を順次購入し揃えていった。

平成27年10月18日（日）、10月25日（日）の両日早朝より丸井広場のガムはがし、ゴミ拾い、たばこの吸い殻拾いをした。参加者は両日とも10名前後であったが、25日は一般参加者が1名いた。丸井前広場はたばこの吸い殻、路面ガムが非常に多かったことから、本町通りの他のエリアはどうかについても確認していくこととした。

12月5日（土）早朝より、メンバー5名で志木駅東口駅前からゆりのき通りまでのゴミ拾いを中心に行った。当日は、タバコの吸い殻が多かった。

平成28年2月27日（日）早朝より丸井前広場から市場坂上までの清掃活動を実施した。メンバー10名が参加。丸井前広場は、やはり路面ガム、タバコの吸い殻が多かった。

3月13日（日）、他の本まち会グループと連携の上、お披露目イベントに参加しながら、歩道上のごみ拾いを行うとともに、イベント参加者の交通事故防止等のための誘導活動に従事した。

なお、5月29日（日）にも、パルシティを中心とした地域で街頭清掃活動を実施した。

【実践項目3】 本町通り観光AR（拡張現実）計画（グループ3）

（ア） 事業内容等

志木市のメインストリートである、本町通りを中心とした観光資源の有効活用を図るとともに、本町地区の活性化の一助にすべく、以下の事業を行うこととした。

- ① スマートフォンやタブレットに対応した無料ARアプリを用いた新たな観光PR方法の開発・実施。
- ② ゆるキャラとの記念撮影スポットの創設
- ③ 本町地区の今昔写真や歴史的な名所等を用いた観光PR動画の作成

（イ） 実践結果

志木市文化スポーツ振興公社の公式キャラクター「カパル」との記念撮影スポットを9か所設定するとともに、観光PR動画を9種類作成した。具体的には、本町通りに設置したベンチの絵画等にスマホをかざすと、それぞれベンチごとに設定をしている「カパルの画像」と「観光PR動画」を見ることができるようにした。



平成28年3月13日に、他のグループと一緒にお披露目イベントを実施した。なお、ARについては、イベント当日だけでなく一定期間、カパルとの記念撮影や動画閲覧を楽しむことができるようにした（歩道の利用許可は10年間）。

周知用のチラシを広報しき5月号に折り込み、市内全域に全戸配布した。なお、実際にベンチの前に行かなくても、チラシにスマートフォンやタブレットをかざせば、同様に楽しめるよう工夫した。

（5） 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

我々「第一期・本町まちづくり会議」の委員は、「我が町のことを良く知りたい」、「我が町を良くしたい」等、様々な思いを胸に自らの意思で「まちづくり会議」に積極的に参画させて頂いた一般市民と志木市職員の混成集団です。

しかしながら、我々は学識経験者という訳ではなく、老若男女が入り交じった人生経験・社会経験も異なる集団です。したがって、「本町まちづくり会議として、〇〇を提言する」などと言った大上段に構えたことは、基本的には差し控えるべきものと考えています。

このため、どうしても「提言を……」と問われれば、冒頭に記載した6項目に列記された事項すべてが、我々の一人ひとりの率直な思いであり、まさに「提言」そのものなのかも知れません。もとより、行政事情についてすべて周知している訳ではありませんので、これらの「提言」が、今後、志木市の行政にどう活かされていくかは分かりませんが、少なくとも担当部局の方々には是非目を通していただくとともに、たとえ多少時間がかかったとしても、市民と市職員が一体となって「向かっていくべき方向」をしっかりと見極めながら、まさに「市民力」と「行政力」を遺憾なく発揮し、これらの「提言事項」を着実に

進展させていくことを心より願っています。

なお、「本町地区の現状・課題・問題点等」の中には、広範にわたる意見、些末な意見等も多数盛り込まれていますが、その中には、まさに市民目線の発言も少なからず含まれているものと思いますので、今後の市行政の参考として頂ければ幸いです。

また、今後もこの「まちづくり会議」は続いていくものと思われませんが、市民と市職員の各委員が共通認識を構築しながら、積極的に意見を交換していくこと自体が最も重要であるとの認識の下、今後、新たな発想で新たな取り組みが積極的に展開されていくことを切望します。

(6) まとめ

- ① 志木市内を7つの地区に分けた初めての「まちづくり会議」ということで、集まったメンバー(各委員)も、当初、どのように検討協議を進めていけば良いのか、また結果としてどのような活動を行っていけば良いのか、暗中模索の状態が少なからず見受けられたが、会議の初期段階で「検討・協議すべき事項」を6項目に整理し、項目ごとに各月の会議で議論を深めながら共通認識を構築していったことが、スムーズな会議運営という観点から、結果的に非常に良かったと実感しています。
- ② 毎月の会議が終了した段階で、「検討事項一覧」という資料を作成し、それを約1年間かけて「検討結果一覧」という資料にまとめ上げたが、このプロセスと資料が、具体的な実践項目を決定していく上で極めて有益でありました。
- ③ 実践事項3項目を決定し、グループごとの活動へと移行した後も、それぞれのグループの活動状況をこまめに記録するとともに、その実践経過を取りまとめることが出来、この報告書自体も、各委員の努力の成果物として誇れるのではないかと感じています。
- ④ 今回の「本まち会」の活動の有益性・評価は、我々自身には出来ないが、我々の活動がきっかけとなり、少しでも良いところを行政が積極的に取り入れていただけを希望します。

実際に、AR(拡張現実)の活用方法については、既に市行政に取り入れられているし、組織横断的な清掃活動や防災備品の設置などについても、とにかく言われがちな「縦割り行政ではなかなかできないこと」を本まち会の活動がきっかけで出来たらと嬉しく思っています。

- ⑤ 全体を通じての各委員の感想としては、以下のようになります。
 - 木製ベンチに地元の児童等が描いた絵を取り付けたことが斬新かつ温かみがあり、多くの人々に喜ばれていることが実感できた(予算面で9基にとどまったが、その他の場所への設置を要望する声も聞こえてきている。)
 - 本まち会としてのウィンドブレーカーを自費で制作したが、明るい緑が非常に目立ち、実際に活動をする際にも、事故防止の観点から有益であったし、何よりも委員の一致団結が図れた。
 - 清掃活動については、平素の活動の重要性を認識しているが、一人がコンビニの袋を持って清掃活動に参加するだけでも、十分にまちを綺麗に出来ることが分かったので、今後実践していきたい。

- SNSを有効活用したことにより、一般市民が清掃活動に参加し、本まち会の活動状況を認識してくれたのではないかと感じている。
- 検討協議を進める上で、紆余曲折もあったが、一番大切なことは他の委員が言った意見を真っ向から否定するのではなく、自由闊達な意見の一つとして理解を深めていくことが大切だと感じた。
- ベンチ内に収容した清掃用具、防災用品については、委員としての任期終了後も可能な限り、その現状を維持できるよう見守っていきたいと感じている。
- 第一期ということもあり、本まち会について、地元の町会や商店街の方々の理解が得られない部分もあったが、その活動意義等について、今後、その周知を図って行って頂ければ有り難い。
- 当初から、形に残るものをやり遂げたいという気持ちであったが、実際に3つの事業を实践できて満足している。
- 志木の「まち」と「人」を知ることが出来て、大変良かった。
- イベントありきの考え方には同調できなかったが、「本まち会」のお披露目会イベントは、3つの事業を多くの方々に知っていただける機会として有益だと感じている。
- 第二期委員の方々には、自由な発想で有益な会議運営・具体的な実践項目の企画立案を期待したい。その一方で、第一期委員の発案で始まったものについても、有益と思料されるものについては、更に発展させる等により、本町地区の発展につなげて行って欲しい。
- 通常、この手の事業は4～5年はかかるものだと思っていたが、2年間という期間で目標がある程度達成でき大変満足している。
- 志木市が持つ歴史的なもの、観光資源等を大切にすることを忘れずに、今後も市民と市職員が協働でまちづくりを進めて行って貰いたい。そういう意味でも、今回の我々の活動は、「一つの歴史を作った」と誇れるような気がする。
- 3月13日のお披露目イベントは、3つのグループの一体感のみならず、市民・市職員等の一体感も構築出来たのではないかと感じている。
- 2年間という任期の中で、諸般の事情により離脱した委員の方もいたが、出来れば当初の委員全員で、事業を成し遂げたかった。
- イベントにおける感謝状は、「本まち会」の名前で作成したが、出来れば市長の名前も載せたかった。
- 市職員に頼りっぱなしのことも多かったが、最初の意識付けが大切だと思うので、第二期の委員の方々には、能力経験に応じたしっかりと役割分担の付与と、対等な関係の構築に努めて貰いたい。

5 幸町地区まちづくり会議

(1) 幸町地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分	氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	リーダー
2			サブリーダー
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12	第2号委員	職員委員	サブリーダー
13			
14			
15			
16			

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	11人	6人	5人
第2号委員	5人	3人	2人

(2) 幸町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 活動拠点 ふれあい館「もくせい」(志木四小地内)

◆ 幸町地区のプロフィール及び特色

20代から60代の男女がバランス良く官民異業種他社と幅広く所属している方々、学校PTAや地域ボランティアなどに関わって来られた方々など、個性豊かなメンバーとなりました。皆さん、志木市や地域を思う気持ちは強く、任期満了の2年間で全力で楽しみました。

(3) 幸町地区の課題について

平成26年7月より様々な視点で意見交換を重ねた結果、5つのカテゴリーに問題点を分けて、問題解決への課題を以下のとおりにまとめました。

	カテゴリー	課題	関心度
1	少子高齢化	1)交流拠点の整備・充実・周知	8
		2)介護予防の促進	7
2	町内会・コミュニティ	1)コミュニティ間の連携強化	8
		2)町内会活動の活性化	5
3	意識	1)コミュニティ意識の醸成	9
		2)公共の場でのマナー強化	4
4	環境	1)空き家対策の強化	7
5	防災・防犯	1)より安全な避難場所・経路の研究	6
		2)町内会単位で防災訓練を実施・強化	5
		3)防災対策の整備	5

会議の様子



(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

「地域に目を向けてもらい、地域を知ってもらおう」から「つながる」までの足掛かりの機会を作る事、住んでいる人に役に立ててもらおう「幸町ブック」を作成する事が我々一期生の役割だと考えました。

事業① 幸町しあわせフェスタ ～防災でつながろう～

事業② 幸町しあわせフェスタ ～防災でつながろう～ 報告会及び懇親会

事業③ 幸町ブック ～知ってつながる幸せなまち～ 作成

事業④ WEBによる広報等の活動

事業① 幸町しあわせフェスタ ～防災でつながろう～ 事業報告

事業目的：

(対内) メンバーが力を合わせて事業を組み立て、取り組む事で、新たな学びや、様々な交流の場が増えるなど、豊かな経験を得る機会となります。また、今回の経験などから、メンバーが地域のリーダーとして様々な場面で活躍する可能性も期待できます。

(対外) 地域に関心が無く、地域行事などに出て行くきっかけが無かった人達に、「防災」を通じて地域に目を向けてもらい、地域を知ってもらう機会とします。そこで、人と人がつながり、顔見知りが増えて行く事を期待します。

更には、町内会をはじめ多くの組織や団体ともコミットし、まちづくりの原動力を生み出す足掛かりにしたいと考えます。幸町地区まちづくり会議のPRにも努めます。

実施日時：平成27年11月7日(土)午前11時～午後2時(晴れ)

実施場所：志木第四小学校

主催：幸町地区まちづくり会議

共催：志木市

協力団体：志木市商工会、埼玉県南西部消防本部志木消防署、志木市消防団、
NPO 法人キャンパー、 NPO 法人日本搜索救助犬協会、
公益財団法人志木市文化スポーツ振興公社、NPO 法人志木もりあげ隊
激団志木、志木四小もくせい会、志木二小PTA、志木二中PTA、
志木2小&4小おやじクラブ、志木ニュータウン町内会連合会、
大塚町内会、愛宕町町内会、久保町内会、城ヶ丘町内会、福住町会、
シーズクラブ町内会、NPO 法人クラブしっキーず、
志木市放課後子ども教室志木りんくす、すまいるエフエム株式会社、
NPO 法人プラス・アーツ <順不同>

協 賛：コカ・コーライーストジャパン株式会社

内 容：防災エリアスタンプラリー、展示エリア、フードエリア、高齢者体力測定の実施。150名の当日ボランティアの方々に協力を得る。

来場者数：約900人（内、アンケート配布者数548人）

チラシ配布数：10,000枚

当日ボランティア数：約150人（協力団体より）

当日アンケート回収：55枚

*来場者内訳表

大塚町内会	113人	愛宕町内会	36人
久保町内会	35人	城ヶ丘町内会	48人
福住町会	24人	シーズクラブ町内会	25人
志木ニュータウン町内会連合会	177人	その他（*）	442人
*館、柏町、本町、下宗岡、千葉県、神奈川県、東京都、島根県			合計 900人

*フードエリア販売（食券）数

※午前11時30分販売開始、午前11時55分完売

うどん	カレー（中辛）	カレー（甘口）	肉じゃが	合計
202食	150食	150食	110食	612食

*スタンプラリー交換数

ポップコーン	わたがし
380食	380食

<オープニング>



志木四小鼓笛隊



志木二中吹奏楽部

<展示エリア>



はしご車



捜索救助犬の実演

<フードエリア>



炊き出し訓練 (カレー・肉じゃが)



スタンプラリー交換所
(わたがし・ポップコーン)



飲食スペース

<防災エリア>



対決バケツリレー



バケツで消火



水消火器的あてゲーム



持ち出し品なあに？クイズ



なまずの学校



紙皿作り

*アンケート集計結果

<幸町しあわせフェスタ ～防災でつながろう～ 参加者アンケート集計一覧>

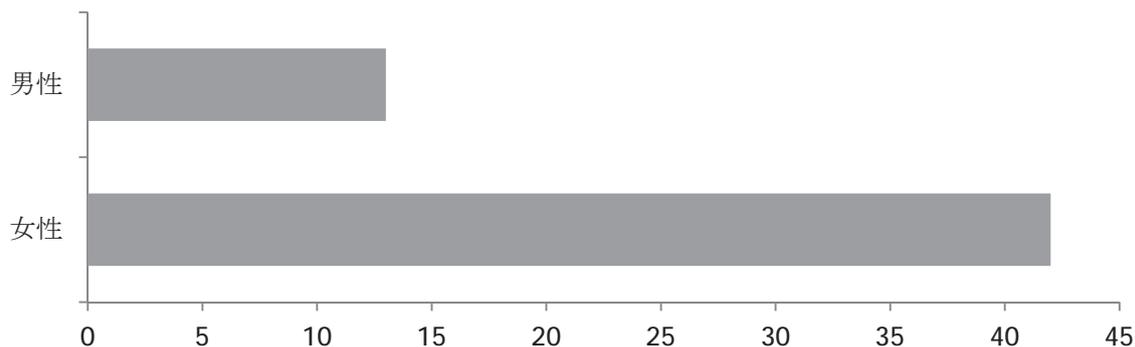
開催日時) 平成27年11月7日(土) 11:00~14:00

来場者数) 900名(当日ボランティアスタッフ150名含む)

配布数) 548枚 回収数) 55枚 回収率) 10.03%

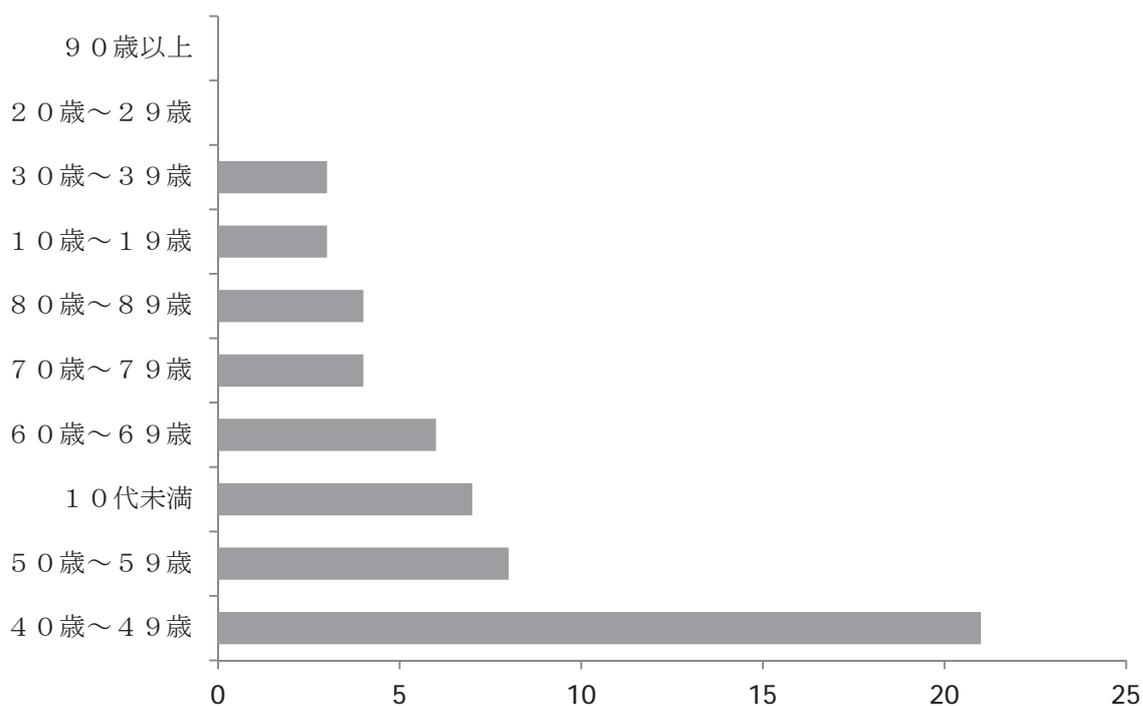
① 性別

男性) 13名 女性) 42名 合計) 55名



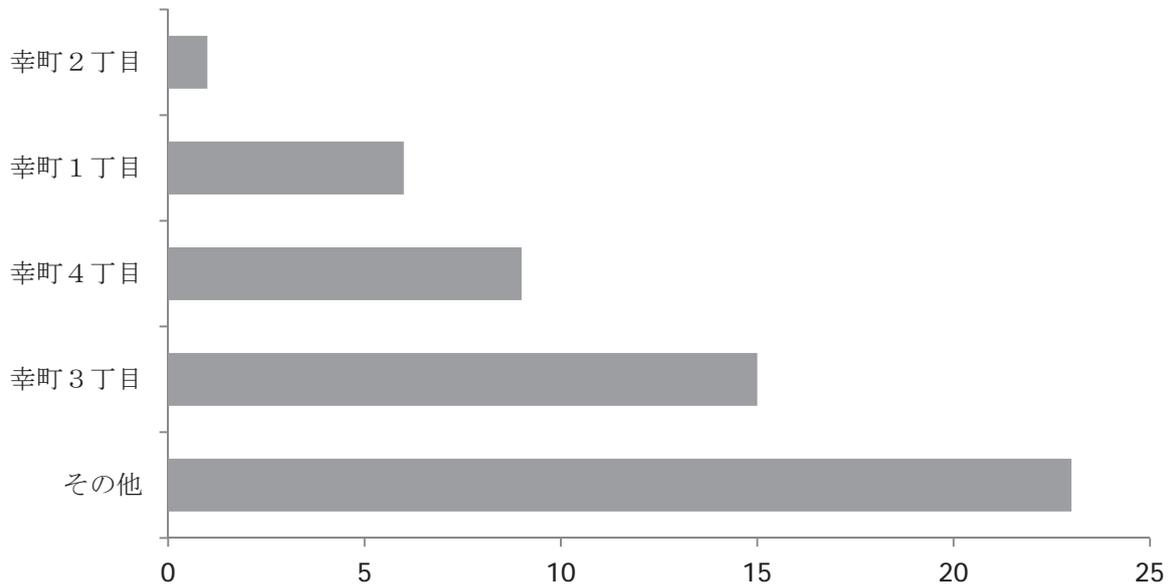
② 年齢

10歳未満) 7名	10歳~19歳) 3名	20歳~29歳) 0名
30歳~39歳) 3名	40歳~49歳) 21名	50歳~59歳) 8名
60歳~69歳) 6名	70歳~79歳) 4名	80歳~89歳) 4名
90歳以上) 0名		



③ どこにお住まいですか？

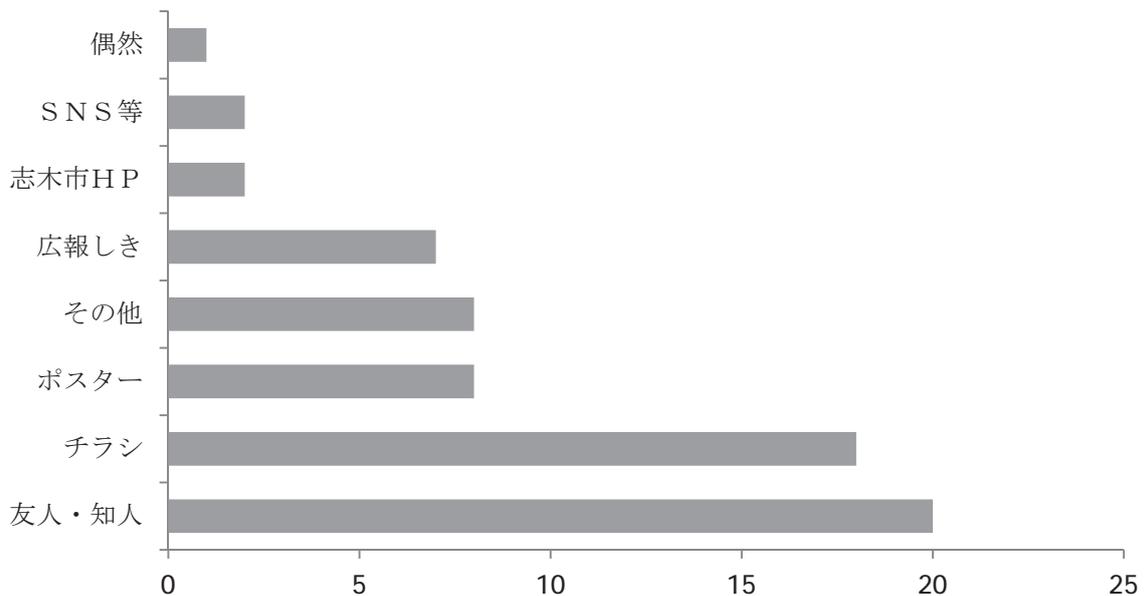
幸町1丁目) 6名 幸町2丁目) 1名 幸町3丁目) 15名
幸町4丁目) 9名 その他) 23名



④ このイベントをどのようにお知りになりましたか？（複数回答可）

チラシ) 18名、ポスター) 8名、広報しき) 7名、志木市HP) 2名、
SNS(FBなど)2名、友人・知人) 20名、偶然) 1名、その他) 8名、
その他回答) 6名

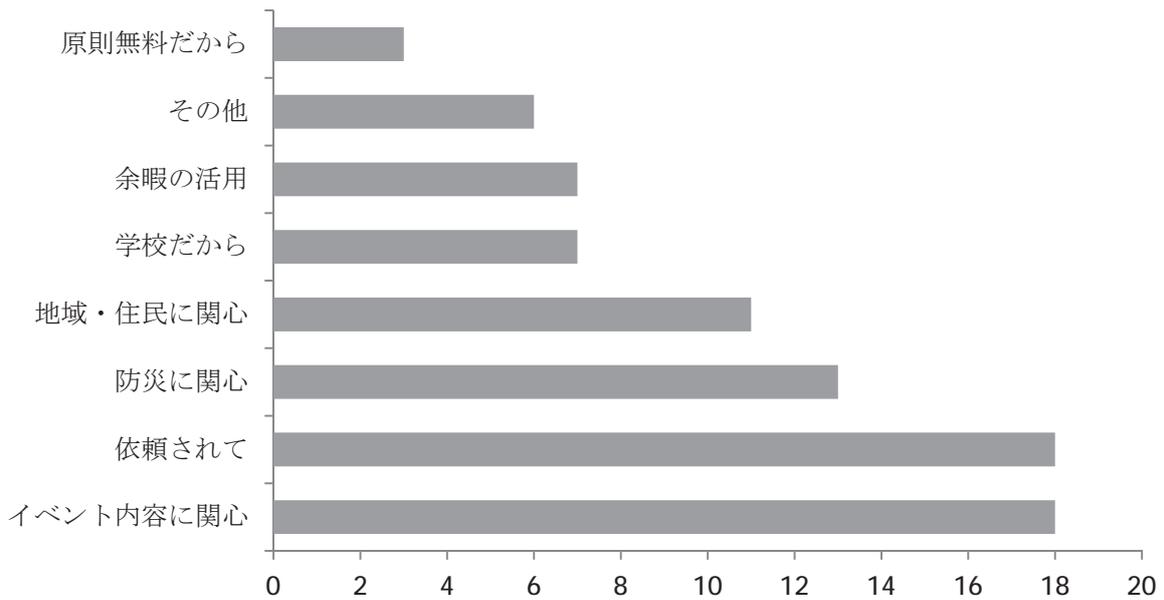
- ・小学校の手紙で知った(2)
- ・学校(2)
- ・所属クラブ
- ・町内会役員



⑤ どうしてこのイベントに参加しようと思われましたか？（複数回答可）

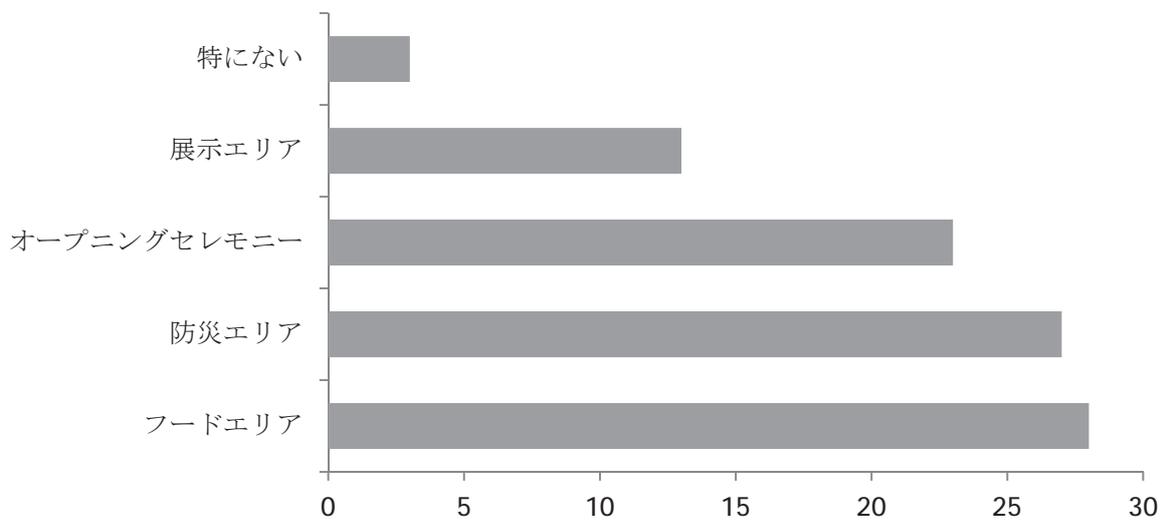
防災に関心) 13名、イベント内容に関心) 18名、
 地域・住民に関心) 11名、学校だから) 7名、原則無料だから) 3名、
 依頼されて) 18名、余暇の活用) 7名、その他) 6名

- ・地域のゆるキャラに会える
- ・お母さんに誘われて
- ・カパルに会えるから (2)
- ・楽しそうだったから
- ・お手伝い



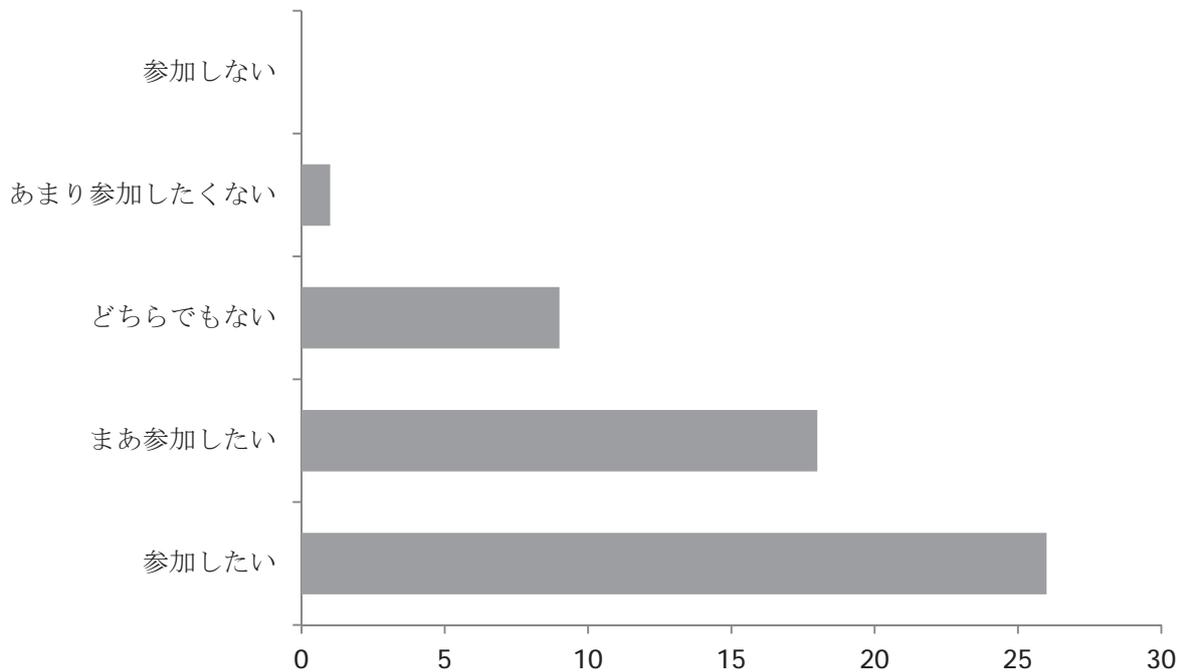
⑥ どのイベントに参加されましたか？（複数回答可）

オープニングセレモニー) 23名、防災エリア) 27名、
 展示エリア) 13名、フードエリア) 28名、特にない) 3名



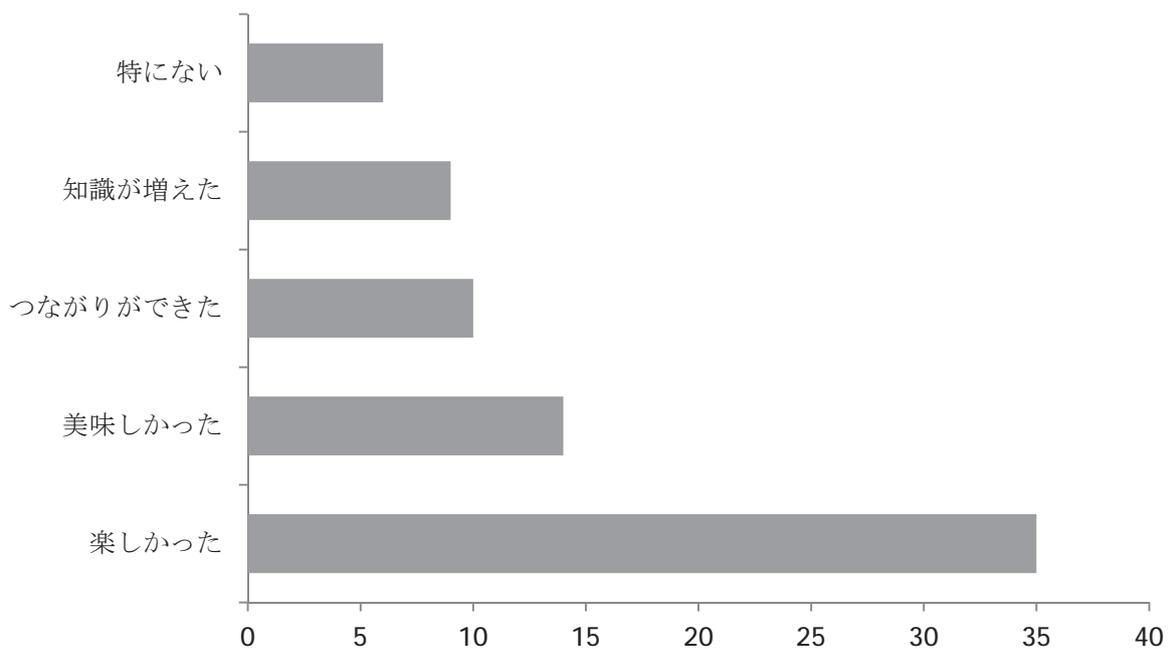
⑦ またこのようなイベントがあったら参加したいと思いますか？

参加したい) 26名、まあ参加したい) 18名、どちらでもない) 9名、あまり参加したくない) 1名、参加しない) 0名



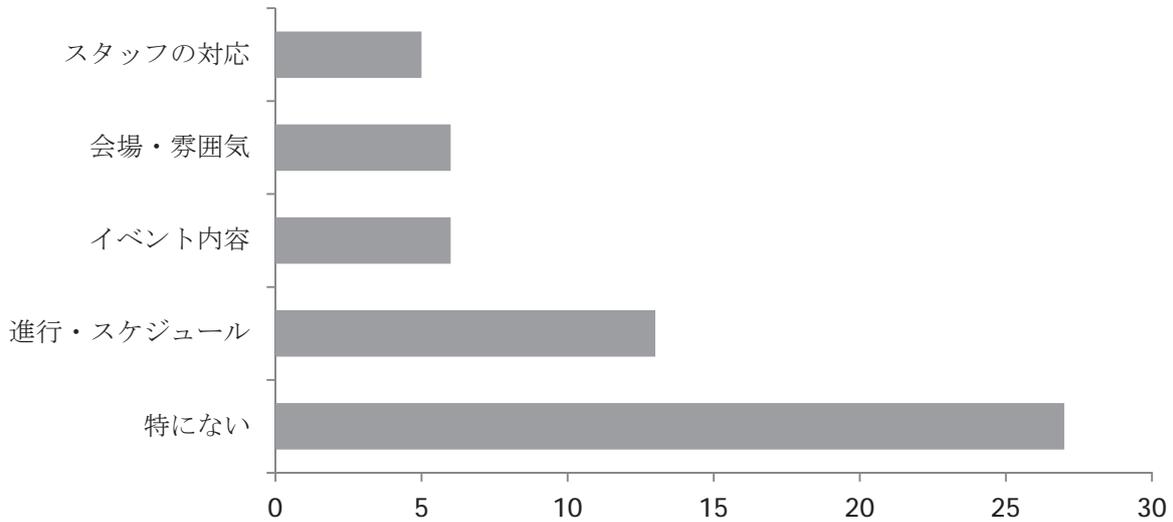
⑧ 本日参加して良かったことは何ですか？（複数回答可）

つながりができた) 10名、楽しかった) 35名、美味しかった) 14名、知識が増えた) 9名、特にない) 6名



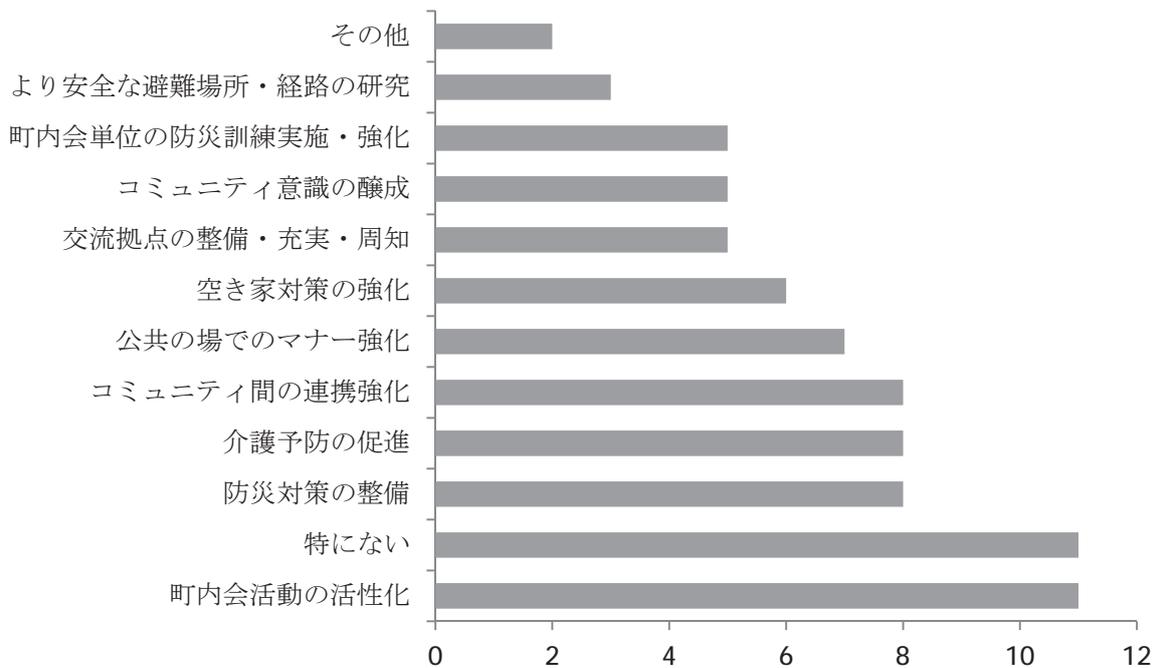
⑨ 本日参加して気になったところはありますか？（複数回答可）

イベント内容) 6名、進行・スケジュール) 13名、
 スタッフの対応) 5名、会場・雰囲気) 6名、特にない) 27名



⑩ 幸町地区の課題として感じることは何ですか？（複数回答可）

交流拠点の整備・充実・周知) 5名、介護予防の促進) 8名、
 コミュニティ間の連携強化) 8名、町内会活動の活性化) 11名、
 コミュニティ意識の醸成) 5名、公共の場でのマナー強化) 7名、
 空き家対策の強化) 6名、より安全な避難場所・経路の研究) 3名、
 町内会単位の防災訓練実施・強化) 5名、防災対策の整備) 8名、
 その他) 2名、特にない) 11名



⑪ その他、幸町地区のまちづくりについてご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

- ・他の地域から参加しましたが、楽しく勉強になりました。
- ・素晴らしい企画、運営、ありがとうございました。
- ・歩道、街灯の整備、街灯を増やしてほしい。
- ・幸町地区にある公園の照明灯が夜9時過ぎると消えてしまう、防犯、防災面より外路灯と同じく点灯して欲しい など

事業①を終えての報告

近隣にお住いの方々をはじめ、900人もの方々に足を運んでいただきました。特に普段関わる機会の無かった新たな顔ぶれが多かったこと、子ども世代、子育て世代、高齢者世代と幅広い方々の参加があった事が目立ちました。

今後、地域自主防災活動に子ども世代の参加が増えて行く期待も伺えました。更に、当日ボランティア150名の方々とこの出会いはこれからの地域づくりの財産となりました。

事業② 幸町しあわせフェスタ ～防災でつながろう～ 報告会及び懇親会 事業報告
--

事業目的：フェスタ協力の15団体、150名の当日ボランティアとの出会いをつなぐりにする場を設け、今後の地域づくりの原動力とします。

実施日時：平成28年3月19日（土） 午後6時～午後9時（曇り）

実施場所：珈琲館 路（ぺあも～る商店街）

主 催：幸町地区まちづくり会議

参加団体：城ヶ丘町内会、福住町会、志木四小もくせい会、志木二小PTA、志木第二中学校、志木2小&4小おやじクラブ、志木市放課後子ども教室志木りんくす、NPO 法人志木もりあげ隊激団志木、NPO 法人クラブしっきーず、志木市商工会、すまいるエフエム株式会社、ヤセ騎士（お笑い芸人）、志木市消防団（本部分団・第二分団）、館地区まちづくり会議、市民活動推進課、（15団体）

参加者：40名（各団体25人・まちづくり会議メンバー15人）

内 容：フェスタの報告、各団体の活動や事例発表、問題点、地区まちづくり会議への期待や要望が披露され、その後、懇親を深めました。

事業の様子



事業②を終えての報告

ご参加頂いた各団体が「幸町地区まちづくり」というテーマで、一堂に会したのは初めてのようです。フェスタの報告後、各団体から活動紹介や現在悩んでいる点などを聞かせて頂き、とても参考になる事が多く、深い懇親の機会となりました。今後、益々つながりが強くなり、市民力、地域力の底上げとなる事を期待したいと考えます。

事業③ 幸町ブック ～知ってつながる幸せなまち～ 作成 事業報告

事業目的：幸町地区の方の健康で長生きしたい、知りたい、仲間になりたいに込め“幸せなまち”づくりのガイドとなるものを作成します。

発行日：平成28年6月19日（日）（デジタルデータ・小冊子）

発行先：（データ）志木市HP、幸町地区まちづくり会議ブログ（7月末閉鎖）
（小冊子）志木市商工会、NPO 法人志木もりあげ隊激団志木、志木四小もくせい会、志木二小PTA、志木二中PTA、志木2小&4小おやじクラブ、志木ニュータウン町内会連合会、大塚町内会、愛宕町町内会、久保町内会、城ヶ丘町内会、福住町会、シーズクラブ町内会、NPO 法人クラブしっきーず、志木市放課後子ども教室志木りんくす、すまいるエフエム株式会社、ヤセ騎士（お笑い芸人）、志木市消防団、館地区まちづくり会議、市民活動推進課

内 容 :

第1部

- I 志木市・幸町の誕生と歴史（いつからお住まいですか？）
 - 1 地名の由来
 - 2 志木市の歴史
- II 幸町地区の居住環境（どこにお住まいですか？）
 - 1 志木市周辺の広域地図
 - 2 志木市幸町周辺の詳細地図
- III 幸町地区の状況・課題と将来（どんなところに興味がありますか？）
 - 1 統計でみる市および幸町の状況
 - 2 住民の意識
 - 3 幸町地区の特色と問題・課題
 - 4 志木市および幸町の地区ビジョン・計画

第2部

- IV 幸町地区Q&A（もっと知りたいことは？）
 - 1 子育てに関するQ&Aについて
 - 2 介護に関するQ&Aについて
 - 3 防災・防犯に関するQ&Aについて
 - 4 町内会活動・主な地域活動に関するQ&Aについて
 - 5 市民活動（NPO法人、ボランティア団体等）に関するQ&Aについて
 - 6 ゆかりの人・キャラクター、つながる人に関するQ&Aについて
 - V 幸せに生きるヒント（より幸せに）
 - 1 体に良い食生活
 - 2 ライフステージごとの健康への取り組み、運動習慣
 - 3 特産品・名物、推奨の店・事業所
- 参考“幸せ”に関する、知見、名言

事業③を終えての報告

一期生らしいガイドブックが出来たと思います。幸町の皆様の生活に欠かせないガイドとなってくれることを期待したいです。

作成の様子



ブックの表紙



事業④ WEBによる広報等の活動 事業報告

事業目的：幸町地区まちづくり会議の日々の活動と地域情報を掲載する事で、幸町や幸町地区まちづくり会議の認知度を上げながら、地域・市民の声が直接届く窓口の役目を担います。そして、事前の事業告知をする事で、フェスタへの参加者を一人でも多くするために開設しました。また、志木市地区まちづくり会議の活動理解を深め、2期目以降のメンバー集めや継続がよりスムーズ移行できるよう行いました。

実施期間：平成27年6月～平成28年7月

実施方法：独自ブログ開設（FB連動）、市HP

主 催：幸町地区まちづくり会議

内 容：会議風景、事業紹介、幸町のまち自慢、お店紹介等

事業④を終えての報告

幸町地区まちづくり会議メンバーや、事業を通じて知り合った関係者とFBの輪が広がり「いいね」が増えていきました。同時にブログへの「アクセス数」も微増しており、事業の理解や認知度は上がったと思います。これからの志木市地区まちづくり会議躍進の一助となればと思います。

* ホームページ(ウェブサイト)※現在閉鎖中

志木市「地区まちづくり会議」

幸町地区まちづくり会議ウェブサイト



トップページ

メンバー紹介

地区まちづくり会議とは?

会議報告

お問い合わせ

幸町しあわせフェスタ
～防災でつながろう～

防災体験を通じて地域の人とつながろう♪

日時 平成27年11月7日(土) 会場 志木第四小学校
11:00 ~ 14:00 ※小雨決行 (駐車場はありません)

NEWS

志木市 幸町地区まちづくり会議

2016.03.29 幸町しあわせフェスタ報告会及び親睦会を実施しました(3月19日)

2016.03.28 幸町しあわせフェスタ(11月7日) 実施報告

NEWS一覧

* 市役所ホームページ

<http://www.city.shiki.lg.jp/index.cfm/37,57934,373,1306.html>

志木市 幸町地区
まちづくり会議
地域団体

タイムライン 基本データ 写真 レビュー もっと見る

このページの投稿を検索

ステータス 写真・動画 クーポン、イベント+

◆ 全体を通して

より多くの方々に地域に目を向けて、知ってもらふ事は、顔見知りが増え、人と人がつながり、新たな人材、新たなコミュニティが生まれます。そして、現在ともコミットし、協働によるまちづくり推進の原動力となっていきます。

今回の経験から、市民、職員のメンバーが地域のリーダーとして、様々な場面で活躍することでしょう。幸町地区は、「人と小さなコミュニティ」にあふれた可能性に満ちた地域です。今回の取り組みが「新たな風」となって、「次世代に向かって」事を生み出して行くのだと確信しています。そして、誰もが住みたいと願う「しあわせなまち幸町」に成長していくのです。



(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

ア 課題を解決に結びつける方法や手法

今回まとめた課題を解決するならば、テーマごとに地域から関係者などを集い、期間を定め、腰を据えて話す場を設けていく事だと思います。また、今回の実績を次に活かせるアーカイブとして蓄積し、いつでも活用できる仕組みづくりと語り部を育てて行く事だと思います。

イ 期待できる効果

地域の声を聴く体制があり不安要素も一つずつ解消されていき、安心して暮らせるまちになっていけば、住みたいと願う人が増えていきます。住みやすい自慢の地域となっていき、地元で育った子ども達が自分の育った故郷に居を構える切っ掛けとなるなど、更なる移住者も期待できると思います。

ウ 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後の課題

経験豊かで得意に優れた人財が豊富に在住して、町内会をはじめ活発な小さなコミュニティが点在している地域です。この強みを地域がひとつになり共に伸ばして行く事を心掛け、次世代に向けたまちづくりの取り組みとしていけば、将来に向けた新しい幸町地区のイメージが見えてくると思います。また、自分の住む街を「誇りに思い」「自慢できる人」を増やす事で良さが際立ち、次の課題も見えてきてその時代ごとに解決されていくものと思います。

＝おもしろ事業計画（案）の紹介＝

- ① まちなか巨大ウォータースライダー
- ② 地域みんなでギネスに挑戦
- ③ 地ビールコミュニティ居酒屋
- ④ 幸町うどん店
- ⑤ コミュニティカフェ
- ⑥ しあわせ寺子屋など

エ 今後のまちづくりにどのように生かせるか

今回の課題や問題点、取り組んだ4つの事業結果を振り返り、何が成果で何がおよばなかったのかを客観的に検証することです。同じく今回の実績のアーカイブ化に伴い、取り扱う仕組みと語り部を育てて行く事だと思えます。

(6) まとめ

◆ 2年間の任期を振り返っての感想

志木市の皆様へ（リーダー 大村相基）

地区まちづくり会議と言う手法は、斬新でチャレンジ性のある試みだったと思えます。お陰様で一期生として生みの苦しみを存分に楽しむ事ができました。今回の機会を通じ、新たな出会いや様々な経験をさせて頂いたこと感謝しかございません。第二期目以降の皆様方のご活躍と我がまち志木市が、幸せなまち志木市になって行く事を祈念し感想といたします。関わって頂き、支えて頂いた全ての皆様、二年間本当にありがとうございました。

大村 相基

メンバーの皆様、拙いリーダーでありましたが二年間ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。皆様のお蔭で私が一番しあわせになりました。またどこかで元気にお会いいたしましょう！

金子 朋子

この2年間、多くの方々と知り合うことができました。またフェスタでは楽しみながら貴重な経験をすることもできました。本当に充実した2年間でした。ありがとうございました。

工藤 晴香

様々な立場・考え方の一人一人が力を合わせ活動できるチャンスは滅多にありません。わが町「幸町」に本気で向き合った2年間、皆様から多くのことを学ばせていただきました。心からの感謝を込めて、ありがとうございます。

後藤 孝志

このメンバーだけでこんな大きなイベント、本当に開催出来るのだろうか？」と私個人的には疑心的でしたが、多くのボランティアとご協力を得て大成功に終わり、とても感動しました。微力ながらも携わらせていただき、思い出深い良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

鈴木 三枝子

怪我をしないで、もっと会議に参加したかったと思います。また今度、まちづくり会議のような活動にも参加できたらと思っています。どうもありがとうございました。

永井 千恵子

「幸町に住んで良かったと思われる」ために地区の課題を見つけ、解決に結びつけるために防災をテーマにしたイベント「幸町しあわせフェスタ」を開催し、子どもも大人も楽しみながら防災の「いろは」「知識」を学びました。今後も地域のニーズ、住民のスキル、思いの確認を連想し「こだわり」の明確化や事業像の発展と多様な主体との連携をお願いいたします。

福永 信彦

市民や職員の方とのつながりを大切にして、志木市幸町に住んでいる一市民として、互いに助け合い、しあわせなまちをつくっていくことに積極的に関わっていきます。

穂坂 泰

幸町地区まちづくり会議に参加させていただき、あらためて自分のまちを見つめ直し、もっと好きになることができました。メンバーの方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました！

細田 行政

地区まちづくり会議の活動で「発見したこと」、「地域を支える人々・より良くしたいと考え、行動する人々との出会い」によって変わったことがあります。それは、私にとって幸町が新しい、身近な「まち」になったことです。ありがとうございました。

松浦 優子

『自分の住んでいるまち～幸町～で、何かお役に立つことがあれば参加してみたい』というごくごくシンプルな思いからでした。素敵なメンバーと出会い、楽しく、あっという間の2年でした。活動を通して改めて幸町のことを知り、そして決心しました。死ぬまでここで暮らします。

吉田 栄作

ボランティアの方々のご尽力により幸町しあわせフェスタをイメージ通りに実施できたこと、そして幸町まちづくり会議の第一期生の方々とつながれたことがこの2年間の私の宝物です。

山本 勲

2年間という限られた時間ではありましたが、幸町地区まちづくりメンバーの皆様をはじめ市内で活躍されている各種団体の方たちと出会えたこと。一緒に「まち（幸町）」のことについて、語り合う時間を与えてもらったことに感謝します。ありがとうございました。

一杉 俊昭

色々な経験・体験をさせていただきました。あまり力にはなれませんでした。が、メンバーにも恵まれ、幸町地区でよかったとしみじみ思います。二年間お世話になりました。大変にありがとうございました。

星野 明子

地区まちづくり会議では、今までになかったことをたくさん経験することができました。大変だと思うこともありましたが、それ以上にメンバーの皆さんや皆さんを通じて出会えた方々と、いろいろなことを共有し、つながることができたことをもうれしく思っています。これからもつながりを大切に、お互いに協力し合える関係でいられたらと思います。

高山 佳明

まちづくり会議に参加し、幸町がさらに好きになりました。いろいろな人と一緒に経験ができたこと、顔の見える関係になれたことを生かして、これからも志木市のために実践していきたいと思います。ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

森本 祐子

メンバーの皆さんをはじめ、たくさんの人との出会いの中で、たくさんのお話を教えていただきました。とても貴重な経験ができたこと、そして今回知り合った皆さんとの出会いは、私にとって宝物です。本当にありがとうございました。

6 館地区まちづくり会議

(1) 館地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分	氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	リーダー
2			サブリーダー
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13	第2号委員	職員委員	サブリーダー
14			
15			
16			
17			

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	12人	10人	2人
第2号委員	5人	3人	2人

(2) 館地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

- ◆ 活動拠点 ふれあい館「もくせい」活動スペース「ゆめ」・「みらい」
(志木第四小学校・北校舎1階(志木市館1-4-1))

地区のほとんどは、志木ニュータウンの集合住宅で占められており、入居の時期は、1980年代(昭和55年～)が多く、当時入居した住民の多くは、いわゆる「団塊の世代」といわれる人々である。

現在の街の特色としては、館地区の高齢化率(65歳以上の割合)は30%を超えており、(志木市全体は約23%)他地区に比べ高い割合となっている。更に特筆すべきは、「団塊のジュニア世代」と言われる年齢層の人口が少ないことである。このことから館地区の住民の高齢化は、今後加速して進んでいくことが予想される。自然の人口変動に任せるだけでなく、バランスのとれた住民構成を実現して地域の活力を維持するために出来ることは無いか、考える時期を迎えている。

開発後、30年余りを経過した建物・設備の老朽化に伴う課題も目立ち始めている。志木ニュータウンは、計画的な大規模修繕工事の実施と適切な管理により比較的良好な状態を維持していると言えるが、いずれは建替えなどを検討せざるを得ない時期が来るであろう。

館地区まちづくり会議のメンバーは、住民委員17名、職員委員5名の22名という大人数でスタートした。(最終的には住民委員12名、職員委員5名)月1回の会議を開催し、課題の抽出時には、分野別にチームを組み議論を重ねた。事業化についての取りまとめまで約1年を費やした。街のあるべき姿については課題が多岐にわたり、より幅広く住民の意見を求める必要を感じて住民アンケートを実施した。又、アンケート結果を住民にフィードバックするため、「街の未来を考えるシンポジウム&ワークショップ」を開催し、次期以降のまちづくり会議活動の基礎となるものを残すこととした。

(3) 館地区の課題について

課題の抽出については、会議発足時に委員の意識共有を目的としたアンケートを実施。アンケートをベースに館地区が抱える課題について9つの分野に分けて意見交換を実施。以下17つの課題が挙げられた。

① 住宅

No.1	
課題	建物とインフラの耐震性能の把握ができていない
関連・背景	昭和56年に制定された新耐震基準前の設計の棟がある。今後来ると想定されている大規模地震が来た場合、被害が生じると考えられる。また、上下水道の配管や電線等のインフラに関しては耐震問題がある。
摘要	10年毎に修繕工事を行ってきているが、建物の寿命を考えても近未来には、修繕ではなく建替えを検討しなくてはならない時期が来る。(長期的な課題) 市の補助金を利用して、まずは、各管理組合ごとに耐震診断を実施すべきである。 ただし、第5次志木市総合振興計画における将来人口を見据えたまちづくりにおいて人口を増やす努力をするならば、耐震性が低いままでは人が集まってこない。
No.2	
課題	高齢居住者が増加しているが、建物のバリアフリー化が不十分
関連・背景	現在、超高齢社会を迎えるにあたり、マンションに限らず、バリアフリーやユニバーサルデザインについては大きな課題である。バリアフリーやユニバーサルデザインは高齢者にやさしいだけでなく、ベビーカーを押した若い子育て世代や障がい者にも魅力があり、やさしいものである。
摘要	第5次志木市総合振興計画における将来人口を見据えたまちづくりにおいて人口を増やす努力をするならば、バリアフリーでないままでは人が集まってこない。志木ニュータウンの各マンションはバリアフリー対策が十分にできていない。そのうえで、中央の森参番街の車イスの昇降機等は参考になる。
No.3	
課題	空室の増加が予想されるが、空室情報の把握・対応等がなされていない
関連・背景	近年、空家の急増とそれに起因する安全・防犯上その他の問題発生がTVニュースや特別番組等で報道されている。志木ニュータウンにおいては問題が顕在化するような状況には至っていないようだが、高齢化、独居世帯の増加、老朽化による売買、賃貸市場での価値低下などによって空室が急増し、将来様々な問題が発生する可能性があると考ええる。(防犯・安全上の問題、税や管理費等の滞納、資産価値の低下など)
摘要	最近の空室の状況、推移等を調査、確認する必要がある(簡便的には住戸数と世帯数の差異の趨勢を確認)。また、インターネット等で幅広く周知したり、住民(組織)による空室情報の把握や斡旋、などの関与の可能性を検討し、魅力的な改装の提案、空室の買い上げと賃貸等の事業化の可能性を検討する。
No.4	
課題	将来の建替えについての準備がなされていない
関連・背景	志木ニュータウンの住宅問題は、高齢化、世帯構成(子育て世代への交代の停滞)などの将来課題に密接に関連するテーマである。団地全体の機能や建物のあるべき姿を考えることにより、対応が必要な課題が見えてくるのではない。
摘要	将来に備えて、どのような規模、構造の構築物等の新・増設が、容積率等の制約条件に抵触する可能性があるのか。また、一団地認定と建替え、再開発との関係などを調査、確認しておく必要があると考ええる。 その他に、 ・「(仮)理想の街(志木ニュータウン再生プラン)」をテーマにコンペやデザイン(絵画)募集などを実施する。 ・大学(研究室)や企業(UR都市機構など)に働きかけて、志木ニュータウンの将来を考えるプロジェクトを立ち上げる。

② 道路・交通

No.1	
課題	ニュータウン内の交通マナー(特に自転車)悪化による事故が増加している
関連・背景	自転車マナーやルール違反による事故が増えている。柳瀬川駅前交番前のカーブなど危険な箇所が何か所かある。
摘要	個人賠償保険加入(すでに東の森三番街が加入)をニュータウン全域に広められないか。自転車マナーの向上・啓発活動も必要。また、交通安全上危険な箇所を洗い出しを行うべきである。
No.2	
課題	ニュータウン内歩道路面の凹凸が大きくなり危険箇所が多い
関連・背景	歩道に街路樹の根による盛り上がり箇所があり危険。
摘要	補修必要箇所について緊急度に応じて、随時、市道路課に提言すべきであるが、年に何回かニュータウン全体で「道路点検日」を設け、危険箇所がないか点検を行うのなどではどうか。

③ 公園・桜

No.1	
課題	柳瀬川の桜を観光資源として活用できていない
関連・背景	柳瀬川の桜は観光資産であるが、ボンボリがついているところとついていないところがある。また、ごみ、騒音、光害等の問題解決がされないまま中途半端な観光化が進んで来ている。
摘要	強い雨や風が吹いた翌日は、ボンボリがとれていたり、電球が見えていたりする。そのような状況はみっともないので、見廻りをし、なおしてほしい。それができないのであれば、ボンボリはつけなくても良いのではないかと。また、夜間の花見については、環境問題を徹底的にクリアできたならばライトアップして観光化するのはよいが、それができないならばライトアップも止めるべきである。観光客が見物しやすいようにするというよりは、館地区の住民が生活しやすい方に重点を置いて検討したい。うるさかったり、明るかったりして館地区の住民が生活しづらくなるのであれば、夜間のライトアップはしなくても良いのではないかと。
No.2	
課題	ニュータウン内児童公園の利用者が少ない。子どもから高齢者まで幅広く利用できる施設になっていない
関連・背景	子供の減少と共に公園に求められる機能が多用化しているのに対応が出来ていない。また、近隣公園のほか児童公園、円形広場やプレイロットなど多くの公園スペースがあるが有効に利用出来ていない。
摘要	インパクトのある遊具を設置して魅力のある公園(例えば、日本一〇〇な公園)を作れば、宣伝効果も働き志木ニュータウンへの入居者が増えるのではないかと。また、高齢者がゆっくり過ごせる(行きたくなる)ような公園を整備してはどうか。高齢者の孤立化(引きこもり)を抑制する効果も期待できる。他にも、さくらをメインとした公園が東武東上線から見える位置にあれば宣伝効果になる。

④ コミュニティ

No.1	
課題	人と人が繋がる仕組みづくりが不十分
関連・背景	世帯の孤立化が進んでいる
摘要	ひとり暮らしをサポートする仕組みがなく、助けを求めるための情報発信ができない。しかし、若者世帯は忙しく、住み続ける意識がないのかもしれない。孤立化(個人・家庭)防止のための策(システム)を作っておく必要がある。例えば、開かれた町内会にし、サークル活動やオープンなイベントなどに町内会員以外にも誘う。

No.2	
課題	世代間交流の場がなく、コミュニティスペースが不十分
関連・背景	高齢者が元気に外に出てもらいたいが、そのための働きかけがない。「集まろう！」で人は集まらない。住民が地元の商店の場所や情報を知らない。
摘要	コミュニティの場所として集会所を使うことができるのかもしれない。敬老会等、市民会館や市役所まで行けない高齢者向けに民生委員に手伝ってもらって集会所で市の行事を行えないか。また、体育館が身近にあるのだから、高齢者向けの健康体操を実施したり、マラソン・ウォーキングブームにのっかり着替えの場を提供すべき。 その他にも、志木二小にあるような遊ぶ場所(いきいきサロン)がスペース・わにあっても良いのではないか。

No.3	
課題	まちづくり全体を考える組織がない
関連・背景	町内会・管理組合・PTA・NPOなどが、枠を超えて、一堂に集まる場がない。
摘要	まちづくりについて考えるフォーラム等があれば良い。

⑤ 商業施設

No.1	
課題	ペアモーターのシャッター街化が進んでいる
関連・背景	業種が少なく、閉店時間も早いため住民が利用していない。また、自転車が通り抜けていたり、花が植えられていないプランター(花壇)が目立つ。
摘要	商店街は、地元住民が使うことが多いのだから、空き店舗を多世代で集えるスペースにして使えるのではないか。また、オープンカフェやプランターに花壇を植えることにより、自転車の通行を禁止にできるのではないか。

⑥ 防災・防犯

No.1	
課題	高齢者・要支援者の増加に対応した防災対策
関連・背景	高齢者の増加に対応した防災対策が必要であり、障がい者や独居高齢者の救出チームが必要になってくる。
摘要	各町内会・各管理組合合同で防災訓練を実施しているが、参加者の大多数は役員で、住民の自主参加が少ない。また、要支援者の把握方法や実際の支援行動がわからないので、各街区の良い方法を共有するべきである。

⑦ 医療・介護・高齢化

No.1	
課題	急速な高齢化への対策が不十分
関連・背景	館地区の高齢化率は、既に市全体の平均より高い比率となっており、更に加速されることが予想される。ただ、要介護者の割合は比較的すくない。しかし、建物がバリアフリーになってなく対策は不十分である。
摘要	高齢者が様々な役割や生きがいを持ち、健康で充実した生活が送れる仕組み作りが重要。(ex.植栽管理などの地域活動への参加機会の創出) また、高齢者が、健康な生活を維持でき(ex.ラジオ体操の復活、市民体育館での軽運動イベント開催)安心して出歩けるまちづくり。税金が増えなければサービス水準を上げることは困難である。

No.2	
課題	高齢者介護に不安がある
関連・背景	介護施設がない。バリアフリーだけでなく、高齢者のみ世帯の日常的支援から、在宅介護までの対応が必要。
摘要	<p>まずは、ワンストップで情報を提供できる相談窓口（緊急時、どこに相談したら良いかなど分からない方もいるので、相談者とサービス提供機関との橋渡し機能を果たす。）を設置したり、手引き（「リハビリ・介護・介助の手引き」など、状況毎に誰が見ても分かり易い冊子づくり）の作成をするべき。</p> <p>また、公的サービスも大切だが、近隣との付き合いも大切。洗濯物が何日も干しっぱなしだったり新聞がたまっていたりしたら、様子を見に行ったりするような付き合いが大切である。</p> <p>その他にも、東京電力株式会社が導入を進めているスマートメーターを使用し、スマートメーターからの情報を基にした高齢者の見守りサービスが検討されている。モデル地区に名乗りを上げるなど積極的に対応すべき。</p>

⑧ 子育て

No.1	
課題	子育て環境、教育環境をより良くして若い世代が入居したくなる街になっていない
関連・背景	<p>ニュータウンは若い子育て世代の流入が少なく、世代交代が進んでいない。現状、ニュータウンに住んでいる家族世帯は、</p> <p>①親がニュータウン近辺に住んでいる(親の援助が得やすい)</p> <p>②都心に近いので、賃貸で住んでいる人</p> <p>③賃貸で住んでみて町が気に入った中古住宅購入者</p> <p>④築年の古い低価格中古マンションに対する需要(それに見合う所得者)</p> <p>などのパターンしか期待できないので、子育て世代を呼び込めるような魅力のある仕組みづくりをしなければならない。若い人のニーズにあったまちづくりが必要。</p>
摘要	<p>子育て世代が一番求めているサービスは何なのか、それに応えるという視点からの仕組みづくりが必要である。駅に近い住宅団地という特性を生かし、勤務形態や収入にマッチした多様なサービスをワンストップで提供できる託児施設を誘致・設置するなど、子育てに優しい街をアピールする目玉造りを考えるべきである。</p> <p>人口減少化の中で、各地域間で若い世代は取り合いになっている。</p>

⑨ エネルギー

No.1	
課題	自然エネルギーが有効に利用されていない
関連・背景	自然エネルギー・省エネ・畜エネ等が注目されている時代に、志木ニュータウン内のエネルギーの活用方法を見直しを行うことで、コストの削減ができるのではないかと。
摘要	<p>管理組合自ら買電することもよいが、マンションの屋上に太陽光パネルを設置するなど、発電事業者に屋根貸しをして家賃をもらう方法もある。メンテナンスの心配がなく確実である。しかし、マンションに太陽光パネルを設置する場合は耐震基準、雨漏り対策等をクリアしなくてはならない。</p>

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

志木ニュータウンの問題や課題を克服していくためには、住民自らが実態を把握し危機意識を共有することが最優先である。住民ひとりひとりの「まちづくり」に対する意識向上を図り、志木ニュータウンを変えようという住民の輪の広がりや人材の発掘を期待し、住民主体のまちづくりを進める第一歩とするため、以下の2事業を実施したところである。

事業①

“志木ニュータウンの未来を考える”館地区住民アンケート調査

事業②

街の未来を考える シンポジウム&ワークショップ

事業① “志木ニュータウンの未来を考える” 館地区住民アンケート調査結果 【事業の目的】

志木ニュータウンが抱える問題・課題を洗い出し、討議を重ねた結果、地区の課題を解決するためには、まず住民と、この街の課題に関する認識を共有することが出発点であると考え、アンケート調査を企画・実施した。

【事業の結果等】

① アンケート調査の概要

調査地域	志木市館地区
調査対象	館地区全世帯
調査方法	館地区全戸配布、郵送回収
対象世帯数（配布数）	館地区 3,323 世帯
有効回収数	1,453 件
有効回収率	43.7%
実施期間	平成 27 年 11 月 1 日～11 月 30 日

館地区を調査地域として、3,323 世帯に調査票を配布、有効回収数 1,453 件（43.7%）の回答があった。

② 調査項目

- I. 志木ニュータウンの良いところ、入居された動機について
- II. 住まい、住宅問題について
- III. 高齢化・医療・介護について
- IV. 教育環境・子育て環境について
- V. 未来の志木ニュータウンのイメージについて
- VI. アンケートご記入の方について

③ アンケート調査票（一部抜粋）

“志木ニュータウンの未来を考える”
—館地区住民アンケート調査—



※該当する番号に○印をつけてください。
【I.志木ニュータウンの良いところ、入居された動機についてお尋ねします。】

志木ニュータウンの未来を考えるにあたり、もう一度この街の魅力を確認することから出発したいと思います。
 志木ニュータウンに入居された動機と、成熟したこの街の魅力についてお尋ねします。



1. 現在の志木ニュータウンの良いところはどこですか。（3つまで）

- ① 管理がゆき届き、美しく整った街並み
- ② 大手建設会社の建設・分譲による大規模マンションとしてのステータス
- ③ 駅に近く、都心までの交通の便が良い
- ④ 柳瀬川や樹木、公園など自然が多くやすらげる
- ⑤ 公共施設（出張所、図書館、体育館等）や郵便局、銀行、スーパー等の生活環境が充実している
- ⑥ 子ども達が遊べる公園がある
- ⑦ 多様かつ高度な経験・知識を有する住民がいる
- ⑧ 教育環境が整っている
- ⑨ 町内会によるイベントがある
- ⑩ 交通事故や犯罪が少ない
- ⑪ 災害に強く安心できる
- ⑫ その他（ ）

具体的に： _____

【II.住まい、住宅問題についてお尋ねします】

志木ニュータウンは、建物・設備の老朽化のなか住民の高齢化がすすんでいます。また、旧耐震基準で建てられた建物が多くあり、現在の耐震基準に適合しているかどうかを知らするために「耐震診断」を実施すべきという意見もあります。



1. 現在、住環境で困っていることがありますか（3つまで）

- ① 建物の老朽化
- ② 階段がづらい
- ③ 部屋の間取り
- ④ 災害への不安
- ⑤ 防犯上の不安
- ⑥ 買物などの日常生活
- ⑦ 医療、福祉施設が遠い
- ⑧ 耐震強度の不安
- ⑨ 特にない
- ⑩ その他（ ）

具体的に： _____

2. 永住意識についてお聞かせください

- ① 可能な限り住み続けたい
- ② ニュータウン以外への転居
- ③ ニュータウン内での転居
- ④ その他（ ）

具体的に： _____

【III.高齢化・医療・介護についてお尋ねします】

志木ニュータウンの高齢者の比率（65歳以上）は、平成27年度34.8%となっております。また、現在80歳以上の高齢者が約450名、5年後には約850名、10年後には約1400名と予想されます。独居世帯数も現在の約400世帯からますます増加していく見込みです。高齢者に対する生活支援、災害等緊急時の対応等、取り組む必要がある課題について皆様にお聞きします。



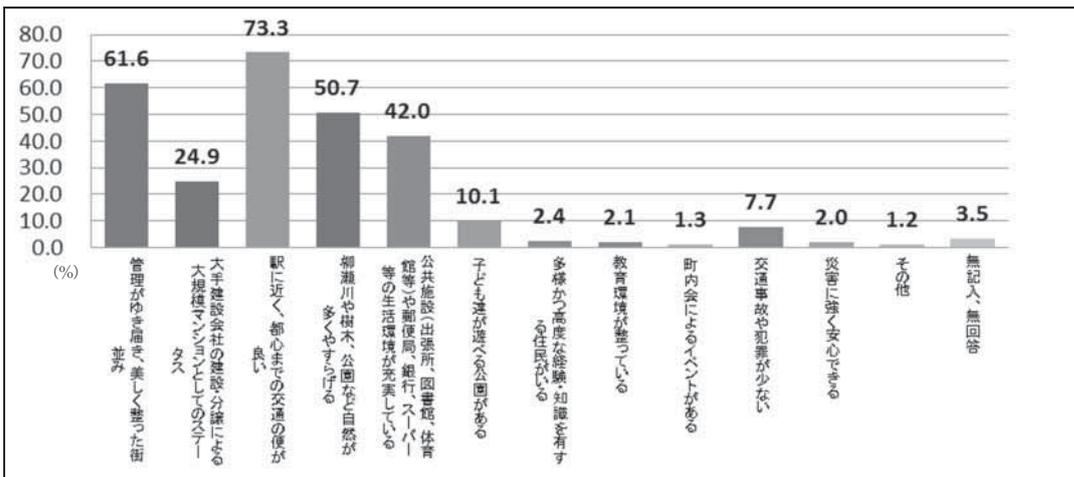
1. 現在の生活でどのようなことに不便・不安を感じていますか（3つまで）

- ① 歩行者通路（街区内・道路）に段差が多い
- ② 階段（住棟入口、集会所）の歩行が難しい（困難）
- ③ 外出しにくい
- ④ 病院が近くにない（遠い）
- ⑤ 介護施設が近くにない（遠い）
- ⑥ 災害発生時に連絡できるか
- ⑦ 毎日の安否確認（介護についての日常管理）のシステムがない
- ⑧ レストランが少ない（食事ができない）
- ⑨ 買い物ができない
- ⑩ 話し相手が少ない（いない）
- ⑪ 相談相手がいない
- ⑫ その他（ ）

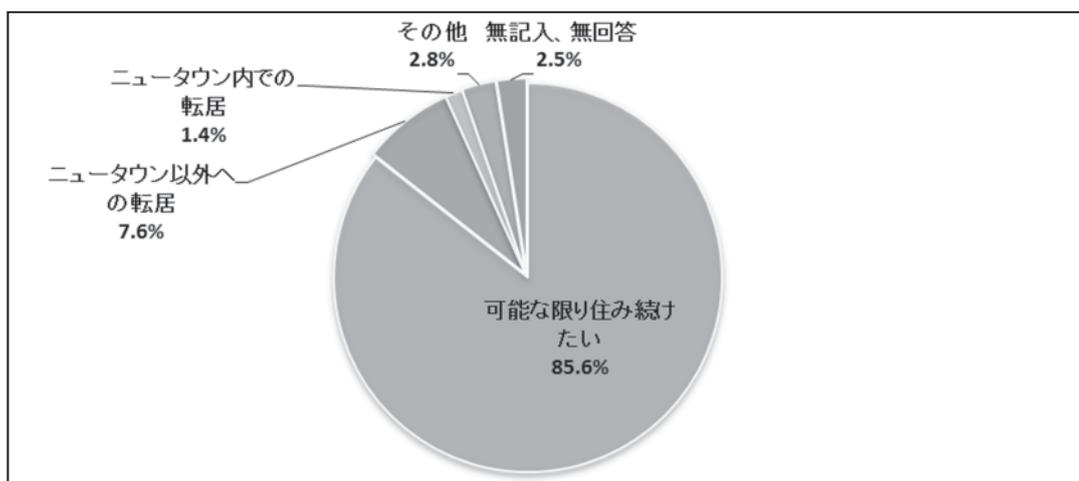
具体的に： _____

④ アンケート調査結果報告書（一部抜粋）

○現在の志木ニュータウンの良いところはどこですか（複数回答可）



○永住意識についてお聞かせください



※アンケート結果報告書（全編）については志木市のホームページに掲載しているので以下の URL から参照いただきたい。

URL <http://www.city.shiki.lg.jp/index.cfm/37,57933,373,1306.html>

【事業予算】

当初予算額 822,800 円 執行額：559,898 円 不用額：262,902 円

<支出内訳>

・消耗品費	22,938 円	・印刷費	271,728 円
・通信運搬費	150,277 円	・委託料	114,955 円

【事業を終えての感想】

アンケートの回収率が 43.7% と非常に高く、地区住民の意識の高さに驚かされる結果となった。一方で、アンケート結果では、世代間で問題・課題に対する考え方に大きな差が生じているなど、新たな課題が浮き彫りとなった。

本事業を通じて、住民と地区が抱える課題に関する認識の共有を図ることができた。今後、本アンケート調査の結果が、地区の課題解決のきっかけやまちづくりの一助になることを期待したい。

事業② 街の未来を考える シンポジウム&ワークショップ事業結果

【事業の目的】

先に実施したアンケート調査結果等を共有し、会議のメンバーと地区住民とが一緒にまちづくりを考える場として、シンポジウムを開催する。



【事業概要】

実施日時：平成 28 年 3 月 27 日（日）午前 10 時 00 分～午後 0 時 30 分

実施場所：志木第四小学校体育館

主 催：館地区まちづくり会議

共 催：志木市

協力団体：志木ニュータウン町内会連合会

参加者：56 名

内 容：

- 館地区住民アンケート結果報告（20 分）
- 講演「志木ニュータウンの皆様へ」（45 分）
東京都市大学環境学部 教授 室田昌子氏
— 休憩（15 分） —
- ワークショップ（50 分）
～発言テーマ～
この街の未来のために大切なこと
室田先生の講演を聞いて
アンケート結果の感想



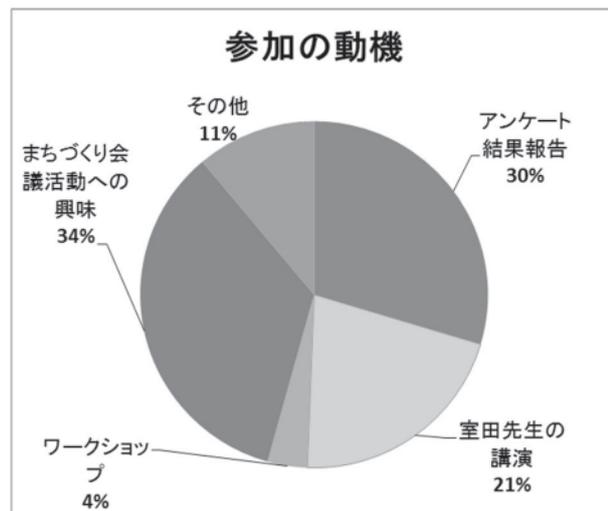
【事業の結果等】

○事業参加者数：56 名

○参加者アンケート結果（回答者：男性 30 人、女性 24 人、計 54 人）

お住まいはどちらですか		
南の森壹番街	5	9.3%
南の森貳番街	1	1.9%
東の森壹番街	15	27.8%
東の森貳番街	6	11.1%
中央の森壹番街	3	5.6%
中央の森貳番街	3	5.6%
中央の森参番街	8	14.8%
ガーデンプラザ	2	3.7%
市内	3	5.6%
市外	5	9.3%
その他	3	5.6%
計	54	100.0%

年代を教えてください		
20歳未満	0	0.0%
20歳代	3	5.6%
30歳代	6	11.1%
40歳代	6	11.1%
50歳代	8	14.8%
60歳代	18	33.3%
70歳以上	13	24.1%
計	54	100.0%



【自由意見】
・誰もが気軽に寄れる会議（ひらかれた会議）であってほしい。
・とにかくこの環境を残したい。
・教育の充実がしっかりしているとアンケートにあったが、それなら保育環境も充実してほしい。
・アンケートとても興味深かったです。子育て世代がいらないということなので第二期より参加させていただきたく思います。
・管理組合及び町内会組織体制を含めたまちづくり構想策がみえない。志木NTの居住者に関する基礎データ(居住者高齢化率、就学人数、単身高齢者)を開示してから調査報告がありきだと思ふ。
・会議の提案・指摘に対して志木市が対応して良い結果が得られた具体例を示してほしい。
・室田先生の「まちづくりのルール」はよいまとめと思う。まちづくり会議の連携・この会議の関連団体をまきこんでいく中心となっていってもらえたら。
・この結果(アンケート)を今後どのように活かしていくかが多きな課題と思います。アンケートのとりっぱなしではありません。
・2年前から活動を始めたのですが、アンケートが来るまで全く活動のことを知らなかった。PR周知を積極化いただきたい。
・志木市の25人学級が全国第3位の評価を得た。(先月発売の雑誌)
・志木2小は4小のクローズを捕え、志木NTの建替えを計画する。特に老人が住み易いまちづくりを目指し、老人の住み替え住宅建設をトリガーにして、順次建替えをすすめる。
・子育ての意見を聞く、持ち上げる機会を作してほしい。
・がんばってください。
・新座市在住ですが、実家がニュータウン市境に住んでいる為、ほぼニュータウンにて活動しています。子育て世代にとっても良い街です。ぜひアピールしてください。
・すでにある住居の活動を把握した上でのもちづくり会議なのであれば、もっと有益だったと思います。すでにあるアクティビティを分析してもらいたい。可視化がまず必要。市も把握するべき。
・志木4小のランチカフェを中止し、「スペースわ」を少し、くだけたものにして、規模を大きくするのはどうか？ランチカフェが学校内にあるのは良くない。
・館地区住民はもちろんのことですが、行政も入ってもらってのもちづくりももっと早くから始めることが必要であった。また、防災でも同様であると思います。
・安心・安全というか、外国人が増えているのが心配。
・まだ、現役を続けており、日常活動にまだ参加が難しいです。
・まちづくり会議発足から20か月。アンケート以外に何をやってたのか？が不明。スピーディーな活動が必要
・住民の方々の意識の高さにまず驚きました。次のステップが難しいかもしれませんが楽しみです。
・とてもよい必要な話し合い、活動だと思います。地域住民がもっと考えたり参加したりするためにPRが必要だと思います。
・ぜひ今後も継続できる活動としていければと思う。確かに若い人たちに参加してもらうことも必要ですね。
・良い講演でしたし、市役所の方も頑張っているから大勢の方を集めたら良かったと思います。
・PRをもっとして大勢の参加がほしかった。
・中川地域がうらやましい。同じようになっていくといいと思います。
・当ニュータウンの将来を考えるのに大変役立ちました。ただ、もう少しラディカルな発想を取り入れていただければ良いのではないのでしょうか。
・短い時間でいろいろな問題があり1つづつ解決していくしかないと思いましたが、もっとテーマをしばったほうが良いと思う。

○ キーワード（ワークショップ発言メモより抜粋）

樹木の多い緑あふれる街の環境、活気の創出、楽しみながらまちづくり活動、保育の充実一街の若返り、ぺあもーるの活性化（やる気社長、家賃、アウトドアデッキ）、助け合いのしくみと雰囲気作り、まちづくり意識の共有、障がいのある住民のための情報アクセシビリティ、自身の健康維持、元気に暮らす高齢者、情報発信とそのしくみ、在宅介護と在宅医療、街や建物についてもっとよく知る、（老若が）集える場所、若い世代にとっても住みやすい街であることのアピール、高齢者の知恵・経験・余暇を生かす、社会資本整備、総合的政策、今ある建物を生かす工夫、今のままで、高層化、街区単位での建て替え検討・実施、志木二小・四小・二中の同窓生ネットワーク、独居でも毎日会話、世代間交流（多世代、コミュニケーション）、企業の（社会貢献）参加、ボランティア活動への参加、館近隣公園、20年後の将来計画、柳瀬川と桜、コミュニティカフェ、井戸、高齢者施設、予算、小中学校と介護サービス施設の統合、救急搬送先、小さなことから、高齢化を強みに、リーダーの必要、まちづくりのルール、バリアフリー・階段・EV問題は大切、活動の蓄積、管理組合意見、

情報・連携の輪を広げるいろいろな手段、アンケート調査結果の活用、街のよいところを伸ばす、みんなこの街が好き、定住意識、まちの基礎データをもっと知りたい

【事業予算】

当初予算額 177,200 円 執行額：130,269 円 不用額：46,931 円

<支出内訳>

- ・講師等への謝礼 62,000 円 ・交通費（講師との打ち合わせ）5,376 円
- ・消耗品費 10,640 円 ・食糧費 39,653 円 ・印刷費（PR用）7,600 円
- ・保険料 2,000 円 ・使用料及び賃借料 3,000 円

【事業を終えての感想】

- 館地区住民アンケートの回収数が1,400件超と高かったがシンポジウム参加者数は予想の100人を大幅に下回った。要因として、住民アンケート実施からシンポジウム開催日迄の5か月の隔たりがあり、また、時期的に花見などの行楽、学校の春休みや年度末等の行事と重なったこと、更に、（申込制でなかったため）参加者数が読めず、多すぎた場合を恐れて積極的な動員PRをしなかったことなどがあげられる。もう少し集客活動を行えばよかった。
- 住民同士が自分達の住む街の未来のことを共に考え、認識を共有する場になったこと、今後のまちづくりに繋がることを期待する。
- シンポジウムの企画が具体的な計画になって形を作っていく過程で、委員のそれぞれの知識や力が活かされた。参加募集担当者を設ければよかった。
- 室田先生の講演は大変ためになった。特に、高齢者問題を問題とせず、知識と経験が豊富で時間的に余裕のある人的財産として見た方がよいというアドバイスが非常に役にたった。ワークショップはほぼ想定通りに進行し、ホッとしている。参加人数は少なかったが、それだけ問題意識の高い人が集まったため議論も有意義で、話し合う時間も思ったより多くとれた。
- 館地区まちづくり会議発足時点で、各委員のこの会議に対する考え方に大きな違いがあった。会議の方向性の決定に違和感を覚えたこともあったが、決定したことにはサポートを惜しまないつもりで会議に臨んだ。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

館地区まちづくり会議（第一期）では、あるべき姿について我々からの結論を出さず、住民の皆様の見解を聞いてみることで2年間の活動を終えた。その上で、アンケートとシンポジウム&ワークショップをふまえて以下の提言を記す。各委員の間で、高齢者も子育て世代も共生する活気あふれる「まち」にしたいという方向性には異論がないものの、その方法論や細部では意見が異なったため、以下に、各委員から提出された提言をまとめた形で列記した。

ア 課題を解決に結びつける方法や手法

a ニュータウンの再生

志木ニュータウンは、1979年（昭和54年）に一部が完成し入居を開始して37年程度経過した街である。当時若かった人たちは高齢化し、成長した子供たちがニュータウンから転出した家庭も多く、街の高齢化率は他の地区に比べ高くなっている。当時は、最先端だった住宅も現在ではさすがに古く感じられ、一部には既存不適格な建物も存在していることから、アンケートでは、高齢者の増加と相まって街全体のバリアフリー化を望む声などが多かった。また、活気を取り戻すためには、若い子育て世代を呼び込むための政策を施すべきとの声もあるが、中古・賃貸市場に出る物件は限られ、新規入居者数は制限されている。さらに、外観や設備が古く、環境のよさに対して物件の値段が安いということ以外、若い人にとって魅力が少ないのが現実である。そこで、一団地認定の問題なども解決した上で、総合的な再生プランを立てることを前提に、部分的にでも新規入居者のための高層住宅を新設することを検討していく必要があると考える。アンケートでは、「レストランが少ない」という回答が多かったため、地権者、市有地を管理する市、管理組合の利害を調整し、緑あふれる公園のまわりに自然を楽しみながら食事のできるレストランや商店街も再構築する。

ニュータウンの再生は、地域に必要な医療施設、高齢者施設、保育園、各種コミュニティを相互に連携させる施設、ソーラーエネルギー施設、志木市の提唱する低炭素まちづくり、まち全体のバリアフリー化などを盛り込む先進的な取り組みを目指す。

b 志木ニュータウンまちづくり協議会の設立

住民の方々は、館地区の高齢化、志木ニュータウンの老朽化やシャッター街化などを解決すべき課題と考えている。しかし、その方法論については、多くの方がいろいろなことを考えていることが見えてきたところである。今後夢のあるまちづくりにむけた諸問題を解決するために、志木ニュータウンを取り巻く関連組織が一堂に会する協議会を設立し、自由闊達に議論する場を設け、館地区および近隣との情報共有、交流をサポートする体制をつくる。組織は、市役所、管理組合、町内会、学校・PTA、老人会、幼稚園・保育園、商店街、ボランティア等を巻き込んだものとする。情報共有のためのHP立ち上げも視野に入れる。近い将来、まちづくりを進めていく中で、老朽化した施設の建て替えなどの議論を始めたときには、館地区を二分・三分す

るような意見のぶつかり合いが予想される。協議会も発足当初は、各組織をゆるやかに束ねるものとし、多くの住民が参加でき顔が見える会を目指す。たとえば「花を植える会」など、誰でもいつでも参加できるような様々なコミュニティを新たにいくつも発足してもらい、協議会に参加してもらうことで住民間の融和を図り、合意形成が可能となる環境を整備する。

c 館地区高齢化対策として”高齢者対応施設”をつくる

館地区には、50人以上が参加する「老人クラブ」（協会加入条件）をクリアしている組織は少ない。高齢者が家から出て話をし、地域の方と一緒に活動することは高齢者の健康維持に重要である。高齢者が、地域の方と一緒に活動できる場を創出すること提案する。

d 柳瀬川桜を観光資源として活用

「志木ニュータウンは、柳瀬川や樹木、公園など自然が多くやすらげる」との意見が多くある。ただ残念なのが、過去にゴミ問題や夜間の盗電、騒音で一部から苦情がでて夜間の雪洞点燈が中止となり、柳瀬川の桜が夜間に楽しめないことである。柳瀬川の桜を観光資源として活用するため、諸問題を関係機関で協議し、住民が楽しむ地域に利益をもたらす仕組みを作っていく。

e 若い世代に魅力をもってもらうための地域全体での子育て支援

志木市は、教育に熱心な街として全国的に有名であり、特にニュータウン地区は、保護者の教育意識の高さや、優れた学校運営も相まって教育環境に優れた街である。交通利便性の良さや自然環境の良さに加え、教育環境が良いことはこの街にとっての強みであり、ここをさらに魅力的にすることで、都心部を中心に行われている再開発地区との差別化を図り、今後空き家が増えていくと言われている中で、子育て世代にニュータウンを移転先に選んでもらえるような方策を考えるべきである。幸いにして志木ニュータウンには、経験豊かで知識のある高齢者が多く在住している。この高齢者を、地域の財産として活かした街づくりを考えていく必要がある。例えば、クラブ・部活動の顧問を住民が補助する仕組みをつくってはどうか。結果として、先生方に授業の準備や指導方法の検討に充てられる時間が増え、生徒は、より充実した教育を受けられるだろう。さらに、地域の目が入ることで、不審者やいじめの早期発見も期待される。また、学童保育や放課後こども教室の活動範囲を、図書館や体育館などニュータウン全域に広げ、より自由で魅力的な活動にすることも検討してよいであろう。こうした取り組みの結果、若い世代が多く移り住んでくる傾向が確認されれば、保育園の新設を検討し、最終的には0歳児から中学校卒業までの子育てを一体的に支援する体制を整えたい。

現在、市では、志木第二中学校を中心として、2つの小学校と3校で一体運営する小中一貫校である義務教育学校の検討を始めている。まずはここに、地域の財産である高齢者に参画してもらい、一体運営することで地域全体での子育て支援を行い、若い子育て世代に魅力を感じてもらうことを提案する。

f 経済論理に基づいた街づくりのための研修

市も限られた税収と人員の中だけで、住民サービスを向上させることにはおのずと限界がある。館地区に、外部資本が投資したくなるような魅力をも

たせるためにはどのようにすればよいか、市全体の税収を増加させ、歳出を減らすにはどうすればよいかなど、常日頃から、経済論理に根差した行動がとれるようにするために、必要なことを学ぶ研修会を定期的を実施することを提案する。2015年5月にオープンした豊島区新庁舎は、新規の税金をほとんど投入しないで建設されたことから現在の錬金術とも呼ばれ、全国のハコモノ計画に一石を投じている。志木市は、産業基盤や観光資源が限定的であるため、住民と市職員と協働で知恵を働かせ、現有する人的資源を活用し、住民サービスレベルを保っていく方策を考えることが必要である。

イ 期待できる効果

- ① 高齢化社会や災害に対し安心・安全な街の提供
- ② 安心して子育てできる環境の提供
- ③ 豊かで活気ある志木ニュータウンの再生
- ④ 街の魅力が高まることにより増加する個人の資産価値
- ⑤ 民間活力の導入により、少ない投資でのニュータウンの再生
- ⑥ 人口増や地域の魅力の高まりに伴う資産価値向上による税収の増加

ウ 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後の課題

将来の地区のあるべき姿は、地区の魅力でもある柳瀬川や緑などの自然が豊かで、駅に近く都心までの交通の便が良い点などを残しつつ、耐震補強やバリアフリー化を施した災害に強く、多世代にわたり住むことが可能な高品質の住宅を維持しつつ、だれでも気軽に参加できる様々のコミュニティが有機的に繋がり、子育て世代から高齢者世代までが安心して暮らし続けられるような持続可能で活気あふれる街である。

今後の課題としては、コミュニティの醸成、各コミュニティ間や各街区の管理組合・町内会との価値観の共有などソフト面の整備に加え、余裕容積率の活用や容積率の緩和など法律面の整理、再生プランの立案、外部資本を導入してもらうための方策、志木ニュータウンに住みたいと考える人を増やしていく方策、などを解決していかなければならない。

(6) まとめ

◆ 2年間の任期を振り返っての感想

(順不同で、委員一人一人が2年間の任期を振り返っての感想を掲載)

- 「この街の今を少しでも知る事が出来れば。」そんなぼんやりした動機、軽い気持ちで委員に応募しました。しかし活動を始めてみると、皆さんのベクトル、スピード感が揃わず、どう進めたらいいのか、1年間は悩みと思考錯誤の連続でした。でもそれも、振り返れば良い思い出です。委員の皆さんの熱意が、住民アンケートとシンポジウム開催という二つの活動として実を結びました。館地区の抱える課題は、住民の年齢構成の偏りと、建物などインフラの経年という二つに集約されます。それらは時に複合し色々な問題となって現れ、一朝一夕に解決できるものではありません。息の長い地道な取り組みが必要です。でもこの街には、それを乗り越えられるだけの高い意識と見識を持つ住民の皆さんがいます。それを確信できた2年間でした。館地区まちづくり委員の皆さん。本当にありがとうございました。市民協働の実践として産声をあげた地区まちづくりの活動が、息の長い取り組みとしてこれからも続いていくよう、願っています。
- 30年以上住んでいる館地区について街の課題を再認識できました。この街にこれからも住み続けたい人たちと共に、「住みやすい街、若者が住みたいと思う街」をつくっていくための活動をしていきたいと思えます。
- 館地区の未来についての課題を洗い出す作業過程で、高齢者の住みやすいまちづくりに偏ってしまった傾向があるので、次世代（若者や子育て世代）の意見を多く聞けなかったこと及び、現在抱えている館保育園の存続問題や歩道の根上がりの補修などについて取り組みができなかったことが残念です。
- 会議に参加して、地域や志木市職員のみなさんの考えを聞き、この地域に暮らすことの意味を、再度考えることが多かったです。参加したことの目的のひとつは、多様な人の集まりであって欲しいことでした。今後はさらに若い年齢層、女性、その他の多くの方が参加しやすく、話すことができるまちづくり会議になることを希望します。
- まちづくりの課題が出揃ったと思います。結構大変な作業でした。
- 志木ニュータウン全体と各街区の問題点の違いはあっても、この街に住み続けたいと思っている人が多数を占めていることが発見できた2年間でした。志木ニュータウン特区的な発想を行政、商店街、住民の3者が持ち、館地区まちづくり会議に反映できればより良い街づくりができるのではと思いました。
- 町内会の仕事とは、両立が難しい2年間だった。平日の夜間ならいくらでも時間がさけるのだが、日曜の午前という制約をつけられたのは厳しかった。地域集団での体験がない方が多く、自分たちで結論を出すことができず、住民の意見を聞くことが結論となった。不毛の議論が多く、つまらない会議だった。
- 2年間という短い期間でしたが、みなさんと一緒にまちづくりの活動に携われたことは大変貴重な時間でした。ありがとうございました。

- 全戸にお配りしたアンケートに幅広い年齢層から43.7%の回答を頂きました。「データに基づいてみんなで考える」という開かれ方に期待する数字とも感じます。「多様性に価値を置いて合意形成するリーダーシップをどう捉えるか」という問いをこのまちの未来が投げかけているのかもしれませんが。
- 館地区の教育環境を守るため、館保育園の継続・拡充を訴えるべく参加したが、それ自体が課題になったわけではないものの、とても有意義な会議であった。そして、優れたリーダーが育った。
- 2年間はあっというまでした。市の若い職員の方がとても一生懸命で、住民委員と対等なのだから、もっと平等に作業を分担しようと思いましたが、つい甘えてしまいました。時間的制約もありますが、本当の協働は、お互いに対等の関係にならないとうまくいかないのかな。
- 館に住んでいても、まだまだ知らないことがたくさんあり、委員の皆様にも色々教えていただくことが多かったです。2年間で普段の仕事のみでは関わる事の出来なかった方たちとのコミュニティができて大変嬉しく思います。2年間ありがとうございました。
- 行政と市民が協働する機会は大変少なく、2年間という短い期間ではありましたが、まちづくりについて共に考え共に行動できたことは、貴重な経験であり、大きな財産となりました。2年間ありがとうございました。
- 館地区でみなさんと活動することができて、館地区への強い思いを聞かせてもらったり、地域の課題などを考えたりすることができて、よい経験になりました。
- 地区の未来の幸せについて互いの考えを知り、共に行動を興す貴重な場に参加させていただき、感謝申し上げます。リーダー初め、委員の皆様其々のご苦労があつての二年間だったと思います。共に考え行動する喜びをもたらす館地区のまちづくりの輪が、今後も広がり続けることを願っております。
- 住人へのアンケートで、住み続けたい希望の人が多くいる事に関心がある。ひとり高齢者住人は増えるのもわかっただけでも意味のあることだ。館地区で知り合いも増えて、良かった。

7 柏町地区まちづくり会議

(1) 柏町地区まちづくり会議委員名簿

No.	選出区分	氏名	備考
1	第1号委員	住民委員	リーダー
2			サブリーダー
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20	第2号委員	職員委員	サブリーダー
21			
22			
23			
24			

委員の構成

選出区分	人数	男性	女性
第1号委員	19人	12人	7人
第2号委員	5人	4人	1人

(2) 柏町地区まちづくり会議のプロフィール及び特色

◆ 柏町地区のプロフィール及び特色

柏町は、志木市の西側に位置し、武蔵野台地と武蔵野台地が柳瀬川によって浸食されてできた柳瀬川低地によって形成されています。

南側は東武東上線によって幸町と、東側は県道川越新座線によって本町と分断されています。また、柏町の北部、柏町1丁目付近は、旧河川の流域に沿って富士見市と接しており、富士見市と志木市が複雑に入り組んでいます。

古くから人々が暮らした痕跡が多く残されており、幸町と並んで数多くの遺跡があり、また、戦国時代には、北条氏の家臣である大石氏により「柏の城」と呼ばれる城が築かれるなど、かつての志木市の中心的存在であった地域とも言えます。

昭和40年代以降、宅地造成が進み、かつての畑地は戸建ての住宅に姿を変え、閑静な住宅地として発展を遂げました。また近年は、大規模事業所の跡地に大型マンションが建設されたことから、柏町には新旧さまざまな住民が暮らしていることも特徴です。

柏町地区まちづくり会議は、メンバーの層が厚く、20歳代の若者から70歳代のベテランに至るまでの19人の住民委員と、職員委員5人で構成されており、地区まちづくり会議では最多の合計24人が、それぞれの持ち味を生かして活動してきました。

また、2年間にわたる任期、そして会議自体を有意義なものにするために誕生当初に、「みんなで参加する」、「それぞれの意見を否定しない」、「楽しむ」をキーワードに据えて、わいわいと活動しました。

(3) 柏町地区の課題について

① 現状把握と課題の抽出

現状の把握にあたっては、まず柏町の「いいところ（魅力）」「こうなったらいいな（課題・問題点）」をテーマとしたグループワークによる意見交換を重ねました。

柏町の持つ魅力と抱える課題を委員相互で共有し、その後の議論の基盤を形成しました。意見交換の中では、住環境、自然・歴史、防災・防犯、住民構成・住民間交流などに分類される課題が多数出されました。

住環境については、公園や室内遊技場など子どもの遊び場不足、交通上の危険箇所、路線バスの拡充、医療機関の不足、坂下橋付近の用水路整備、商店街等の活性化などが上げられました。

自然・歴史については、柳瀬川や柳瀬川沿いの桜並木をはじめ、柏の城跡を含む遺跡や文化財等の資源・魅力を保護・周知する必要性が上げられました。

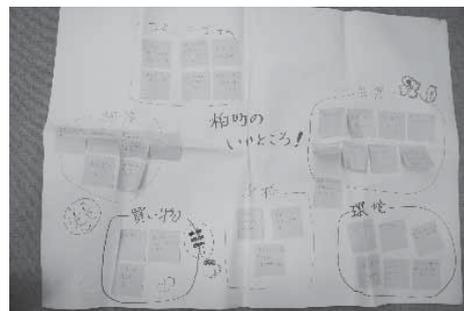
防災・防犯については、柳瀬川沿いの水害対策、通学路の安全確保、空き家の活用などが上げられました。住民構成・住民間交流については、地域全体で高齢化を迎えていることに加え、近年の大型マンション建設によって新規住民が増加したことで、世代の違い・居住歴の違い・地域の違いで住民相互の関係が希薄となっていることなどが上げられました。

これらの課題を受けて、「10年先の柏町を思い浮かべて」をテーマに再度グループワークを行いました。先に述べた課題が解決された後の姿として目指すべき柏町の将来像をより具体的に描き出すべく、将来像と現状を取り結ぶための方法と解決策も併せて検討しました。その結果、柏町の将来像として下記の3つのイメージがグループごとにまとめられました。

- 「子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと暮らせるまち」
- 「住民どうしのふれ合い・支え合いによる住み良いまち」
- 「地域みんなが〈絆〉でつながる住み良いまち」

現実的で理想的な柏町の将来像について、その道程を具体的に議論することで、現状と課題の輪郭をより鮮明に捉えることができました。

<ワークショップで作成された資料の一例>



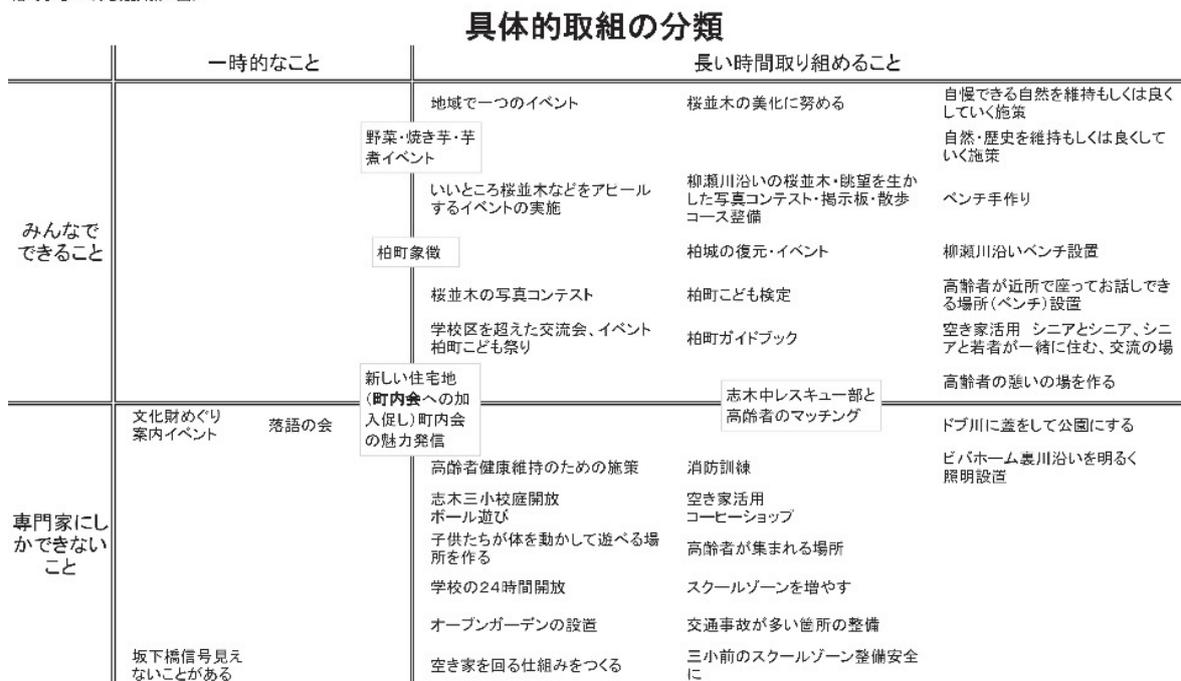
② 具体的取組の検討

上記の現状把握と課題抽出を踏まえ、課題解決のための具体的取組の検討を行いました。委員各自が目的と方法を明示した事業案を作成・発表し、それを委員全員で分析・分類することで、会議全体での方向性を模索しました。

検討の第一段階では、事業の専門性や継続性に着目し、約40項目提出された事業案の中から「みんなでできること」でかつ「長い時間取り組めること」に焦点が絞られました。そして第二段階では、「みんなでできること」で「長い時間取り組めること」を念頭に、再び委員各自で事業案を作成・発表しました。そして、第1軸を事業の種類（イベントの開催、まちの基盤作り、情報の共有）、第2軸を事業の目的（安全なまちづくり、人との繋がり形成、魅力の発信）として設定し、それぞれの事業案について分析・分類を行いました（第1図）

<第1図 具体的取組の分類 第5回会議>

柏町まちづくり会議(第5回)



そして、事業の参画度、継続性、楽しさ、独自性、理解度の5つの価値基軸に基づいて点数化することで事業の絞り込みを行いました。

- 参画度・・・主体としてより多くの人が関わること
- 継続性・・・負担を感じず長く続けられること
- 楽しさ・・・誰もが楽しく参加できること
- 独自性・・・地域内ですでに行われていないこと
- 理解度・・・目的が理解され評価されること

その結果、私たちが目指すべき事業の方向性は、「情報の共有」を行うことで「魅力を発信」するものと決定しました。

このような事業の分析・分類・点数化を行う中で、現状の把握や課題の抽出に立ち戻り、再確認する場面も少なくありませんでした。その過程で、「今ある柏町の魅力や資源、町内各種団体やその取組を再発見し、それをあらゆ

る世代・新旧住民・すべての地域で共有することが重要」という共通認識が形成され、共通する既存の魅力・取組・課題を住民間で共有することで地域交流が促され、会議の当初に挙げたような各種課題（住環境、自然・歴史、防災・防犯、住民構成・住民間交流）を解決する基盤になるものと期待しました。

これは、柏町の目指すべき将来像として上げられた3つのイメージにも「ふれ合い」や「絆」といったキーワードで象徴されています。

<第2図 事業の分析・分類 第10回会議>

	安全なまち	人との繋がり	魅力の創造
イベントの開催		柏町コミュニティ「かしコミュ」	みんなでつくるみんなのおまつり
		ちょっと楽しい子供向け企画【長期休み編】	手持ち花火大会
		使っていない畑を耕そう企画	ちょっと楽しい企画【歴史オリエンタル編】
		盆踊り・祭り	「日本一」イベント
		柏町サマーフェスティバル	公園遊具・健康器具のデザイン募集
		柏町合同盆踊り大会	手作りユニークベンチコンテスト
		交流イベント	ベンチ設置
		柏町オータムフェスティバル	柏町検定(子ども版・大人版)
		柏町スプリングフェスティバル	
		柏町スポレクデー	
		ゆる～いスポレク	
	桜まつり		
	柏フェスティバル		
基盤づくり	通学児童の安全のために	志木中レスキュー部	
	監視カメラで犯罪抑止企画	一人暮らしの方の家の訪問	
	ドブ川をなんとかしよう企画	空家・空教室におけるカルチャースクール	
	災害疑似体験	寺子屋・学童	
情報の共有	AED設置及び公表	各種団体支援	柏町いいとこ見つけたマップ
			柏町魅力発信情報誌
			柏町イベント・名所カレンダー
			柏町VTRの配布・上映会
			柏町. TV
			柏町. Net
		柏町プロモーションビデオ	

柏町地区まちづくり会議では、ここまでの作業を他の地区に比べてはるかに長い約1年半の時間をかけています。

これは、柏町の課題についてメンバー全員が共通の認識をもち、ひとりひとりの柏町の「こうなったらいいな」をみんなで共有することに丁寧に時間をかけたものであり、いたずらに結論と結果を急がなかったことの現れでもあります。こうした取組を経て、これから行う事業の方向性について全員が納得し、なおかつ、全員がそれぞれの持ち味を発揮して、事業を行うための土台が完成しました。

(4) 課題を解決に結びつけるための事業について

「情報の共有」を行うことで「魅力を発信」することを決定しましたが、情報を発信する媒体は無数にあります。その中から、柏町の中で活用するならどの手法が有効かについて、会議で検討しました。

双方向のコミュニケーションが可能なインターネット掲示板やスマートフォンアプリの活用、動画共有サイトによる映像配信など、今日的なデジタルデバイスを活用する意見も多く上がりました。

その一方で、高齢者をはじめとするインターネットやスマートフォンが苦手な人には、デジタルデバイスの使用は敷居が高く、幅広い人に情報を発信し、繋がり、交流を促すという点では難しいことがわかりました。

新聞やパンフレットなどの紙媒体は、パソコンやインターネットなどの道具を必要とせず、誰もが見て、触れることができ、幅広い世代へ周知することができます。

また、一度に複数の媒体を使用することも検討に上がりましたが、先の検討から「長く続けること」を考え、まずは、紙媒体による情報発信を基本とし、余力がある範囲で映像やインターネットを組み合わせた情報発信を行うことで情報紙の魅力を高めていくこととしました。

事業①

情報紙「かしわなほっとぷれす」発行事業

ア かしわなほっとぷれすの形が決まるまで

地域情報紙を発行するにあたり、まず、ふさわしい形状・形態について検討を行いました。気軽に手に取り読んで欲しいということから、ページ数は多くしないこととし、A4版より多くの情報を載せることができるタブロイド版の6ページ、目を引くフルカラーの情報紙とすることにしました。

また、発行部数については、柏町に住む皆さんに届けたいということで、柏町の広報紙配布部数4000部プラス α の6,000部としました。

イ 発行時期及び発行頻度

情報紙の発行時期と発行の頻度については、メンバーが負担感を感じず、なおかつ、新鮮度を失わない程度の頻度とし、年4回の発行としました。

また、発行時期については柏町で行われるイベントに役立つ情報を伝えることを主眼として、柳瀬川のお花見が始まる3月、夏祭りや水遊びが始まる前の6月、秋の運動会前の9月、大晦日や初詣前の12月としています。

ウ かしわなほっとふれすの掲載内容

掲載する内容は、会議の序盤で実施した柏町の現状と課題の把握を目的としたグループワークの中で、柏町の「いいところ（魅力）」と「こうなったらいいな（課題）」として提示された意見を「住環境、自然・歴史、防災・防犯、住民構成・住民間交流」の4つのテーマに分類し、さらに、このテーマをわかりやすく、かつ、自らの手により収集、発信可能なものへと絞り込んだ結果、以下の7つの柱で構成することとしました。

- ① セーフティ：くらしの「安全」を身近に、親しみをもってもらう
- ② アーケード：お店や人の集まるスポットを紹介
- ③ インフォメーション：町内会やイベントなどを紹介
- ④ ネイチャー：自然と、自然を守る活動を紹介
- ⑤ ヒストリー：意外と知らない柏町の身近な歴史を探る
- ⑥ チャレンジ：柏町にまつわる素朴な疑問を解き明かす
- ⑦ ヒューマン：柏町に住む人をリレー方式で紹介

次に、7つの柱をわかりやすく親しみを持ってもらうため、それぞれの掲載内容についてコーナー名を検討しました。そのなかで、「柏の」や「柏な」というフレーズが加わる案が多く挙がり、最終的にすべてのコーナー名に親しみやすいひらがなの「かしわな」を入れることになりました。

エ 情報紙の名称と込めたメッセージ

情報紙の名称は、各コーナー名に「かしわな」を加えることから、このフレーズを使おうということとなり、情報が新鮮で即時的であるという意味（「HOT」）と、親しみやすい地域情報を読むことで「ホッと」一息ついてもらおうという願いを込めて、「かしわなほっとふれす」という名前になりました。さらに、この「かしわな」という言葉に、柏町の皆さんと共有したい「柏町のイメージ」を込めようということになり、メンバー全員で考えたところ、

㊦ぞくのような ㊧あわせいっぱい ㊨くわくする ㊩かまのいるまち
を「かしわなほっとふれす」の伝えたいイメージとして決めました。

オ 紙面のデザイン

「かしわなほっとふれす」の紙面デザインは、先に決定した「かしわな」に込めたメッセージのイメージを体現するため、明るい色調でデザインしています。また、タイトルロゴは、委員の友人のイラストレーターさんがボランティアで作成してくれたものを使用しています。

また、紙面中のイラストや背景は、委員の手描きのものや町内にお住まいの方の書いた絵を使用するなど、手作り感と人とのつながりを感じられるものになっています。

カ 紙面構成と各コーナーの内容

- ① 表紙：創刊号であることから、リーダーによる創刊にあたってのメッセージと、志木市長からのお祝いの言葉を掲載しています。また、柏町の代表的な風景である柳瀬川の桜の写真を載せ、創刊にふさわしいイメージとしました。
- ② かしわな〇〇まっぷ：セーフティとインフォメーション、アーケードの内容を見開き2ページに掲載し、柏町の町内会や商店、イベントなどのお知らせと安全に関する情報をマップで紹介しています。創刊号では、柏町にある7町内会と町内のお花見に役立つお店、町内で3月から5月までに行われるイベント、AED（自動体外式除細動器）の設置されている事業所の紹介を行っています。



<表紙とかしわな〇〇まっぷ>

- ③ 柏な自然：柏町の自然と自然に関わる取組を紹介しています。第1回では、柳瀬川の桜並木についてその歴史と保存活動について紹介しています。
- ④ 柏なヒストリー：柏町にまつわる身近な歴史を紹介しています。第1回では、柏町がどうして「柏町」になったのか？高橋の不思議、防衛道路の名前の由来について紹介しています。

- ⑤ かしわなチャレンジ：柏町にまつわる素朴な疑問を体当たりで解き明かします。第1回では、柏町の先端はどこにあるの?・・・と題し、柏町の東西南北の先端を調査し、そこに暮らす人々を紹介しました。
- ⑥ かしわなひとびと：柏町に住む人や、人とのふれあいを通じたできごとを紹介します。第1号では、柏町地区まちづくり会議のメンバーを紹介しました。

＜かしわなひとびと、柏な自然、柏なヒストリー＞

かしわなひとびと 平成28年3月1日 発行

あなただけの かしわな ひとびと

●次号予告(次号は平成28年6月発行の予定です。)
 ・かしわなまつり特集
 ・かしわなチャレンジ! — 柏町を教えた! —
 ・柏町自然 — 川と柏町
 ・柏なヒストリー、かしわなひとびと ほか

E-mail: shikashicho@gmail.com
 Facebook: https://www.facebook.com/shikashicho
 YouTube: https://www.youtube.com/channel/UC5wMkU76C0d8Hh

「かしわなはっつとぶれる」で取り上げてほしいことや感想がありましたらぜひ、私たちに声をかけて下さい!お待ちしております。

長崎 孝夫

かしわなはっつとぶれる 平成28年3月1日 発行

柏な自然

第1回 柳瀬川の桜並木

柳瀬川は、柏町を流れる唯一の川。その歴史は、江戸時代から続く。この川沿いに、美しい桜並木が咲き誇る。春になると、多くの市民が散歩やピクニックを楽しむ。この桜並木は、柏町の自然の宝であり、市民の憩いの場となっている。

年	出来事
1965(30)年3月	本町(旧柳瀬川)の桜並木が国の重要文化財として、指定された。
1964(39)年秋	堤防下住宅造成に伴い、桜並木が移設された。
1972(57)	川沿いの遊歩道が整備された。
1973(58)年	市が桜並木、柳瀬川、柳瀬川公園を指定した。
1993(98)年秋	堤防の老朽化を解消し、上下水道の整備も完了した。
1993(98)年10月	チヨウショウインハタザクラが国の重要文化財となる。
2004(91)年秋	桜並木の老朽化を解消し、上下水道の整備も完了した。
2007(91)年秋	堤防の老朽化を解消し、上下水道の整備も完了した。
2010(92)年秋	桜並木の老朽化を解消し、上下水道の整備も完了した。

市民のチヨウショウインハタザクラ

チヨウショウインハタザクラは、柳瀬川沿いに咲く桜の一種。その歴史は、江戸時代から続く。この桜は、市民の憩いの場となっている。

柏なヒストリー

第1回 柳瀬川の歴史

柳瀬川は、柏町を流れる唯一の川。その歴史は、江戸時代から続く。この川沿いに、美しい桜並木が咲き誇る。春になると、多くの市民が散歩やピクニックを楽しむ。この桜並木は、柏町の自然の宝であり、市民の憩いの場となっている。

第2回 柳瀬川の歴史

柳瀬川は、柏町を流れる唯一の川。その歴史は、江戸時代から続く。この川沿いに、美しい桜並木が咲き誇る。春になると、多くの市民が散歩やピクニックを楽しむ。この桜並木は、柏町の自然の宝であり、市民の憩いの場となっている。

キ インターネットメディアとの連動

かしわなチャレンジコーナーでは、取材風景を撮影し、その映像を動画共有サイト YouTube に投稿し、紙面に記載した 2 次元バーコードを携帯電話等にかざすことで紙面では紹介できない情報を見ることができます。また、ソーシャルネットワーキングサイト Facebook にかしわなほっとふれすのページを作成し、編集の様子や、記事の内容などを定期的に紹介しています。



〈かしわなチャレンジと YouTube 動画〉



ク 取材依頼

取材をすすめるにあたって、まず、「かしわなほっとふれすの発行趣旨を知ってもらおう」という意味で、柏町地区まちづくり会議のこれまでの活動の紹介と、情報紙発行の趣意書を作成し、地域の皆さんや事業所のもとを訪ね取材への協力をお願いしました。現物がない中、発行の趣旨を説明するのは難しい点もありましたが、メンバーみんなが熱意を持って地道に働きかけたことと、様々なつながりを持つメンバーの力で、断られることなく取材の協力を得ることが出来ました。

ケ 編集と校正

メンバーの全員が、いずれかの記事を受け持つこととし、希望を募ったうえで記事ごとに班編制を行うこととしました。班ごとに取材の計画を練り、取材を行い、記事を執筆しています。イラストやマップは、可能な限りメンバーが作成した図案を使用し、手作り感が出るように工夫しています。

また、動画のある記事については、動画の編集やインターネットへの投稿などを全てメンバーで行っています。

紙面の校正も全員で行い、より良い情報紙をめざして何度も校正を繰り返しました。

コ 配布方法と今後

かしわなほっとぷれすの創刊号は、町内会の皆さんによって全世帯に届く広報しきと同時に配布いただくこととしました。これにより、地区の隅々まで配布され、「かしわなほっとぷれす」を多くの人に知ってもらえただけでなく、その発行目的である「柏町を住みよく、住む人を元気にし、さらに魅力的なまちにする」という、目的に大きく近づけたのではないかと考えています。

事業を終えて

まずは、第1号を発行することで精一杯でしたが、いざ発行され、柏町地区に配布されると、メンバーが住民のいろいろな方から声をかけてもらえるようになりました。また、さらに、ケーブルテレビ局に「かしわなほっとぷれす」の活動について取り上げていただけたこともあって、たくさんの方から評価をいただいております。さらには、次号の企画に期待してくれる人や第2号の配布に協力を希望する人が現れるなど、うれしい声も届き、メンバー一同「やってよかった」と喜んでいます。

私たちの柏町地区まちづくり会議としての任期は、6月末までとなりますが、第2号発行の6月以降も任意の活動として、3か月に1回のペースで年4回発行を目標に続けていくこともメンバー全員で確認しています。

また、発行に要する印刷製本費や配布費用についても地区内の事業所に協力を依頼し、広告料で賄う計画であり、より地元に着目して親しまれるような情報誌としていきたいと考えています。

さらに、紙面にあわせたイベントの企画や新たなメンバー募集などを行いながら、活動の輪を広げて、「柏町を住みよく、住む人を元気にし、さらに魅力的なまちにする」目標を達成していきたいと考えています。

(5) 夢のある地区のまちづくりに向けた提言

ア 課題を解決に結びつける方法や手法

柏町地区まちづくり会議では、これまでメンバーで考えてきた、柏町地区の課題を解決するための手法として「かしわなほっとぷれす」を創刊し、課題解決に向けた実践の端緒を切ったところです。そこで、これをさらに夢のある地区のまちづくりに発展させていくための手法を提言します。

① 「かしわなほっとぷれす」の継続発行

わたしたちは、地区まちづくり会議の任期満了後も自主的な活動として、「かしわなほっとぷれす」を発行し、情報発信を通じて「柏町を住みよく、住む人を元気にし、さらに魅力的にする」取組を続けていきます。創刊時に定めた7つの柱をもとに、これからの情報を通じて課題を提起していき、住む人の交流と気づきを促し、愛着を増進することで「自分たちの地域は自分たちの手で・・・」という、自発的なまちづくりへの機運や意識の醸成につなげていきたいと考えます。

② 自発的な地域活動の活性化

これまでも、柏町ではたくさんの地域活動が行われています。これらの地域活動を「かしわなほっとぷれす」を通じて交流を促し、既存の活動同士の連携につなげていければと考えます。さらに、「かしわなほっとぷれす」による課題提起を通じて、全く新しい地域活動が生まれていくことも考えられます。

例えば、防災を地域で考える取組や、安全を確認・確保するための取組が誕生したり、地域の絆や繋がりを感じるためのイベント、地域経済の活性化や居場所の創出につながる取組、あるいは地域をもっと好きになるイベントなど、「かしわなほっとぷれす」の課題提起が、たくさんの自発的な地域活動の広がりにつなげていくことが可能です。

③ 地域活動のあたらしい支え方を構築する

「かしわなほっとぷれす」創刊号は、志木市夢のあるまちづくり活動補助金によって発行されました。わたしたちは、この補助金を活動が軌道に乗るための助走期間として捉え、「かしわなほっとぷれす」の基本的なコンセプトや発行に至るまでの仕組みをつくってきました。いわゆる入れ物ができあがった第2号からは、いよいよ自主的な活動として発行することとし、補助金に頼らない発行を目指しています。地域活動は、公的な資金や団体によってのみ支えられるのではなく、さまざまな支え方があるものと考えます。

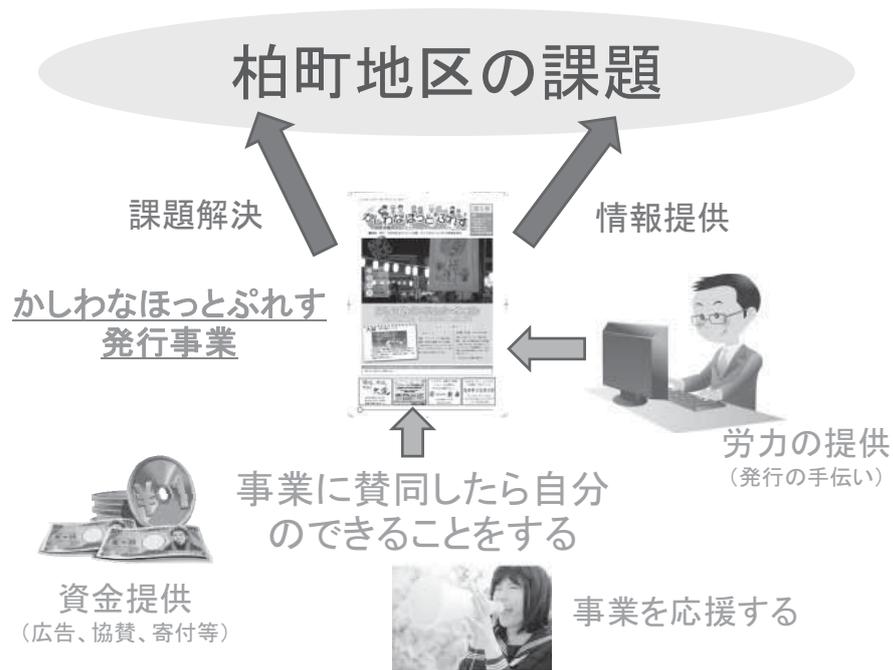
近年、市民活動の新しい支え方のひとつとして、クラウドファンディングやソーシャルファンディングという言葉があります。クラウドファンディングは、「群衆＝クラウド」による「ファンディング＝資金調達」のことを指し、不特定多数の人が活動趣旨に共感し、財源の提供や協力などを行うことをいい、ソーシャルファンディングともいいます。もちろん、この概念には資金の調達だけでなく、労力の提供や、活動場所の提供などさまざまな支え方があり、活動に対する評価や応援も支え方のひとつです。

「かしわなほっとぷれす」の第2号では、ソーシャルファンディングの考え方を取り入れ、地域内の事業者様や町内会、活動の

趣旨に賛同していただいた個人の方などからの広告や協賛による資金調達を行っています。今後は、資金面だけでなく配布や記事の作成、活動場所の提供など、地域の皆さんの応援が不可欠です。

こうしたことから「かしわなほっとぶれす」は、その発行目的を多くの人に理解し、応援していただきながら、さまざまな人たちがさまざまな形で支える志木市におけるクラウドファンディングやソーシャルファンディングのはしりになれたらと考えています。

<地域活動の新しい支え方のイメージ>



イ 期待できる効果

「かしわなほっとぶれす」の継続発行で期待できる効果は、継続して地域に関する情報を発信していくことから得られる、『住む人が地域へ関わる量の増大』です。

地域を知ることによって地域に関心を持ち、人と繋がることで地域とのつながりが増える。さらに地域が好きになることで、住む人が地域に愛着とプライドを持ち、「柏町っていいね」と住むことに幸福感を得るところまで持って行ければ、大成功といえます。

そして、自発的な地域活動の活性化は、地域の豊かさ、多様性につながっていくことが期待されます。

柏町地区まちづくり会議と「かしわなほっとぶれす」は、さまざまな人の柏町への思いを共有し、それぞれの人の「多様なあり方」を大切にしてきました。「かしわなほっとぶれす」を通じて獲得した交流や気づきが、それぞれの行動変容や、それぞれの関心事に基づく自主的な地域

活動につながっていくものと確信しています。

さまざまな人が、柏町というキャンバスにそれぞれの課題意識やライフワークという絵の具で思い思いに絵を描いていけば、色とりどりの絵が描かれるのではないのでしょうか。豊かな森には、たくさんの生き物が多様に暮らしそれぞれが大切な役割を果たすように、かしわな森にもたくさんの市民が暮らし多様に地域活動に関わることで、豊かな森となっていくのではと思います。

<地域活動の豊かな森のイメージ>



さらに、地域活動の新しい支え方が構築されることにより、お金や制度ありきではない市民の「志」が原資となる社会活動の広がりが期待できます。一人の思いをみんなで共有し、まずは「小さくてもやってみる」そして、「賛同したら応援する」さらに「面白そうだったら参加する」このサイクルが幾重にもまわっていくことで、「志」が支える社会「志民社会」が生まれるのではと思います。

ウ 将来の地区のあるべき姿のイメージと今後の課題

柏町地区まちづくり会議が考えた柏町の将来あるべき姿のイメージは、「豊かな森」のイメージです。豊かな森には、生物多様性が備わっています。この生物多様性とは、あらゆる生物種(動物、植物、微生物)によって成り立ち、過去から未来へと伝えていく生態系を指します。生物多様性には、どの生き物にも活躍の場があり、役に立たないものはありません。まちづくりにおいても、あらゆる人によって成り立ち、全ての人に活躍の機会が確保され、多様性を保ちながらも互いに影響し合い、支え合って、未来へと持続していくべきものと考えます。

このイメージへ近づけて行くための今後の課題は、まずは何よりも人々の「地域に関わろうとする思いの熱量」を上げることと考えます。

この熱量を上げるためには、地域を知ること、人と繋がること、そして地域に関わることが楽しいと思うことが大切だと思います。これら課題は、全て「かしわなほっとぷれす」が情報発信を通じて目指すものであり、そうした意味においても「かしわなほっとぷれす」を継続して発行していくことは意義のあることであり、これからも楽しむことを忘れずに続けていきたいと思うところです。

エ 今後のまちづくりにどのように生かせるか

わたしたち第一期の地区まちづくり会議では、メンバーそれぞれの柏町に対する思いを共有することに時間をかけました。また、さまざまな事業案が出る中で、性急に結論を急ぐことはせずに対話の場をつくり、それぞれの思いをベースにしながらも共通の目標に向かってお互いに折り合わせる作業を重ねています。

柏町地区まちづくり会議が実践する取組は、当初、さまざまなお祭りやイベント、コンテストの開催、空き家のリノベーション、市民放送局の運営など実にさまざまな案が出されましたが、それぞれの案に思いがあり、いずれも価値のあるものでしたが、対話を進め、みんなの思いを反映し、柏町の課題を解決できる取組は何かを考えたところ、誰もが予想すらしていなかった情報紙の発行という取組に落ち着きました。

たくさんの人の価値や思いを共有し、同一の目標に向かって折り合わせを行っていくことで、これまでとは全く異なる第3の価値が生まれる…この経験と手法は、どのまちづくりを行うにも応用できるものであり、さまざまな場面に生かせるものと考えます。

(6) まとめ

2年間の任期を振り返っての感想

ここでは、メンバー一人ひとりの感想を書き連ねていきます。

野浦リーダー

リーダーという大役をお任せ下さり本当に楽しく勉強させて頂きました。住んでいながらも知らない事も多く、そして何より楽しく皆様と街を知りながら良くしていける事に携わることができて、本当に素晴らしい会議です。

宮原サブリーダー

ご近所さんの知り合いが増え、親しくなれたのはこの会議のおかげです。そして同じ地域の方々と、一緒に一つの物を作り上げた事。何よりまだ続けようと思う物が出来た事は、本当に良かったと思っています。サブリーダーとは名ばかりで、皆さんに頼りきりでしたが、大変に貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

高山委員

あつというまの2年間、皆様のパワー 特技 才能に圧倒され私のような無力者が参加しても良いのかと思いつながら参加させていただきました。でも、「かしわなほっとぷれす」が出来上がり周りの人から良く出来ていましたと言ってくれたことは（私ではなく皆様の力ですが）大変うれしく思いました。2号3号と続くことを願っています。

曾根委員

「かしわなほっとぷれす」というメンバーみんなのたくさんの 想いがつまったものを創刊できて、本当によかったです！これからもみんなの熱い想いを細くても長く続けていければいいなあと思っています。柏町が「安全で、安心して、居心地のよい、絆を大切に、みんな元気で、魅力的なまち」になるように、ずっとずっとがんばっていきますよー！

岡島委員

2年間担当をさせていただき、柏町・志木市に関しての色々な知識を得ることができました。また何より、町内で「志木市を愛する仲間」ができたことは何よりの財産になります。今後もその仲間と共に、さらには仲間の輪を広げ、大勢でより良いまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

尾沼委員

柏町まちづくり会議に参加して早二年目、終点が目前に迫り、今更ながら、柏町一市民として町を理解、的を射た施策づくりに貢献できたのか、自問自答している今日この頃です。微力ながら、今後も大好きな柏町のため、貢献できるよう精進していく所存です。

阪本委員

素晴らしいまちづくりのメンバーに恵まれ、楽しく2年間を過ごして来ました。その間、ある1人の委員の勇気が市政を変えようとしております。楽しみです。機会があればまた柏町の為に働きたいと思っております。私の心に残る思い出になると確信しております。

高野委員

この会に参加させていただき、会議というよりはサークル活動のような楽しい時間でありました。時には柏町を散策し、様々な意見が集約され「かしわなほっとぷれす」刊行というかたちで活動を発表できたことは大変嬉しく思っております。メンバーの皆さんの意識の高さを感じ、そして私自身にとって改めてこの町の魅力を気づかせてくれるものとなりました。

田村委員

委員になって、あっという間の2年でした。最初は何が何だか分からない状態でした。志木（中宗岡）に30数年住んでいましたが、柏町に引っ越してきて1年しか経ってなく、町内のことは全くの無知でした。例えば宝幢寺・氷川神社・柏の城跡と言われても、どこに有るのかもわからないため、そこを知るのが先決でした。しかし、市職員の方や、委員の皆さんのご指導のおかげで理解できるようになりました。全然貢献できませんでしたが、いろいろな人たちと知り合うことが出来た事は、大変有意義な経験となりました。

長島委員

柏町地区まちづくり会議に参加して、グループワークから始まり柏町に住む人に情報発信をすることでまとまりました。夜仕事をしているので、欠席が多く皆様に迷惑をかけたと思いますが、楽しく活動する事が出来ました。私個人としては、柏町の人達と一緒にイベントを開催したかったので、少し残念な所もありましたが、次期の方達に期待して、参加する方に協力していきたいと思います。

中村委員

会議でいろいろな世代の人が集まって話をする事で、自分の知らない柏町が見えたり、自分にはなかった柏町への思いを感じることができました。ほっとふれすの発行で協力していただいた方々との親交も深まり、この、人がつながっていく活動がとても楽しかったです。住みやすい町とは、自分の安心できるつながりがたくさんある町なのかなと改めて思いました。

原田委員

まちづくり会議に参加してよかったこと ①たくさんの方々との出会いがありました。会議に参加しなかったら話すこともなかっただろうと思います。②毎月通った市役所が、前より身近に思えるようになりました。③柏町のよい所をたくさん見つけられました。柏町は素敵な町でした。2年間楽しく参加させて頂き、メンバーの皆さんに感謝しています。

増田(康)委員

柏町まちづくり委員の皆さんとご一緒できたことが何よりも嬉しかったです！“みんなでワイワイ”しながらのグループワーク、グループごとのオモシロ発表など…と一っつても楽しいひとときでした。自分がしたことはほんの少しばかりですが、チームの一員として席を頂けて本当に感謝です。それでは、また…。「柏町で逢いましょう！」

増田(三)委員

「かしわなほっとふれす」創刊号の裏表紙。「あなたのそばのかしわなひとびと」として紹介されたメンバーたちは、まさにフーセン。ふんわり・まあるく・空の高みをめざし…。夢を語るのも、夢をかなえるのも、ひと。この2年間、「かしわなひとびと」と「かしわないいじかん」をすごせて「かしわーな!!」そして、「かしわな」はつづく…。

山口委員

まちづくり会議の委員として、若い人たちと一緒にワークショップをしたり、「かしわなほっとふれす」の原稿づくり、柏町の歴史や環境について調べ、改めて柏町の良さがわかりました。私の成果は、中間報告会上宗岡地区の報告の中で「謎の碑」から富士吉田市と志木市の文化交流のパイプ役ができたことです。

嘉永委員

柏町のことについて、知らないことや町の課題を掘り起こして、委員の皆さんと認識を新たにしたり、解決策の協議を加えることで、委員以外の柏町内の住民に連携するための整理・定義が出来て非常に良かったです。

石塚サブリーダー

地域の皆さんといっしょになって、柏町の夢や未来を考え、みんなの考える柏町のありたい姿へ近づくための一歩として「かしわなほっとふれす」をスタートできたのは素晴らしい経験でした。これからもいっしょに楽しんでいきたいと思います。

大熊委員

まちづくり会議には、参加する市民と協働で何かを作り上げていく楽しさと、自己研さんの思いで志望しましたが、市民の方たちの行動力や知識がとても高く、勉強させられることばかりでした。グループワークから柏町の問題点やもとからある財産などを探し出し、生みの苦しみもありましたが、協働で、情報誌「かしわなほっとふれす」が発行できたことは、良い経験となりました。

柏木委員

私にとって、2年間の柏町まちづくり会議は、とてもかけがえのない経験になりました。今まで柏町のことを全く知らなくて、参加していて戸惑うことも多かったのですが、この会議を通じて知り合った、みなさんそれぞれが自分の考えをきちんと持っている方々で、本当に良かったです。ありがとうございました。

徳留委員

2年に渡る活動の成果が、「かしわなほっとぶれす」として目に見える形で結実し、地域全体に広がっていくことに喜びを感じています。また、会議メンバーはもとより、会議の枠を超えてご協力いただいた多くの方々との繋がり、そして地域の課題や魅力について交わした多くの意見を今後も大切にしていきたいと思えます。

齋藤委員

委員それぞれの思いや立場の違いなどを、まとめることや活かすことが大変でしたが、この活動を通じて地域活動に関する研修会にも参加させていただき、普段の業務だけではできない経験や学び・気づき、たくさんの出会いを得ることができました。この活動で学んだこと、得たことを今後さまざまな面で活かしていきたいです。

おわりに

柏町地区まちづくり会議としての2年間という任期は、長いようで本当に短く、あっという間の2年間でした。メンバー全員が最後まで高いモチベーションを保って参加できたことは、何よりもこの活動がメンバーのみんなにとって「楽しい」ものであった証拠と改めて評価するところです。そして、最後まで高いモチベーションを保ち続けられたのは、やはり最初に決めた基本的なルール「みんなで参加する」、「それぞれの意見を否定しない」、「楽しむ」の3つのキーワードが良かったのだと思えます。

加えて、議論や討論とはせず、意見の違いがあることを前提としながら、それぞれの価値を共有し、新しい価値をつくりあげる「対話」の場をつくることに務めたことが良かったのだと思っています。

柏町地区まちづくり会議がスタートした当初、メンバーは、柏町地区まちづくり会議が行う事業は、イベントやコンテストになるものとぼんやりと考えていました。しかし、回を進め、思いを共有し、対話を進めていくうちに、予想していたものとは全く違う柏町限定の情報紙「かしわなほっとぶれす」の発行という、思ってもいなかった取組として結実したのは、みんなの財産であり、新鮮な驚きでもあります。

地区まちづくり会議としての活動はここで満了となりますが、この場でメンバーと共有した思いと経験をもとに、自主的な地域活動としてこれからも「楽しむ」姿勢を忘れずに「つながり」続けていきたいと思えます。活動にご協力いただきました地域の皆さんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

Ⅲ 資料編

1 各地区まちづくり会議開催状況

(1) 上宗岡地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (15回)	1	平成26年7月13日（日）	・自己紹介 ・リーダー・サブリーダー決定	16人
	2	平成26年8月5日（火）	・グループワーク	14人
	3	平成26年8月25日（月）	・グループワーク	11人
	4	平成26年9月10日（水）	・グループワーク	15人
	5	平成26年9月24日（水）	・地域課題に関する市の施策について ・課題解決に向けた方法について	9人
	6	平成26年10月8日（水）	・上宗岡の特色についてのマッピング	13人
	7	平成26年10月22日（水）	・せせらぎの小径でのまつりについて ・フィールドワークについて	12人
	8	平成26年11月22日（土）	・フィールドワークの実施	13人
	9	平成26年11月26日（水）	・フィールドワークの振り返り ・マップ作りについて	13人
	10	平成26年12月10日（水）	・地図作成にあたっての意見交換	11人
	11	平成27年1月10日（土）	・地図作成にあたっての意見交換	13人
	12	平成27年1月28日（水）	・マップ案に対する意見・修正点について	9人
	13	平成27年2月18日（水）	・マップ案に対する意見・修正点について	9人
	14	平成27年2月25日（水）	・マップ案に対する意見・修正点について ・店舗への掲載うかがいについて	13人
	15	平成27年3月25日（水）	・デマンド交通について ・地図の作成について ・イベントについて	12人
平成27年 (16回)	16	平成27年4月8日（水）	・地図の作成について ・イベントについて	9人
	17	平成27年4月22日（水）	・マップの名称について ・イベントについて	9人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (16回)	18	平成27年5月13日(水)	・ウォークラリーについて ・マップについて ・料理教室・ステージについて	10人
	19	平成27年5月27日(水)	・まつりについて	8人
	20	平成27年6月10日(水)	・マップについて ・まつりについて	13人
	21	平成27年6月24日(水)	・まつりについて(グループ会議)	12人
	22	平成27年7月22日(水)	・予算について	9人
	23	平成27年8月19日(水)	・マップについて ・まつりについて (Tシャツ、のぼり、チラシ、グループ報告)	10人
	24	平成27年9月16日(水)	・マップについての最終確認 ・まつりについて (Tシャツ、のぼり、チラシ、グループ報告)	12人
	25	平成27年9月30日(水)	・マップについて ・フェイスブックの公開について ・子どもまつりについて (のぼり、記録写真、グループ報告)	12人
	26	平成27年10月14日(水)	・子どもまつりについての確認事項	10人
	27	平成27年10月29日(木)	・子どもまつりについての最終確認	15人
	28	平成27年11月27日(金)	・かみむね子どもまつりの反省について	8人
	29	平成28年1月14日(木)	・活動実践報告書について	10人
	30	平成28年2月18日(木)	・提言について	10人
	31	平成28年3月18日(水)	・提言について	6人
平成28年度 (4回)	32	平成28年4月12日(火)	・提言について	8人
	33	平成28年4月26日(火)	・活動実践報告書について	8人
	34	平成28年5月11日(水)	・活動実践報告書について	11人
	35	平成28年5月25日(水)	・活動実践報告書について	9人

(2) 中宗岡地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (15回)	1	平成26年7月8日（火）	・自己紹介、リーダー、サブリーダー選出 ・今後の日程等について	16人
	2	平成26年8月5日（火）	・中宗岡地区の現状について	17人
	3	平成26年9月2日（火）	・中宗岡地区の現状について	13人
	4	平成26年9月24日（水）	・中宗岡地区の現状について	13人
	5	平成26年10月4日（土）	・中宗岡地区ウォーキング	13人
	6	平成26年10月20日（月）	・グループワーク	13人
	7	平成26年11月1日（土）	・グループワーク	14人
	8	平成26年11月17日（月）	・地区の課題を解決する事業について	12人
	9	平成26年12月6日（月）	・イベントについて	13人
	10	平成26年12月15日（月）	・イベントの実施について	9人
	11	平成27年1月25日（日）	・イベント開催の素案について	17人
	12	平成27年2月8日（日）	・イベント開催の予算について	10人
	13	平成27年2月22日（日）	・事業計画案について	16人
	14	平成27年3月8日（日）	・イベントの名称、内容について	13人
	15	平成27年3月28日（土）	・イベントの内容等についてグループワーク	12人
平成27年度 (14回)	16	平成27年4月25日（土）	・イベントの内容等についてグループワーク	13人
	17	平成27年5月23日（土）	・中間報告会について ・イベントの内容等についてグループワーク	14人
	18	平成27年6月20日（土）	・イベントの内容等についてグループワーク	12人
	19	平成27年7月25日（土）	・イベントの内容等について	13人
	20	平成27年8月22日（土）	・イベントの内容等について	14人
	21	平成27年9月12日（土）	・イベントの内容等について	14人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (14回)	22	平成27年10月4日（日）	・イベントの内容等について	13人
	23	平成27年10月18日（日）	・イベントの内容等について	15人
	24	平成27年10月24日（土）	・イベントの内容等について	14人
	25	平成27年11月7日（土）	・イベントの内容等について	15人
	26	平成27年11月14日（土）	・イベント開催に向けた最終調整	13人
	27	平成28年1月16日（土）	・イベントやこれまでの活動について	15人
	28	平成28年2月13日（土）	・活動実践報告書（案）について	11人
	29	平成28年3月12日（土）	・活動実践報告書（案）について	11人
平成28年度 (2回)	30	平成28年4月5日（火）	・活動実践報告書（案）について	9人
	31	平成28年5月7日（土）	・活動実践報告書（案）について	13人

(3) 下宗岡地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (8回)	1	平成26年7月9日(水)	・自己紹介、リーダー・サブリーダーの選出 ・今後の会議の進め方	16人
	2	平成26年8月7日(水)	・下宗岡とはどんな地域なのか?	14人
	3	平成26年9月11日(木)	・リーダー会議の報告 ・グループワーク	16人
	4	平成26年10月16日(水)	・各委員からの提言	15人
	5	平成26年11月20日(木)	・リーダー会議の報告 ・各委員からの提言	15人
	6	平成27年1月15日(木)	・各委員からの提言	14人
	7	平成27年2月26日(木)	・リーダー会議の報告 ・各委員からの提言	13人
	8	平成27年3月24日(火)	・各委員からの提言	12人
平成27年度 (18回)	9	平成27年4月21日(火)	・各委員からの提言	13人
	10	平成27年5月20日(水)	・リーダー会議の報告 ・各委員からの提言	11人
	11	平成27年6月16日(火)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	12	平成27年6月26日(金)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	13人
	13	平成27年7月22日(水)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	14人
	14	平成27年8月27日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	15	平成27年9月17日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	16	平成27年10月14日(水)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	14人
	17	平成27年10月29日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	13人
	18	平成27年11月5日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	11人
	19	平成27年11月8日(日)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	20	平成27年11月26日(木)	・「日本一?だるまさんがころんだ!」について	12人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (18回)	21	平成27年12月5日(土)	・「日本一?だるまさんがころんだ!」について	14人
	22	平成27年12月12日(土)	・「日本一?だるまさんがころんだ!」について	12人
	23	平成28年1月20日(水)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	14人
	24	平成28年2月18日(水)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	11人
	25	平成28年2月25日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	26	平成28年3月17日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
平成28年度 (4回)	27	平成28年4月7日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	10人
	28	平成28年4月21日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人
	29	平成28年5月20日(金)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	9人
	30	平成28年6月2日(木)	・各委員からの提言(各事業ごとに打ち合わせ)	12人

(4) 本町地区まちづくり会議開催状況

① 全体会・リーダー会議

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成28年度 (23回)	1	平成26年7月8日（火）	・会議開催ルール（要綱）、リーダー・サブリーダー選出、今後の会議の進め方、会議録作成	14人
	2～23	平成26年8月28日（木）から 平成28年5月26日（木）まで 毎月第4木曜日	・本町まちづくり会議定例会	平均11人

② 分科会

- ア 本町通り夢のあるベンチ設置事業及びお楽しみイベント（テーマ1：奈良富子、木下武三、馬場正彦、吉本恵理）
- イ 本町通りクリーン作戦（テーマ2：伊藤省三、神山富士子、中山洋、新里正、渡邊恒雄、白子裕一）
- ウ 本町通り観光AR（拡張現実）計画（テーマ3：稲垣真記、運天力也、神山健吉、丹野和夫、市原史也）

テーマ（注）リーダー・久保木法男、サブリーダー・古屋大輔、浅見千穂については、各グループ間の連絡調整・とりまとめ役とした。

テーマ1 本町通り夢のあるベンチ設置事業及びお楽しみイベント

【実践に向けた検討経過】

- 平成27年 4月：・NPO法人日本を美しくする会との面談を実施
- 平成27年 6月：・事業（実施）計画書①の作成
- 平成27年 7月：・朝霞県土整備事務所への挨拶
・事業（実施）計画書②の作成
・ベンチ設置場所を選定するための現地調査、打ち合わせ
- 平成27年 8月：・埼玉県朝霞県土整備事務所提出資料の作成開始
・ベンチ設置候補場所への打診（私有地含む）
・グループ1打合せ（絵画依頼先の選定等）
- 平成27年 9月：・学校等へ絵画制作依頼などイベントの準備
・グループ1・3合同打合せ
- 平成27年10月：・清水運輸へ見積もり依頼
・学校等へ絵画材料代を配布などイベントの準備
- 平成27年11月：・朝霞県土整備事務所に使用許可申請書類提出
・十文字学園女子大学へ絵画協力依頼などイベントの準備
- 平成27年12月：・ベンチ納品及びイベントの準備
- 平成28年 1月：・学校等から絵画受け取り
・清水運輸との打ち合わせ

- ・ベンチ組立て作業などイベントの準備
- ・ヤセ騎士さんに対しイベントの司会依頼
- 平成28年 2月：・ダンスチームや細田学園高校吹奏楽部にイベント出演依頼
- ・ベンチ固定業者との打ち合わせなどイベントの準備
- 平成28年 3月：・町内会・商店会への案内文配布
- ・司会のヤセ騎士さんと打合せ
- ・ベンチ固定作業（全9基）など、イベントの準備・実施
- 平成28年 4月：・絵画原本の返却と同時にイベント写真の配布
- ・朝霞県土整備事務所へ「完了届」提出

テーマ2 本町通りクリーン作戦

【実践に向けた検討経過】

- 平成27年5～6月：・2回にわたって「NPO法人日本美しくする会」が主催する街頭清掃活動に参加し、その活動内容を実践体験した。
- 平成27年6～9月：・定例会後に会議を開き、「本町通りクリーン作戦」の清掃ルートや、どのような清掃道具が必要かを確認するため、清掃練習を実施するとともに、清掃道具を順次購入し揃えていった。
- 平成27年10月：・18日(日)と25日(日)の2回実施。早朝より丸井広場のガムはがし、ゴミ拾い、たばこの吸い殻拾いをした。参加者は10名前後であったが、一般参加者も1名いた。
- 平成27年12月：・早朝よりメンバー5名で志木駅東口駅前からゆりのき通りまでの間のゴミ拾いを中心に行った。
- 平成28年 2月：・早朝より丸井前広場から市場坂上までの本町通りの清掃活動を実施した。メンバー10名が参加。
- 平成28年 3月：・他のグループと連携の上、お披露目イベントに参加し、歩道上のごみ拾いを行うとともに、イベント参加者の交通事故防止等のための誘導活動に従事した。
- 平成28年 5月：・志木小学校周辺及び市民会館パルシティを中心とした地域で、街頭清掃活動を実施した。

テーマ3 本町通り観光AR（拡張現実）計画

【実践に向けた検討経過】

- 平成27年 7月：・行田市への視察を実施し、行田市で導入したARの評判や導入の仕方、経費などについて確認をした。
- 平成27年 8月：・三芳町への視察を実施し、三芳町で導入したARの評判や導入の仕方、経費などについて確認をした。結果、導入したアプリの基本利用料無料で諸費用もかからないことから、本まち会でも採用することにした。
 - カパルとのAR記念撮影スポットの作成
(本まち会のオリジナル・動画バージョン)
 - 今昔写真集の作成
(三芳町の広報紙において簡易なものが導入済)

○ 観光PRスライドショーの作成

(三芳町では約3秒の動画を名刺に導入している)

- 平成27年 9月：・志木市文化スポーツ振興公社へ協力依頼を行い、AR記念撮影のメインキャラクターにカパル使用の許可を得た。
・ニュータイムス社へ協力依頼を行い、今昔写真で使用するための本町通りの昔の写真のデータの提供を得た。
・グループ1とAR班による合同打合せ。
- 平成27年10月：・志木市秘書広報課へ写真提供依頼を行い、観光PRスライドショー作成のための写真の提供を得た。
- 平成28年 1月：・志木市文化スポーツ振興公社でカパルの撮影を実施。
- 平成28年 2月：・ベンチへのAR設定作業を実施し、実験的にベンチ番号1へARを設定した。
・(株)TKプランニングへAR不具合改善の依頼をし、後日、提供された情報により改善された。
・ベンチのAR設定作業として、ベンチ番号2から9にARを設定した。
・(有)アンジーにAR班の印刷依頼を行った。イベント用のチラシとポスター及びイベント告知とベンチ地図の印刷を発注した。
- 平成28年 3月：・志木駅構内のチラシ設置とポスター掲示を依頼した。
・カパルとの記念撮影ARは無事に作動したが、観光PR動画は不具合で再生できなかった。
・志木駅長に対し、イベントの成功報告とポスター掲示等のお礼をした。
・(有)アンジーに「広報しき」5月号折り込みチラシとベンチに貼るシールを発注した。
- 平成28年 4月：・ベンチにシール貼りを行い、9種類の観光PR動画が閲覧できるようになった。

(5) 幸町地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (10回)	1	平成26年7月6日（日）	・リーダー・サブリーダーの選出 ・今後の会議の進め方	15人
	2	平成26年8月3日（日）	・書記の指名について ・自己紹介 ・今後の会議の進め方	15人
	3	平成26年9月7日（日）	・幸町地区の気になることについて ・ブレインストーミング	13人
	4	平成26年9月27日（土）	・市計画策定における協力について ・テーマの絞り方 ・前回ブレインストーミングのまとめ	12人
	5	平成26年10月18日（土）	・問題点と解決方法についてブレインストーミング	11人
	6	平成26年11月9日（日）	・今後の進め方 ・問題点の整理	10人
	7	平成27年1月25日（日）	・全体研修会（2/8）について ・整理した課題から、今後の方向性を検討 ・幸町地区まちづくり会議の役割とは… ・幸町の強みについて	13人
	8	平成27年2月22日（日）	・幸町の強みについて強みについて ・基本方針と事業計画について	14人
	9	平成27年3月15日（日）	・基本方針（案）について キーワードは「つながり」 ・事業計画1について	12人
	10	平成27年3月29日（日）	・事業計画1について ギネスへの挑戦が実施可能か検討	13人
平成27年度 (21回)	11	平成27年4月19日（日）	・事業計画1について ギネスの検討、実施日について	12人
	12	平成27年5月17日（日）	・事業計画1について 実施日、内容について検討	10人
	13	平成27年5月31日（日）	・事業計画1（（仮称）さいわいフェスタ）について 会場、内容について検討	8人
	14	平成27年6月14日（日）	・事業計画1（（仮称）さいわいフェスタ）について 事業名、内容、日時、場所について決定	14人
	15	平成27年6月21日（日）	・事業計画1（幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～）について 当日レイアウト、スケジュール、予算等について検討	10人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (21回)	16	平成27年7月5日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 会場レイアウト、チラシ、スケジュール、各ブースについて検討	13人
	17	平成27年7月26日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 各種ブースについて進捗状況の報告、会場でフィールドワーク ・富士総合火力演習見学について	12人
	18	平成27年8月7日(金)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について フードエリアの食数、会場レイアウトについて検討	11人
	19	平成27年8月23日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 各ブースについて検討	14人
	20	平成27年9月6日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について チラシ、アンケート、Tシャツについて相談 ボランティアの依頼について	14人
	21	平成27年9月17日(木)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について レイアウト、人員配置、各ブース、当日スケジュールについて確認	11人
	22	平成27年10月4日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 雨天時について検討	14人
	23	平成27年10月18日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 最終調整	16人
	24	平成27年10月25日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 最終調整	10人
	25	平成27年11月1日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)について 最終確認	14人
	26	平成27年12月20日(日)	・事業計画1(幸町しあわせフェスタ～防災でつながろう～)の感想・反省 ・事業計画2(幸町ブック)について検討 ・ウェブの活用について	9人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (21回)	27	平成28年1月17日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について検討 ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）について検討 ・ウェブの活用について 	12人
	28	平成28年2月7日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について形態、内容などを検討 ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）について構成、案内文などについて検討 	13人
	29	平成28年2月21日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について担当テーマ、方向性決定 ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）について予算・構成について確認 ・活動実践報告書について 	13人
	30	平成28年3月6日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について担当テーマの進捗状況を報告 ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）について最終調整 ・活動実践報告書について 	11人
	31	平成28年3月19日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について担当テーマの進捗状況を報告 ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）について最終確認 	12人
平成28年度 (2回)	32	平成28年4月17日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画3（幸町フェスタ報告会）の報告 ・事業計画2（幸町ブック）について各テーマについて最終チェック ・活動実践報告書について 	12人
	33	平成28年5月29日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画2（幸町ブック）について全体の最終チェック 	13人

(6) 館地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (9回)	1	平成26年7月6日（日）	(1) 自己紹介 (2) リーダー・サブリーダーの決定 (3) その他	21人
	2	平成26年8月10日（日）	(1) 館地区まちづくり会議運営規定（案）について (2) その他	18人
	3	平成26年9月7日（日）	(1) 第1回リーダー会議について（報告） (2) 問題点・課整理シートに基づく討議 (3) その他	19人
	4	平成26年10月5日（日）	(1) 前回振り返り (2) 議論の進め方について (3) 課題・グループ討議 (4) その他	20人
	5	平成26年11月2日（日）	(1) グループワーク	20人
	6	平成26年12月7日（日）	(1) グループワーク	19人
	7	平成27年1月11日（日）	(1) グループワーク	22人
	8	平成27年2月8日（日）	(1) グループワーク	20人
	9	平成27年3月8日（日）	(1) ワークショップ	19人
平成27年度 (13回)	10	平成27年4月12日（日）	(1) 第4回リーダー会議の報告 (2) 事業化アイデアについて (3) その他	13人
	11	平成27年5月31日（日）	(1) リーダー・サブリーダー会議の概要報告 (2) 提案書の発表と質疑応答	17人
	12	平成27年6月7日（日）	(1) 今期事業化テーマの選択（実施に向けて絞り込み）について (2) 市政運営への“提言書”作成活動について (3) 事業化テーマの実践活動	15人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (13回)	13	平成27年6月28日（日）	(1) 事業化テーマの実践活動 (2) 中間報告会の内容について (3) その他	16人
	14	平成27年7月12日（日）	(1) 中間報告会について (2) 事業化テーマの実践活動	18人
	15	平成27年8月2日（日）	(1) 地区まちづくりビジョン（素案）配布の経緯について (2) アンケートについて (3) グループ討議 (4) その他	15人
	16	平成27年9月6日（日）	(1) アンケートについて (2) シンポジウムについて	15人
	17	平成27年10月4日（日）	(1) アンケートについて (2) シンポジウムについて	14人
	18	平成27年11月1日（日）	(1) シンポジウムについて (2) アンケートについて	13人
	19	平成27年12月13日（日）	(1) アンケートについて (2) シンポジウムについて	12人
	20	平成28年1月10日（日）	(1) アンケートについて (2) シンポジウムについて	14人
	21	平成28年2月14日（日）	(1) アンケートについて (2) シンポジウムについて	13人
	22	平成28年3月13日（日）	(1) シンポジウムについて	13人
平成28年度 (3回)	23	平成28年4月10日（日）	(1) 活動実践報告書の作成について	10人
	24	平成28年5月8日（日）	(1) 活動実践報告書の作成について	8人
	25	平成28年6月5日（日）	(1) 活動実践報告会について	17人

※月に一度の定例会のほか

●臨時会・・・全3回

代表者会議・・・【アンケート事業】全1回

【シンポジウム事業】全7回 開催

(7) 柏町地区まちづくり会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (10回)	1	平成26年7月10日（木）	・自己紹介 ・今後の会議の進め方	22人
	2	平成26年8月5日（火）	・ワールドカフェ	22人
	3	平成26年8月28日（木）	・KIT-PT法によるまとめ	22人
	4	平成26年9月25日（木）	・グループワーク	21人
	5	平成26年10月30日（木）	・具体的取組の提示と分類	19人
	6	平成26年11月27日（木）	・グループワーク	17人
	7	平成26年12月21日（日）	・フィールドワークの実施	18人
	8	平成27年1月22日（木）	・フィールドワークの振り返り ・先進事例紹介	18人
	9	平成27年2月26日（木）	・全体研修会の振り返り ・やりたいこと具体化シートのまとめ	17人
	10	平成27年3月26日（木）	・事業の点数化	20人
平成27年度 (14回)	11	平成27年4月23日（木）	・事業の点数化	16人
	12	平成27年5月28日（木）	・課題の報告 ・グループワーク	20人
	13	平成27年6月25日（木）	・事業の着手点について ・中間報告会の役割分担について	18人
	14	平成27年7月23日（木）	・具体的コンテンツやカテゴリーについて	19人
	15	平成27年8月27日（木）	・情報紙に掲載するカテゴリーや記事づくりについて	20人
	16	平成27年9月24日（木）	・レイアウトについて	20人
	17	平成27年10月22日（木）	・情報紙の発行形態やスケジュール及び配布方法について	18人
	18	平成27年11月26日（木）	・情報紙面の割り振りや題名及び発行趣旨について	19人
	19	平成27年12月17日（木）	・各グループの進捗状況について ・グループワーク	17人
	20	平成28年1月14日（木）	・かしわなほっとぷれすの校正について	18人

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (14回)	21	平成28年1月28日（木）	・かしわなほっとぷれすの校正について	20人
	22	平成28年2月11日（木）	・かしわなほっとぷれすの校正について ・活動実践報告書の構成について	18人
	23	平成28年2月25日（木）	・かしわなほっとぷれす第2号の発行について	16人
	24	平成28年3月17日（木）	・かしわなほっとぷれす第2号について ・活動実践報告書（提言書）の作成について	18人
平成28年度 (3回)	25	平成28年4月14日（木）	・活動実践報告書（提言書）について ・かしわなほっとぷれす第2号について	16人
	26	平成28年5月19日（木）	・活動実践報告書（提言書）について ・活動実践報告会の役割分担について ・かしわなほっとぷれす第2号について	15人
	27	平成28年6月16日（木）	・活動実践報告会について ・今後の活動について	15人

2 地区まちづくり推進本部会議開催状況

回数	期日	内容・議題		対象
1	平成26年11月4日(火)	「地区まちづくり会議」の進捗状況について	平成27年度の事業実施に向けた補助金の交付について	市長、他執行部
2	平成27年6月22日(月)	「地区まちづくり会議」の進捗状況について	各「地区まちづくり会議」の進捗状況について	市長、他執行部
3	平成28年1月5日(火)	第二期「地区まちづくり会議」のスケジュールについて	第二期地域担当制及び「地区まちづくり会議」委員募集スケジュールについて	市長、他執行部

3 地区まちづくり会議リーダー会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容(議題)	出席者数
平成26年度 (4回)	1	平成26年8月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 各地区リーダー・サブリーダー及び事務局職員との顔合わせ 「地区まちづくり会議」共通事項等 	23人
	2	平成26年11月17日(火)	各「地区まちづくり会議」の状況について	18人
	3	平成27年1月27日(火)	平成27年度の「地区まちづくり会議」の運営について	19人
	4	平成27年3月19日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 補助金交付の手続きについて 事業のPRについて 今後のスケジュールについて 	22人
平成27年度 (4回)	5	平成27年5月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告会について 事業実施に伴う申請及び問い合わせ先について 各地区の進捗状況について 	20人
	6	平成27年7月16日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告会の検証について 広報紙への掲載について 今後の活動について 	21人
	7	平成27年12月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 活動実践報告書の作成について 今後のスケジュールについて 各地区まちづくり会議の状況について 	18人
	8	平成28年3月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 事業費補助金の精算について 活動実践報告書の作成について 今後のスケジュールについて 	18人
28平成 年度	9	平成28年5月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 活動実践報告書の作成について 活動実践報告会について 	21人

4 地区担当長連絡会議開催状況

年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成26年度 (11回)	1	平成26年4月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民委員の募集要領について ・活動実践報告書等の書式について ・今後の活動について 	10人
	2	平成26年5月8日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・「地区まちづくり会議」住民委員の募集について 	10人
	3	平成26年5月22日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民委員の応募状況について ・PR キャンペーンの実施について ・地区担当職員懇親会について 	10人
	4	平成26年6月2日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民委員の応募状況について ・今後の募集について 	10人
	5	平成26年6月16日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民委員の応募状況について ・今後の進捗について 	9人
	6	平成26年6月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・「地区まちづくり会議」の今後の進め方について ・「地区まちづくり会議」開催に伴う会場予約について 	10人
	7	平成26年7月7日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・「地区まちづくり会議」シンポジウムについて ・「地区まちづくり会議」の開催について 	10人
	8	平成26年7月22日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・市関係計画の策定における協力について ・「地区まちづくり会議」シンポジウムについて ・今後について 	9人
	9	平成26年10月22日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の状況について ・活動実践報告書等の書式について ・今後の活動について 	9人
	10	平成27年1月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の事業実施等について ・全体研修会について 	10人
	11	平成27年3月19日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の事業補助金について ・平成27年度の事業実施について 	10人
平成27年度 (5回)	12	平成27年5月14日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会について ・事業実施に伴う申請及び問い合わせ先について ・各地区の進捗状況について 	10人
	13	平成27年7月16日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会の検証について ・広報紙への掲載について ・今後の活動について 	10人

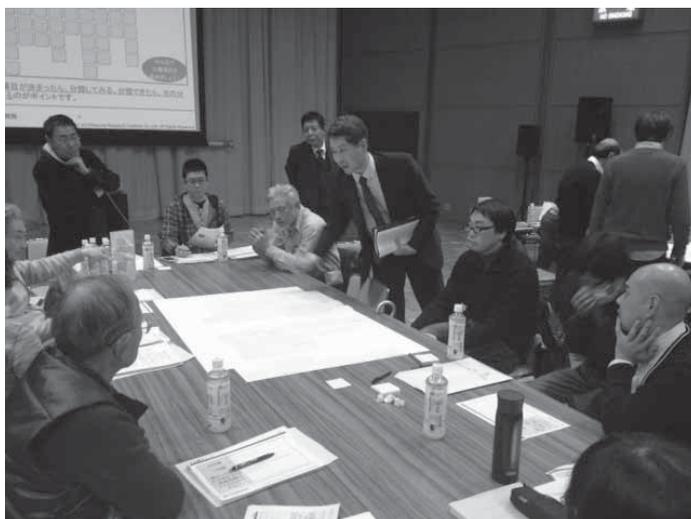
年度	回数	期日	主な内容（議題）	出席者数
平成27年度 (5回)	14	平成27年10月21日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・「地区まちづくり会議」事業実施における事務局の対応について ・「地区まちづくり会議」事業実施における市長のあいさつ等について ・平成28年度予算について ・ホームページ等について 	10人
	15	平成27年12月22日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実践報告書の作成について ・第二期委員等の募集について ・今後のスケジュールについて ・各「地区まちづくり会議」の状況について 	9人
	16	平成28年2月19日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実践報告書の作成について ・「地区まちづくり会議」活動実践報告書作成に係る共通書式について 	10人
平成28年度 (2回)	17	平成28年4月15日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実践報告書の作成について ・第二期まちづくり会議について 	9人
	18	平成28年5月27日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実践報告書について ・活動実践報告会について ・任期終了後の活動について ・第二期住民委員の募集について 	10人



5 研修会等の開催状況

◆ 研修会

回数	期日・場所	内容・議題	講師等	対象
1	平成26年5月20日(火) 志木市役所 3階301・302会議室	「地区まちづくり 会議」に係る総論 について	講師 名和田 是彦氏 (法政大学法学部教授)	地区担当 職員
2	平成26年6月26日(木) 志木市役所 3階301・302会議室	「地区まちづくり 会議」に係る実践 について	講師 小田 賢治氏 (千葉県佐倉市自治人権推進課市民活動推進班)	地区担当 職員
3	平成27年2月8日(日) 総合福祉センター 1階ホール	協働によるまちづ くりセミナー	講師 藤原 明氏 (りそな総合研究所 リーナルビジネス部長)	全体



◆ シンポジウム

期日・場所	講師等	対象
平成26年7月26日(土) 志木市民会館ホール いろは遊学館3階ホール	<p>【基調講演「市民自らが進めるまちづくり」】 講師 名和田 是彦 氏 (法政大学法学部教授)</p> <p>【パネルディスカッション 「地区まちづくり会議の実施について」】 コーディネーター：名和田 是彦 氏 (法政大学法学部教授)</p> <p>パネリスト1：為井 俊充 氏 (地区住民委員及び朝霞青年会議所理事長)</p> <p>パネリスト2：小田 賢治 氏 (千葉県佐倉市自治人権推進課市民活動推進班)</p> <p>パネリスト3：石塚 匠 氏 (地区担当職員)</p>	全体



◆ 中間報告会

期日・場所	内容等	対象
平成27年7月5日(日) 総合福祉センター 1階ホール	7地区のこれまでの経過や進捗状況、今後の方向性などを発表・報告することを目的として開催。	全体

◆ 活動実践報告会

期日・場所	内容等	対象
平成28年6月19日(日) 志木市民会館 2階203～205会議室	活動経過、地区課題を解決に結びつけるための事業内容及び今後のまちづくりの手法なども記した活動実践報告を目的として開催。	全体



6 各種要綱・規程

(1) 志木市地区まちづくり会議設置要綱

(設置)

第1条 市民と市の職員がまちづくりの推進のための課題を共有し、市民協働により当該課題の解決を図るため、地区ごとに、地区住民及び地区担当職員によって構成するまちづくりの推進のための会議（以下「地区まちづくり会議」という。）を設置する。

(定義)

第2条 この要綱において使用する用語は、志木市地区担当職員設置規程（平成26年志木市訓令第4号）において使用する用語の例による。

(所掌事項)

第3条 地区まちづくり会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地区におけるまちづくりの課題の発見及び解決に関すること。
- (2) 地区におけるまちづくりの計画の策定に関すること。
- (3) 市民協働によるまちづくり事業の実施に関すること。
- (4) 地域の振興に資する人材の発見及び活用に関すること。
- (5) 市政に関する意見及び提言に関すること。
- (6) その他設置の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(組織等)

第4条 地区まちづくり会議は、地区ごとに、おおむね20人の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

- (1) 公募による地区住民
- (2) 地区担当職員

3 前項第1号に規定する公募に応募しようとする地区住民は、別に定める応募票を市長に提出するものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年以内とする。

(リーダー及びサブリーダー)

第6条 地区まちづくり会議に、リーダー1人及びサブリーダー2人を置く。

2 リーダーは、第4条第2項第1号に掲げる者のうちから、サブリーダーは、同項各号に掲げる者のうちからそれぞれ1人ずつ選出する。

3 リーダーは、会務を総理し、地区まちづくり会議を代表する。

4 サブリーダーは、リーダーを補佐し、リーダーに事故があるとき、又はリーダーが欠けたときは、あらかじめリーダーが指定したサブリーダーがその職務を代理する。

(会議)

第7条 地区まちづくり会議は、リーダーが招集し、その議長となる。

2 リーダーは、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は助言、資料の提出その他の協力を求めることができる。

(市の責務)

第8条 市は、地区まちづくり会議から意見及び提言が提出されたときは、これを尊重し、必要があると認めるときは、適切な措置を講じなければならない。

(地区住民の責務)

第9条 地区住民は、地区まちづくり会議において当該地区のまちづくりの計画を策定したときは、これを尊重し、地区住民自らによるまちづくりの推進に努めなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第10条 委員への報酬及び会議出席等に係る費用弁償は、これを支出しないものとする。

(リーダー会議)

第11条 地区におけるまちづくりに関する情報交換を行うため、リーダー会議を設けるものとする。

2 リーダー会議は、各地区のリーダー及びサブリーダーをもって組織する。

(会議の記録等)

第12条 リーダーは、地区まちづくり会議の経過及び結果を記録し、地域推進室へ報告しなければならない。

2 地域推進室長は、地区まちづくり会議及びリーダー会議の経過及び結果を

記録し、保管しておかなければならない。

3 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第13条 地区まちづくり会議の庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、地区まちづくり会議の運営に関し、必要な事項は、地区ごとにリーダーが別に定める。

附 則

この告示は、平成26年7月1日から施行する。

この告示は、平成26年10月10日から施行する。

(2) 志木市地区担当職員設置規程

(趣旨)

第1条 この規程は、広聴及び広報に関する活動並びにまちづくりの担い手として、地区（上宗岡、中宗岡、下宗岡、本町、幸町、館及び柏町のそれぞれ全域をいう。以下同じ。）におけるまちづくりを担当する職員（以下「地区担当職員」という。）を設置することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 市は、各地区に地区担当職員を置く。

2 地区担当職員は、次に掲げる職員のうちから市長が任命する。

(1) 公募に係る応募をした職員

(2) 部局長が推薦し、市長が指名する職員

3 地区担当職員の人数は、1の地区ごとに、次の表の左欄に掲げる職名の区分に応じ、同表の右欄に定める人数とする。

職名	人数
主幹又は専任主幹	1人
主査	1人
主任、主事、主事補、技師、技師補、栄養士、保育士又は保健師	3人

4 1の地区に担当長1人を置き、主幹又は専任主幹の職にある職員をもって充てる。

5 1の地区に副担当長1人を置き、主査の職にある職員をもって充てる。

(職務)

第3条 地区担当職員は、自己の職務に支障のない限り、次に掲げる職務を行う。

(1) 市政に関する情報提供に関すること。

(2) 地区住民及び地区担当職員によって構成するまちづくりの推進のための会議の調整に関すること。

(3) 地区におけるまちづくり事業に対する支援に関すること。

(4) 地区におけるまちづくりの計画の策定に対する助言に関すること。

(5) 地区住民からの市に対する意見、要望等の聴取に関すること。

(6) その他設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 担当長は、当該担当長の所属する地区における地区担当職員の事務を掌理し、その事務を処理するため、地区担当職員を指揮監督する。

3 副担当長は、担当長を補佐し、担当長に事故があるとき、又は担当長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第4条 地区担当職員の任期は、2年以内とする。

(報告)

第5条 担当長は、地区担当職員が第3条第1項各号に掲げる職務を行ったときは、地区担当職員活動報告書(別記様式)により当該職務を行った日から14日以内に市長に報告しなければならない。

2 市長は、前項の規定による報告に基づき、地区担当職員及び関係職員に対し、必要な指示を与えることができる。

(会議)

第6条 地区におけるまちづくりの推進のための課題の把握及び情報交換を行うため、地区担当長連絡会議及び地区担当職員連絡会議を設けるものとする。

2 地区担当長連絡会議は、各地区の担当長をもって組織する。

3 地区担当職員連絡会議は、各地区の地区担当職員をもって組織する。

(会議の記録等)

第7条 地域推進室長は、地区担当長連絡会議及び地区担当職員連絡会議の経過及び結果を記録し、保管しておかななければならない。

2 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第8条 地区担当職員に関する庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、地区担当職員に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この訓令は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この訓令は、平成26年10月10日から施行する。

(任期の特例等)

- 3 この訓令の施行の日後最初に任命する地区担当職員の任期は、第4条の規定にかかわらず、任命の日から平成28年6月30日までとする。
- 4 地区担当職員の任期中に職名の変更があったときは、当該地区担当職員の任期が満了する日までの間において、引き続き任命された日の職名の区分に応じて職務を行うものとする。

(3) 志木市地区まちづくり推進本部設置規程

(設置)

第1条 社会経済情勢の変化に伴い多様化する市民の需要に的確に対応する仕組みを実現するとともに、市民協働によるまちづくりを推進するため、志木市地区まちづくり推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 本部は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 地区担当職員（志木市地区担当職員設置規程（平成26年志木市訓令第4号。以下「職員規程」という。）第1条に規定する地区担当職員をいう。）に関すること。
- (2) 地区まちづくり会議（志木市地区まちづくり会議設置要綱（平成26年志木市告示第27号）第1条に規定する地区まちづくり会議をいう。）に関すること。
- (3) 市民協働による地区（職員規程第1条に規定する地区をいう。）におけるまちづくりの推進に関すること。

(構成)

第3条 本部に、本部長、副本部長及び本部員を置く。

- 2 本部長は、市長をもって充て、副本部長は副市長及び教育長をもって充てる。
- 3 本部員は、部長、会計管理者及び議会事務局長をもって充てる。

(本部長及び副本部長)

第4条 本部長は、本部を統括する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、あらかじめ本部長の指名した副本部長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 本部の会議（以下「会議」という。）は、本部長が招集する。

- 2 会議の議事進行は、市民生活部長が行う。
- 3 本部長は、必要があると認めるときは、会議に、当該会議の議題に係る職員を出席させることができる。

(会議の記録等)

第6条 地域推進室長は、会議の経過及び結果を記録し、保管しておかなければならない。

2 地域推進室長は、前項の規定により記録した書面を、別に定めるところにより公表するものとする。

(庶務)

第7条 本部の庶務は、市民生活部地域推進室において処理する。

(その他)

第8条 この訓令に定めるもののほか、本部の運営について必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成26年4月1日から施行する。

この訓令は、平成26年10月10日から施行する。

担当 志木市
地域推進室
(市民活動推進課内)